

科目名	日本美術史（1美デ）			開講学年	1	講義コード	1670101	区分	選択		
英文表記	History of Japanese Art			開講期	集中	開講形態		単位数	4		
担当教員	中村玲（非常勤） 大久保範子（非常勤）										
研究室	芸術学部 非常勤講師室					オフィス アワー 授業時間前後の非常勤講師室					
メールアドレス	norikontakt@gmail.com										
キーワード	日本美術 仏教 浮世絵										
授業概要	<p>(前期分) 先史時代から中世の日本の美術と文化を概観し、基本的な流れや様式の変遷を理解する。美術作品の画像や映像を鑑賞し、歴史的、文化的な事情を踏まえうえて、それらの作品があらわれた背景や造形的な特質について学んでいく。また、当時の美術作品と、私たちが生きる現代社会との関わりなどについても検討していきたい。(後期分) 近世に入ると、美術は上層の権力者のためのものから市井の人々を包括するものへと裾野が広がった。それに伴い美術の形式も多様化し、様式も時勢を反映して目まぐるしく展開していくこととなる。とくに「制作者」と「享受者」の関係性がより近くなったという点は、近世以降の日本美術に多大な影響を及ぼしたといえる。本講義では、日本における様式変遷とその背景を各時代の代表的な美術作品を通して概観するとともに、日本美術の特質についてその諸相を検討する。また作家たちがどのような姿勢で作品制作に向かっていたのかに注目することで、東洋、西洋、現代の美術と文化にも理解を広げ、鑑賞にとどまらない制作のヒントを得るためのアプローチについても考えていきたい。</p>							関連科目			
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)							学修・教育目標			
								JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	時代による様式の変遷を理解する									
	②	おのおのの時代の美術の特徴を把握する									
	③	日本美術の代表的な作品・作家についての知識を身につける									
	④	日本美術についての基礎的な知識を鑑賞の際に役立てることができる									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	45	45	0	0	0	0	10	0	100		
教科書	授業の中で指示する。 毎回資料を配布する。										
参考書	すぐわかる日本の絵画 東京美術 守屋正彦 日本美術館 小学館 青柳正規、他 カラー版 日本美術史 美術出版社 辻惟雄監修										

予備知識	<p>図書館などで美術全集などの書籍を閲覧し、基礎知識を取得しておくことが望ましい。本講義は、美術史に関する演習や特論を受講する上での基礎科目であり、受講後は関心をもった分野について、より深い理解につなげるための自主的な学びの継続が期待される。</p>
DPとの関連	<p>本講義は、日本美術に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とするものである。そのため美術・デザイン領域の専門家としての基礎的な力を身につけることができる。加えて、各時代の社会における美術の役割についても総合的に修得できることを目指すため、ひいては現代の課題を発見・解決する能力を涵養することでできるだろう。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>①時代による様式の変遷を理解する ②おのおのの時代の美術の特徴を把握する ③日本美術の代表的な作品・作家についての知識を身につける ④日本美術についての基礎的な知識を鑑賞の際に役立てることができる</p>

毎回パワーポイントによるスライドを使用するため、必要に応じて筆記すること。試験は授業プリントの持ち込み可なので、適宜メモをとり内容の理解に努めること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は、不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	イントロダクション・先史時代の美術 日本美術史という学問や、授業の進め方等について説明を行う。縄文時代から弥生時代の美術を概観する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
2回	テーマ 内容	古墳壁画と副葬品 主に九州地方に所在する古墳を中心に、権力者を祀るために描かれた壁画や、さまざまな副葬品について紹介する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
3回	テーマ 内容	仏教絵画と古代寺院 飛鳥時代に朝鮮半島から伝来した仏教絵画と、法隆寺などの古代寺院および伽藍について解説する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
4回	テーマ 内容	正倉院宝物 奈良時代の聖武天皇の遺愛品であり、国際色豊かな正倉院宝物を鑑賞する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
5回	テーマ 内容	密教美術 平安時代前期に、密教の展開とともに誕生した絵画、彫刻などについて説明する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
6回	テーマ 内容	浄土教美術・垂迹美術 平安時代後期の浄土信仰に伴って生まれた美術を概観する。神像彫刻に代表される、垂迹美術について学習する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
7回	テーマ 内容	王朝文化と物語絵 平安時代後期までにあらわれた、王朝文化を背景とした「源氏物語絵巻」のほか、さまざまな絵巻物について学ぶ。美術作品にさらに親しみを持ってもらうため、絵巻の複製品を用いた取り扱い実習も行う。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
8回	テーマ 内容	慶派の彫刻 鎌倉時代を代表する、蓮慶や快慶らの仏教彫刻について講義する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
9回	テーマ 内容	肖像画 鎌倉時代の武家文化の台頭を背景に描かれた肖像画について紹介する。美術作品にさらに親しみを持ってもらうため、掛軸の複製品を用いた取り扱い実習も行う。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
10回	テーマ 内容	禅宗と水墨画 鎌倉時代に伝来した、禅宗に関するさまざまな美術、特に水墨画について解説する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ 土佐派とやまと絵	室町時代を中心に菅絃絵所を支配した土佐派によるやまと絵について講じる。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
12回	テーマ 障壁画と城郭建築	安土桃山時代の天下人が好み、彼らの住まいを装飾した大画面の障壁画や、城郭建築の構造について紹介する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
13回	テーマ 狩野派	室町時代以降に活躍し、日本絵画史上、最大の流派となり御用絵師の頂点に立った狩野派について学ぶ。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
14回	テーマ 戦国武将たちの装い・南蛮美術	安土桃山時代を中心に、戦国武将たちが戦の場で好んだ衣装や具足などの独特な造形を鑑賞する。ヨーロッパ文化の影響を受け、九州地方に大いに関連する南蛮美術について学ぶ。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
15回	テーマ まとめ・ディスカッション・試験	講義や実習のまとめを行う。これまでに学んだ日本美術についての興味や関心、魅力に関するディスカッションをし、試験を実施する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
16回	テーマ 江戸時代の美術Ⅰ	狩野派と土佐派 享受者の違いによって美術の形態および様式はどのように変容していったのかを考える。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
17回	テーマ 江戸時代の美術Ⅱ	琳派の系譜 江戸時代を通じ私淑によって展開していった琳派の特質について学ぶ。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
18回	テーマ 江戸時代の美術Ⅲ	“流派”を離れた絵師たち 狩野派や土佐派といった主流から離れた絵師らの作品を鑑賞する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
19回	テーマ 江戸時代の美術Ⅳ	江戸前期における工芸意匠 絵画と江戸前期の工芸意匠にみられる影響関係から日本美術の特質を考察する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
20回	テーマ 江戸時代の美術Ⅴ	文人画 専門の画家とは異なる文人画家とその作品に着いて学ぶ。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ 江戸時代の美術Ⅵ	京都画壇の画家たち 応挙らをほじめてした京都画壇の個性あふれる作品を鑑賞する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
22回	テーマ 江戸時代の美術Ⅶ	初期浮世絵と錦絵の誕生 初期の肉筆浮世絵から錦絵が誕生するまでの作品と時代背景を学ぶ。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
23回	テーマ 江戸時代の美術Ⅷ	浮世絵の黄金期 錦絵の黄金期に生み出された作品を鑑賞し、浮世絵独特の特徴を考察する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
24回	テーマ 江戸時代の美術Ⅸ	相撲絵の作品 相撲絵の作品から浮世絵において相貌および身体描写がどのように展開したのかについて学ぶ。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
25回	テーマ 幕末から明治にかけての美術	幕末から明治の浮世絵 幕府や政府による様々な庄下方、絵師たちがどのように作品を生み出したのかについて考察する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
26回	テーマ 明治期から大正にかけての美術	「美術」の誕生 西洋化が進む日本で美術がどのように展開していったのかを整理する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
27回	テーマ 幕末以降の工芸分野	幕末以降、「美術」の評価に二石を投じた「生き人形」や「民藝運動」の作品を鑑賞する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
28回	テーマ 大正の美術	大正期、画壇のアカデミズムに反発し独学で作品を描いた画家たちの作品を鑑賞する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
29回	テーマ 戦後～現代の美術	戦後の「反芸術」をめぐる展開に象徴される「美術」の多様化について考察する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
30回	テーマ 現代の美術	現代の作品や作家たちから日本の美術がどのように変容しているのかについて総括する。	講義	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60

科目名	西洋美術史(1美デ)(通年)				開講学年	1	講義コード	1670201	区分	選必	
英文表記	History of Western Art				開講期	通年	開講形態		単位数	4	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala @art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	美術史 西洋絵画 芸術鑑賞										
授業概要	本講義はルネサンスから20世紀の西洋美術の歴史(動向)について、ルネサンス以降、西洋人にとって「美」となるものがどのように捉えられ、その造形美を生み出してきたか、その変遷を巡り、日本と東洋の動向をも比較しながら理解していく。また、芸術作品の中に潜む理念や概念、表現の傾向、作者の意図作風、さらにはその芸術作品が生み出された社会状況も考慮しながら、西洋美術の視覚イメージの諸相から世界のものの方の見方、考え方を読み解いていく。また、本講義の視覚的思考法を通じて汎用的な観察力・審美眼を養う。作品カード①②の結果を9の授業で、また夏休みの課題(展評・書評)については21の総括の際にフィードバックする。							関連科目			
								すべての芸術学部開講科目に関連する。			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	各回の内容を通して、芸術に関する基礎的な知識・ものの見方・考え方を理解できる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	45	0	15	0	15	10	15	100		
教科書	特に指定しない。										
参考書	イメージ・リテラシー工場 フランスの新しい美術鑑賞 フィルム・アート社 J=クロード・フォザ他 イメージを読むー美術史入門ー 筑摩書房 若桑みどり 美術を書く 東京美術 S.パーネット著/竹内順一監訳 補新装カラー版 西洋美術史 美術出版社 高階秀爾監修 反アート入門 幻冬社 樫木野衣										

予備知識	特になし。
DPとの関連	造形活動や芸術文化研究における基礎的な知識、ものの見方・考え方を学ぶ。
実務経験のある教員	
評価明細基準	平常点・前・後期の定期試験、レポート類(展覧会レビュー(2点)、書評(2点)作品カード(2枚))で評価する。前期・後期各100点の平均を出してそれを成績とする。

通年の授業であるので、前期・後期を通じて受講しないと単位取得できません（履修登録は前期のみ）。単位取得の条件は①出席3分の2以上②定期試験受験③授業中の課題提出をすべて満たしていること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 総論 美術史とは?(第1,2回)	内容	講義	1の配布資料の復習。	180
2回	テーマ 美術史入門 美術史を記述する。(第3回)	内容	講義	2の配布資料の復習。	90
3回	テーマ ものを見るとは1 視覚イメージを読むI(第4,5回)	内容	講義	3の配布資料の復習。	180
4回	テーマ ものを見るとは2 視覚イメージを読むII(第6,7回)	内容	講義	課題:木を簡略して描く。	180
5回	テーマ 初期ルネサンス美術1 建築・彫刻(第8,9回)	内容	講義	5の配布資料の復習。作品カード作成①	180
6回	テーマ 初期ルネサンス美術2 絵画(第10,11回)	内容	講義	作品カード作成①	180
7回	テーマ 盛期ルネサンス美術 建築・絵画・彫刻(第12,13回)	内容	講義	7の配布資料の復習。作品カード作成②	180
8回	テーマ マニエリスム 建築・絵画・彫刻(第14回)	内容	講義	8の配布資料の復習。	90
9回	テーマ 前期総括 前期定期試験(第15回)	内容	講義	定期試験	90
10回	テーマ 15世紀の北方美術・北方ルネサンス 建築・絵画・彫刻(第16,17回)	内容	講義	10の配布資料の復習。	180

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	バロック①	講義	11の配布資料の復習。	180
	内容	イタリヤ・フランス(南ネーデルラント)(第18,19回)			
12回	テーマ	バロック②	講義	12の配布資料の復習。	180
	内容	オランダ・スペイン・フランス(イギリス・ドイツ)(第20,21回)			
13回	テーマ	ロココの美術	講義	13の配布資料の復習。	90
	内容	18世紀の美術(第22回)			
14回	テーマ	近代美術とは？	講義	14の配布資料の復習。	90
	内容	「神が死んだ」の巻(第23回)			
15回	テーマ	近代1	講義	15の配布資料の復習。	90
	内容	新古典主義と革命期の美術(第24回)			
16回	テーマ	近代2	講義	16の配布資料の復習。	90
	内容	ブレ・ロマン主義/ロマン主義(フランス)(第25回)			
17回	テーマ	近代2	講義	テーマ特集の復習。	180
	内容	テーマ特集:絵画と鉄道/ロマン主義(イギリスなど)(第26,27回)			
18回	テーマ	近代3	講義	18の配布資料の復習。	90
	内容	写実主義とその時代(第28回)			
19回	テーマ	近代4	講義	18の配布資料の復習。	90
	内容	写真の時代(第29回)			
20回	テーマ	近代5	講義	20の配布資料の復習。	90
	内容	印象主義・象徴主義・後期印象主義、そして世紀末芸術へ(第30回)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	総括	講義	後期定期試験 目標到達レポート作成	90
	内容	後期定期試験(第31回)			

科目名	西洋彫刻論（1美デ）			開講学年	1	講義コード	1670301	区分	選択		
英文表記	History of Western Sculpture			開講期	後期	開講形態		単位数	2		
担当教員	関根 浩子										
研究室	A313					オフィス アワー 金曜3限					
メールアドレス	seki1963@art.sajo-u.ac.jp										
キーワード	彫刻 西洋美術史										
授業概要	<p>本学科の人材育成の目標の一つ芸術・文化における多様な基礎的知識と教養を身に付けることがあるが、中でも本科目は教職を目指す学生の必修科目となっている。本科目では古代ギリシア・ローマから近代までの西洋彫刻の流れを代表的な作家や作例を挙げて解説しながら概説する。今年度も、古代ギリシアからバロックまでの彫刻の流れを代表的な作例や作家を挙げながら概説して基礎的知識を養うとともに、彫刻の主な展開場所であった建築に関しても基礎的な知識の習得や用語の習熟を目指す。さらに学生が美術教諭を目指すことを想定し、将来の鑑賞教育授業や制作活動の示唆になるよう、西洋彫刻と日本や東洋、現代の彫刻や建築、文化との関わりなどにも言及して理解を広げていきたい。さらに中間試験後、結果をフィードバックし、後半の授業や最終定期試験に備えられるようにする。</p>							関連科目			
								西洋美術史、美術領域論Ⅱ ほか			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	彫刻の様式の流れや様式の変遷と時代背景との関係が理解できるようになる。									
	②	時代を画するような彫刻家とその作品や技法が理解できるようになる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	35	40	0	0	0	0	10	15	100		
教科書	授業の中で配布する。										
参考書	世界美術大全集 第3～5、第7～13巻、15、16巻 小学館 大系世界の美術 第5、6、10、12～14、16巻 学習研究社 世界の彫刻 1000の偉業 二玄社 ジョゼフ・マンカ他 杉山昌夫訳 彫刻—その制作過程と原理— 中央公論美術出版社 ルドルフ・ワイトコウアー 池上忠治監訳										

予備知識	特になし
DPとの関連	造形活動や美術教育、芸術文化研究における専門家となり、人間社会の構築や発展に貢献できるように、基礎的知識を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	成績の評価は、小(中間)試験(35点)と定期試験(40点)、その他(15点)、ポートフォリオ(10点)によって行い、合計60点以上を合格とする。

中間試験と定期試験の両方を必ず受ける必要がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	古代	講義	1回目の配布資料の復習	40
	内容	オリエンテーション導入、古代ギリシアの彫刻			
2回	テーマ	古代	講義	2回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/アルカイック			
3回	テーマ	古代	講義	3回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/アルカイック～クラシック(厳格様式期)			
4回	テーマ	古代	講義	4回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/クラシック(厳格様式期～盛期クラシック様式期)			
5回	テーマ	古代	講義	5回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/盛期クラシック(パルテノン神殿)			
6回	テーマ	古代	講義	6回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/後期クラシック			
7回	テーマ	古代	講義	7回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/ヘレニズム彫刻			
8回	テーマ	中間試験	試験・講義	1～7回目の復習	180
	内容	古代ギリシア/ヘレニズム彫刻/中間試験			
9回	テーマ	中世	講義	フィードバックした点について再復習、8回目の配布資料の復習	40
	内容	中間試験のフィードバック/初期キリスト教美術における彫刻			
10回	テーマ	中世	講義	9回目の配布資料の復習	40
	内容	ロマネスク彫刻			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	中世	講義	10回目の配布資料の復習	40
	内容	ゴシック彫刻			
12回	テーマ	ルネサンス	講義	11回目の配布資料の復習	40
	内容	初期ルネサンス(ラファエッティ洗礼堂門扉ゴシック)			
13回	テーマ	ルネサンス	講義	12回目の配布資料の復習	40
	内容	初期ルネサンスの彫刻家～ミケランジェロ			
14回	テーマ	盛期ルネサンス～バロック	講義	13回～14回の配布資料の復習、定期試験準備	180
	内容	盛期ルネサンス～バロック(ミケランジェロとその追随者、バロックのベルニニまで)			
15回	テーマ				
	内容	定期試験			

科目名	基礎デッサンⅠ(1美)			開講学年	1	講義コード	1670401	区分	選択	
英文表記	basic drawingⅠ			開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	勝野 眞言 (実務経験)									
研究室	L号館A104					オフィス アワー 火・放課後				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	空間、量感、線、面									
授業概要	<p>二次元空間の基本要素である点、線、面、またはその連続により生じる形体の持つ動勢、機能について考え、観察を通してその視覚表現の方法の可能性をデッサン・スケッチを通して探る。静物や人物に見出される緊張感や躍動感、バランスの美しさといった様々な美的要素をデッサンの量と枚数を通して追及することを目的とする。これは現代の幅広い美術活動の根とも言うべき、大切な勉強である。制作途中、随時互いに鑑賞する時間を持ち合い(講評会)、お互いの表現の意図・形体・色彩・材質感の理解を深める。このような一連のプロセスを辿ることで様々な分野で役立つような企画力、計画性、コミュニケーション力を養う。</p>						関連科目			
							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)						学修・教育目標			
	JABEE基準									
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	観察力を身に付けることができるようになる								
	②	空間把握ができるようになる								
	③	画面の構図が理解できるようになる								
	④	明暗・陰影(調子)の理解ができるようになる								
	⑤	木炭、鉛筆、練ゴム、ケント紙、木炭紙などの描画材料を扱うことができるようになる								
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	20	60	10	10	100	
教科書	授業時にプリントを配布する									
参考書	授業時にプリントを配布する									

予備知識	1年必修科目全般
DPとの関連	<p>学びのキーワードは「対象をよく観る＝観察力の習得」である。対象を見つめることから発想を得、コンセプトを練り上げ、制作のための試行錯誤を繰り返えし、他者にわかりやすく魅力的に伝える為の表現力やプレゼンテーション力を鍛えることができる。【知識・理解】【汎用的技能】【態度・志向性】</p>
実務経験のある教員	<p style="text-align: center;">勝野 眞言</p>
評価明細基準	<p>課題毎の講評会及び作品の提出と出席</p>

テーマにそった内容の講義を実習内に適時行い、テーマにつながる文献等を紹介し、実習外でそれらを補う学習法を指示する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 内容	観察による対象の理解 人体クロッキー(クロッキーブック鉛筆・ゴシテ) 2分・5分・10分(計20枚制作)	実習	手のクロッキー(エスキース)	240
2回	テーマ 内容	観察による対象の理解 人体クロッキー(クロッキーブック鉛筆・ゴシテ) 2分・5分・10分(計20枚制作)	実習	解剖図の模写	240
3回	テーマ 内容	観察による対象の理解 手のデッサン(木炭紙) 中間評	実習	手のクロッキー(エスキース)	240
4回	テーマ 内容	観察による対象の理解 手のデッサン(木炭紙)	実習	手のクロッキー(エスキース)	240
5回	テーマ 内容	観察による対象の理解 手のデッサン(木炭紙) 講評	実習	手のクロッキー(エスキース)	240
6回	テーマ 内容	観察による対象の理解 手のデッサン(木炭紙) 講評会	実習	手のクロッキー(エスキース)	240
7回	テーマ 内容	観察による対象の理解 人体デッサン・固定ポーズ(木炭紙)	実習	解剖図の模写	240
8回	テーマ 内容	観察による対象の理解 人体デッサン・固定ポーズ(木炭紙)	実習	解剖図の模写	240
9回	テーマ 内容	観察による対象の理解 人体デッサン・固定ポーズ(木炭紙)	実習	解剖図の模写	240
10回	テーマ 内容	観察による対象の理解 人体デッサン・固定ポーズ(木炭紙)	実習	解剖図の模写	240

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	観察による対象の理解	実習	グラデーションの研究	240
	内容	石膏デッサン(木炭紙) 頭像・胸像(選択)			
12回	テーマ	観察による対象の理解	実習	グラデーションの研究	240
	内容	石膏デッサン(木炭紙) 頭像・胸像(選択) 中間評			
13回	テーマ	観察による対象の理解	実習	グラデーションの研究	240
	内容	石膏デッサン(木炭紙) 頭像・胸像(選択) 講評			
14回	テーマ	観察による対象の理解	実習	グラデーションの研究	240
	内容	石膏デッサン(木炭紙) 頭像・胸像(選択)			
15回	テーマ	観察による対象の理解	実習	グラデーションの研究	240
	内容	石膏デッサン(木炭紙) 頭像・胸像(選択) 講評			
16回	テーマ	観察による対象の理解	屋外実習	クロッキー	240
	内容	動物スケッチ			

科目名	コンピュータ基礎実習(1美)				開講学年	1	講義コード	1670601	区分	選択		
英文表記	Practice of basic computer Literacy				開講期	前期	開講形態		単位数	4		
担当教員	甲野 善一郎											
研究室	D-213						オフィス アワー 火曜日1限					
メールアドレス	zkouno@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	コンピュータ ハードウェア ソフトウェア プレゼンテーション											
授業概要	<p>コンピュータが生産機材として、またコミュニケーションの道具として確立された今日においてコンピュータを使えるということが当然になっている。ここでは、コンピュータの、道具としての位置づけを明確にしたい。そのためにコンピュータを使う目的を明確にし、各自のテーマに沿った調査・情報収集・分析・プレゼンテーションまでの一連の作業を通して、コンピュータの道具としての位置づけを明確にする。また、プレゼンテーションの重要性とその前のコミュニケーションの重要性を認識し、コンピュータという道具を通して人に情報を伝える能力を習得する。</p>								関連科目			
									デザイン概論			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…文部科学省令で定める科目【各科目に含めることが必要な事項】…情報機器の操作</p>								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	コンピュータの基本操作の修得										
	②	画像加工技術の習得										
	③	パワーポイントでのプレゼンテーション										
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	20	60	0	10	10	100			
教科書	授業時に配布											
参考書	授業時に配布											

予備知識	1,提出期限を厳守する 2,自ら発想し製作する 授業内のコンピュータの操作の復習と各自のテーマについて、常にリサーチしておくこと。
DPとの関連	優れた応用力を有する専門家になるため、汎用的基礎力と基本的な専門知識を身につけたもの。
実務経験のある教員	甲野善一郎
評価明細基準	課題のすべてが提出されなければ作品点は0となる。 成果発表(口頭・実技) 60点 レポート 20点 ポートフォリオ 10点 出席 10点

コンピュータを使いこなしている人、全く苦手な人など様々であろうと想像します。コンピュータは道具であるということを知覚することを目的としているので何も知らないことを前提に授業を展開します。大切なのは自分で決めたテーマをプレゼンテーション出来ることであり、コンピュータそのものを学ぶことではない。日頃からテーマにできるものを意識して欲しい。ラップトップコンピュータ(Mac Book air or Mac Book Pro)を用意すること。アプリケーション (Photoshop, Illustrator)をインストールすること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	コンピュータ基礎	講義+課題 +プレゼン テーション	「復習」製作 自己チェックシートの記入(5分)	120
	内容	コンピュータのハードウェアとソフトウェア 特にデータの流れを中心に簡単な構造を解説する。ハードウェア(HD,メモリー,CPU,モニタなど)の解説。			
2回	テーマ	コンピュータ基礎	講義+課題 +プレゼン テーション	「予習」製作 「復習」製作 自己チェックシートの記入(5分)	120
	内容	コンピュータで文字を扱うコンピュータで扱う色情報の解説。画質(解像度と階調)について解説。出力機(プリンター)の種類と方式に関しての解説。			
3回	テーマ	アプリケーション操作概要	講義+課題 +プレゼン テーション	「予習」製作 「復習」製作 自己チェックシートの記入(5分)	120
	内容	プレゼンテーションソフトウェア(パワーポイント)の解説1 プレゼンテーションの大切さと方法を解説。パワーポイントの実習。			
4回	テーマ	アプリケーション操作概要	講義+課題	「予習」製作 「復習」製作 自己チェックシートの記入(5分)	120
	内容	フォトショップの基本操作			
5回	テーマ	アプリケーション操作概要	講義+課題	「予習」製作 「復習」製作 自己チェックシートの記入(5分)	120
	内容	フォトショップの応用操作			
6回	テーマ	アプリケーション操作	講義+課題	「予習」製作 「復習」製作 自己チェックシートの記入(5分)	120
	内容	イラストレータのための基本操作			
7回	テーマ	テーマ発表	講義+課題 +プレゼン テーション	「予習」製作 「復習」製作 自己チェックシートの記入(5分) パワーポイントを使用して各自発表。一人3分 質疑応答(アドバイスなど)宿題:テーマに関しての調査。	120
	内容	各自のテーマと概要(なぜこのテーマなのか)を発表(プレゼンテーション)キックオフ			
8回	テーマ	プレゼンテーション作成	講義+課題 +プレゼン テーション	「予習」製作 「復習」製作 自己チェックシートの記入(5分) 資料調査と報告。宿題:テーマに関しての調査。	120
	内容	テーマに関する資料調査:スライド作成準備1			
9回	テーマ	プレゼンテーション作成	講義+課題 +プレゼン テーション	「予習」製作 「復習」製作 自己チェックシートの記入(5分) 資料調査と報告。宿題:テーマに関しての調査。	120
	内容	テーマに関する資料調査:スライド作成準備2			
10回	テーマ	プレゼンテーション作成	講義+課題 +プレゼン テーション	プロジェクターを使用し、全員の前でプレゼンテーション。プレゼン資料作成(パワーポイント)宿題:テーマに関しての調査。	120
	内容	テーマに関する資料調査:スライド作成準備3 資料調査と報告。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	中間発表	講義+課題 +プレゼン テーショ ン	プロジェクターを使用し、全員の前でプレゼンテーション。	120
	内容	中間プレゼンテーション			
12回	テーマ	プレゼンテーション作成	講義+課題 +プレゼン テーショ ン	中間プレゼンテーションの修正作業。「予習」製作「復習」 製作 自己チェックシートの記入(5分)	120
	内容	内容確認と修正			
13回	テーマ	プレゼンテーション作成	講義+課題 +プレゼン テーショ ン	予習」製作「復習」製作 自己チェックシートの記入(5分)中 間プレゼンテーションの修正作業。	120
	内容	内容確認と修正			
14回	テーマ	発表	講義+課題 +プレゼン テーショ ン	「予習」製作「復習」製作 プロジェクターを使用し、全員の前 でプレゼンテーション。質疑応答。	120
	内容	最終プレゼンテーション1			
15回	テーマ	総括	講義+課題 +プレゼン テーショ ン	「予習」製作「復習」製作 プロジェクターを使用し、全員の前 でプレゼンテーション。質疑応答。	120
	内容	最終プレゼンテーション2			

科目名	日本画実習ⅠA(1美)			開講学年	1	講義コード	1670901	区分	選必	
英文表記	Japanese PaintingⅠA			開講期	前期	開講形態		単位数	8	
担当教員	中村 賢次(実務経験) 田淵 恵理(非常勤)									
研究室	A416					オフィス アワー 水曜昼休み				
メールアドレス	ken1214@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	日本画									
授業概要	日本画には特有の用具・材料があり、基本的にその原材料の全てがこの日本国内の自然から採取することが出来る。その使用方法に於いては季節や時間、気候等と深く関連があり、この授業では前職における文化財保存修復の実務の経験を活かし、伝統的な画材に関する基礎知識と技術修得において授業の中で学生たちに教授している。また、日本画制作に於いて最も基本的、且つ重要である写生に重点を置いて、描くことの基本姿勢や日本特有の空間に対する意識や感性としての美意識、自然観を身に付ける。						関連科目			
							日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	日本画の画材の名称及び原材料を理解し、その基本的な使用方法を理解できるようになる。								
	②	基礎的な描写力と描くための集中力・持久力を身に付けることができるようになる。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	0	80	10	出席及び制作姿勢(10点)	100	
教科書	授業の中で指示する									
参考書	授業の中で指示する									

予備知識	高校美術までの日本画に関する基礎知識
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	日常的に作品を前に口頭での質疑を行うことによって理解度を確認。一作品ごとに合評・採点を行う。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	日本画の基礎知識	講義	日本画の定義について自分なりの考えを探る	720
	内容	現在に至るまでの日本画の歴史的背景を理解する			
2回	テーマ	日本画の画材	講義	実際の画材に触れ、その用途について確認する	720
	内容	名称・原材料・基本的な使用方法を理解する			
3回	テーマ	筍	実習	鉛筆の使用方法を検討する	720
	内容	鉛筆による細密写生			
4回	テーマ	筍	実習	鉛筆の使用方法を検討する	720
	内容	鉛筆による細密写生			
5回	テーマ	筍	実習	鉛筆の使用方法を検討する 自身の作品を客観的に観察・評価	720
	内容	鉛筆による細密写生及び合評・採点			
6回	テーマ	ジャガイモとネギ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	和紙(美濃紙)を水貼りし鉛筆で描写			
7回	テーマ	ジャガイモとネギ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	墨入れ(骨描き及び濃淡)と地塗り			
8回	テーマ	ジャガイモとネギ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	細密写生(水干絵具)			
9回	テーマ	ジャガイモとネギ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	細密写生(水干絵具)			
10回	テーマ	合評及び採点	講義	自身の作品を客観的に観察・評価	720
	内容	客観的に自身の作品を捉える			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	スルメ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	和紙(美濃紙)を水貼りし鉛筆で描			
12回	テーマ	スルメ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	墨入れ(骨描き及び濃淡)と地塗り			
13回	テーマ	スルメ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	細密描写(水干絵具)			
14回	テーマ	スルメ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	細密描写(水干絵具)			
15回	テーマ	合評及び採点	講義	自身の作品を客観的に観察・評価	720
	内容	客観的に自身の作品を捉える			

科目名	洋画実習ⅠA(1美)				開講学年	1	講義コード	1671101	区分	選必	
英文表記	Oil PaintingⅠA				開講期	前期	開講形態		単位数	8	
担当教員	下城賢一 熊谷有展 古澤伸一郎(非常勤)										
研究室	L号館D201						オフィス アワー 火34,水34,木12,金34				
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	基礎デッサン 油彩 素描 人物デッサン 人体デッサン										
授業概要	1年時のカリキュラムは平面表現にかかわる全ての基礎造形力を身につけてもらうことを主眼において組まれている。適切な観察によるモチーフの理解(観察力)・再現性の高い描写力(技術)・美しい画面に不可欠な構成力と構図を組む力(構成力)。この3点を軸に具体的な課題をに取り組んでもらう。この課題によって完成した作品から以下の評価基準を基に観察力・技術・構成力のポイントにしぼり評価採点する。							関連科目			
								洋画実習ⅠB、洋画実習ⅡA、洋画実習ⅡB、洋画実習ⅢA、洋画実習ⅢB、洋画実習ⅣA、洋画実習ⅣB			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	再現性の高い描写力を養うことができる									
	②	人体骨格・筋肉など基本構造が理解できる									
	③	油彩画の技法を習得することができる									
	④	バランスの取れた構成・構図を理解することができる									
	⑤	平面上における立体表現を再現することができる									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	40	50	0	10	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	基礎デッサン、西洋美術史、日本美術史、絵画技法論
DPとの関連	テーマにそった内容の講義を実習内に適時に行い、テーマにつながる文献等を紹介する。実習外で美術館見学などを通じて鑑賞力を身につける。古今の西洋絵画の名画の画像資料を用いて構成・構図の研究、画題の研究を行う。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.成果発表(作品講評会)において適切な評価、指導、感想を交えて次回の作品制作へと発展させることができる。(10点×4回 計40点) 2.出題された課題と、設定されたモチーフのテーマを良く理解し、完成度、課題への理解度、表現力、取り組む姿勢などを総合評価する。(50点)

課題制作に必要な画材を事前に用意する。実技・技法・画材などの専門用語と知識を習得する。それぞれが成果発表にて得た知識や自らの問題点をノートまとめ復習すること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	石膏デッサン(首)			
2回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	石膏デッサン(首)			
3回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	石膏デッサン(首)			
4回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	石膏デッサン(胸像)			
5回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	石膏デッサン(胸像)			
6回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	石膏デッサン(胸像)			
7回	テーマ	講評	実習 講評	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	石膏デッサン(胸像) 講評ノ採点			
8回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	人物着衣デッサン			
9回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	人物着衣デッサン			
10回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	人物着衣デッサン			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	講評	実習 講 評	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	人物着衣デッサン 講評/採点			
12回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	裸婦デッサン			
13回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	裸婦デッサン			
14回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	裸婦デッサン			
15回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	裸婦デッサン			
16回	テーマ	講評	実習 講 評	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	静物デッサン 講評/採点			
17回	テーマ	油彩画	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物/油彩			
18回	テーマ	油彩画	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物/油彩			
19回	テーマ	油彩画	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物/油彩			
20回	テーマ	油彩画	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物/油彩			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	油彩画	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物/油彩			
22回	テーマ	油彩画	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物/油彩			
23回	テーマ	講評	実習 講評	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	静物/油彩 講評/採点			

科目名	彫刻実習ⅠA(1美)				開講学年	1	講義コード	1671301	区分	必修	
英文表記	sculpture work 1A				開講期	前期	開講形態		単位数	4	
担当教員	清島 浩徳 (実務経験)										
研究室	L A-216						オフィス アワー 月曜 5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	粘土、頭像制作、半身像制作、2分の1全身像制作										
授業概要	<p>粘土による人体像の制作を行う。写実的な表現を試みることで、造形的な見方・考え方を働かせ、基礎的な立体造形力を身につけることを目指す。量感や奥行きといった、立体ならではの感覚を高め、粘土素材を自由に駆使できるようになるには、創造的な思考力、判断力、表現力を身につけるための多くの修練が必要である。頭像制作は、人物の表情や人格までも写し出す、大変高度な技量が求められる。何度も繰り返し制作を続けながら、表現者としての感性、観察眼を養うとともに、学んだことを総合的に組み立てて、意図するものがより明確に表現できるように務める。授業以外の時間で自主的に制作を深め、毎日制作する習慣を身につけることで、表現者としての資質の向上を目指す。</p>							関連科目			
								西洋彫刻論 西洋美術史 彫刻実習IB 石膏実技実習A 石膏実技実習B			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	モデルを観察して、特徴を把握できるようになる									
	②	粘土の性質を知って塑像の制作過程を理解できるようになる									
	③	塊や面などについて理解できるようになる									
	④	道具の使い方を工夫できるようになる									
	⑤	塑像の楽しみを味わえるようになる									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	70	10	20	100		
教科書	適宜指示する										
参考書	適宜指示する										

予備知識	基礎科目:西洋美術史Ⅰ、西洋美術史Ⅱ、美術領域論Ⅱ(立体)
DPとの関連	芸術や文化における専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付け、造形活動や芸術の研究を通して培った豊かな感性や高い倫理観を持った社会人となるための修練や、あらゆる物事に真摯に取り組む姿勢を持つ人物の育成を目指すとともに、社会における芸術の役割を認識した上で、現代の課題を発見し、それを解決することによって未来の文化形成に寄与し、社会貢献できる人物を育成するという目標沿った授業となっています。
実務経験のある教員	清島浩徳
評価明細基準	・デッサンの的確さ ・塑像制作の基礎的な技法 ・準備、作品管理 ・制作への真摯な取り組み ・作品を高度化するための自主的な制作

・制作に入る前の準備、制作後の片付け、さらに作品管理をすることも制作に必至。粘土を常に最適な状態にし、モデルへの配慮も忘れず授業に臨むという、基本的なマナーも身につける。観察眼を伸ばすためのデッサンや制作を毎日するペースを身につけ、表現者としての自覚を持つことが大切である。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	オリエンテーション	実習、A L	1毎日デッサンする	180
	内容	モデルのデッサンをして特徴を把握する			
2回	テーマ	素材研究	実習、A L	1粘土の性質、種類などを予習する	180
	内容	粘土の研究			
3回	テーマ	制作工程把握	実習、A L	カーヴィング、とモデリングの作品を比較し、塑像の特徴を予習する	180
	内容	塑像制作の流れを理解する			
4回	テーマ	心棒組み	実習、A L	心棒に使用する材料を用意しておく	180
	内容	1心棒組みと荒付け			
5回	テーマ	制作	実習、A I L	粘土管理をし、自主的な制作をする	1080
	内容	粘土による頭像制作Ⅰ			
6回	テーマ	中間講評	実習、A I L	講評を反映して制作する	180
	内容	中間講評Ⅰ 相互評価			
7回	テーマ	制作	実習、A I L	粘土管理をし、自主的な制作をする	1260
	内容	粘土による頭像制作Ⅱ			
8回	テーマ	中間講評	実習、A I L	講評を反映して制作する	180
	内容	中間講評Ⅰ 相互評価			
9回	テーマ	制作	演習、A L	粘土管理をし、自主的な制作をする	1800
	内容	粘土による頭像制作Ⅲ			
10回	テーマ	最終講評	実習、A I L	評価を反映し、次作の計画を立てる	180
	内容	最終講評・評価			

科目名	美術史基礎演習Ⅰ(1美)				開講学年	1	講義コード	1671701	区分	選必	
英文表記	Basic Study for Art History I				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A313						オフィス アワー 金曜3限				
メールアドレス	seki1963@art.soyo-u.ac.jp										
キーワード	作品解説・構造分析 展覧会評 作家論 評論 AL、PBL										
授業概要	<p>本学科の人材育成の目標の一つに、「芸術・文化における多様な基本的知識と教養を身に付ける」があり、本科目は芸術文化コース1年生の初めての専門科目として必要不可欠な科目である。美術雑誌や展覧会図録、新聞、美術史学や芸術学、美学等の学術雑誌に掲載された1～3回で読み切れる長さの、さまざまなジャンルの作品解説や展覧会評、作家論、美術評論、美術理論、学術論文などを採り上げて読み進めることで、美術や芸術に関わる著作物にはさまざまな言説・論述形態があることを学び、基礎的かつ専門的な記述力を養うとともに、展覧会等の観覧によって初歩的なフィールドワーク力を養う。また、フィードバックとして執筆した展評や作品解説を添削して返却していくので、修正するとともに、なぜ赤入れされたのかをもう1度考え、赤入れ箇所が少なくなるよう努力して欲しい。</p>							関連科目			
								西洋美術史、日本美術史、東洋美術史、美術概論、西洋彫刻論、美術ジャーナル論など			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	作品解説の構造を知り、作品解説が書けるようになる。									
	②	作家略歴の書き方を知り、作家略歴が書けるようになる。									
	③	展覧会評の構造を知り、展覧会評が書けるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	75	0	10	15	100		
教科書	授業の中で配布										
参考書	美術批評家著作選集 ゆまに書房 五十殿利治監修 美術批評史 みすず書房 リオネロ・ヴェントゥーリ著 辻 茂訳 各種図録										

予備知識	特に必要ありませんが、新聞や美術雑誌等に掲載された展覧会案内や展覧会評に目を通すくせをつけて欲しい。
DPとの関連	芸術文化研究の基礎的方法や専門的知識を学び、論理的思考力を身に付けることで、さまざまな問題や課題を論理的に解決する力が身に付けられる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	課題として「作品解説」(計3本)(各15点)と「展覧会評」2本(各15点)を書いてもらい、それらと出席率(15点)、ポートフォリオ(10点)を総合して評価する。合計が6割に満たない場合は課題を再提出させる。

作成された課題は毎年開催される美術学科展に展示物として展示する。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	概説	講義 演習	授業の進め方・目標を理解する	0
	内容	オリエンテーション(講義の説明と資料配布) 平面の作品(西洋・日本・東洋)解説の読解とその構造分析			
2回	テーマ	作品解説とは	講義 演習	配布資料の復習	30
	内容	平面の作品(西洋・日本・東洋)解説の読解とその構造分析			
3回	テーマ	作品解説とは	講義 演習	配布資料の復習	30
	内容	立体の作品(西洋・日本・東洋)解説の読解とその構造分析			
4回	テーマ	作品解説とは	講義 演習	配布資料の復習	30
	内容	立体の作品(西洋・日本・東洋)解説の読解とその構造分析			
5回	テーマ	展覧会評とは	講義 演習	配布資料の復習	30
	内容	新聞や美術雑誌掲載の展覧会評の読解とその構造分析			
6回	テーマ	展覧会評とは	講義 演習	配布資料の復習	30
	内容	新聞や美術雑誌掲載の展覧会評の読解とその構造分析			
7回	テーマ	美術評論とは	講義 演習	配布資料の復習	40
	内容	作家論もしくは美術評論の読解とその構造分析			
8回	テーマ	美術評論とは	講義 演習	配布資料の復習	40
	内容	作家論もしくは美術評論の読解とその構造分析			
9回	テーマ	学術論文とは	講義 演習	配布資料の復習	50
	内容	学術論文の読解とその構造分析			
10回	テーマ	学術論文とは	講義 演習	配布資料の復習	50
	内容	学術論文の読解とその構造分析			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	展覧会評を書く	AL PBL	観てきた展覧会についてメモして整理し、展覧会評(1)を事前に作成してくる	120
	内容	展覧会評を書く(1)執筆・発表・添削			
12回	テーマ	展覧会評を書く	AL PBL	観てきた展覧会についてメモして整理し、展覧会評(2)を事前に作成してくる	120
	内容	展覧会評を書く(2)執筆・発表・添削			
13回	テーマ	作品・作家解説を書く	AL PBL	作品解説・作家解説(1)を事前に作成	120
	内容	作品解説・作家解説(1)執筆・添削			
14回	テーマ	作品・作家解説を書く	AL PBL	作品解説・作家解説(2)を事前に作成	120
	内容	作品解説・作家解説(2)執筆・添削			
15回	テーマ	仕上げ	AL 実習	授業の前にパネル原稿を作成	120
	内容	パネル原稿の作成・出力・カッティング			

科目名	視覚造形実習ⅠA(1美)				開講学年	1	講義コード	1671901	区分	選択	
英文表記	Visual Arts workⅠA				開講期	前期	開講形態		単位数	6	
担当教員	永田 郁 三枝泰之 林浩(非常勤) 野島泉里(非常勤)										
研究室	永田L号館A208 三枝L号館D315						オフィス アワー 水曜日5限(永田)				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	アート制作 ドローイング 素材・道具 グラフィック・アート										
授業概要	<p>視覚造形実習ⅠA概要 本実習は視覚芸術コース独自のプログラムであり、アート制作にあたってデザイン的表現方法を含め、様々な領域を横断して作品制作が可能となる基本的な思考・方法論を学び、2年次以降自分が構想するイメージを多様なメディアを統合して作品制作できる基礎的なものの見方、考え方およびデザイン的思考を学び、アート制作の基盤を構築する。前期は①素材の取り扱い、道具の扱いなどの技術実習②グラフィック・アート領域、③デッサン・ドローイングで構成される。アート制作に必要な基本的な技術・発想法を含めアートへのアプローチの方法を習得していく。なお、理論およびプレゼンテーション、ライティングの技術については視覚造形演習A、B(永田担当)において習得していく。各課題において講評を実施することによりフィードバックを行う。本実習は週2コマ×3回で実施される。2年次以降のアート制作を実現するための様々なツール(デザイン領域、アート理論領域)を修得し、自分が制作したい作品内容を実現するための方法を様々な分野を横断しながら、作品に落とし込み、その表現方法を身につけていく。各領域の担当開講曜日は下記の通りである。水曜日1-2限:素材の取り扱い・実技実習(林浩[美/非]) 木曜日1-2限:グラフィック・アート系(三枝[デ]) 金曜日3-4限:デッサン・ドローイング(野島(泉)[美/非]・永田[美])</p>							関連科目			
								視覚造形実習ⅠB/視覚造形演習A/視覚造形演習B			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科に関する科目(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像がデッサン表現を含む)							学修・教育目標			
	JABEE基準										
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	アート制作にあたり、必要な基本的なものの考え方、素材や道具の扱い方、体を動かして発想する方法を理解できる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	80	10	10	0	100		
教科書	特に指定しない。										
参考書	100の思考実験—あなたはどこまで考えられるか— 紀伊國屋書店 ジュリアン・バジーニ デザインの生態学—新しいデザインの教科書 東京書籍 後藤武著 ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」精読 岩波書店 多木浩二 文化と現実界 青土社 キャサリン・ベルシー 生き延びるためのラカン バジリコ株式会社 斉藤環										

予備知識	
DPとの関連	視覚芸術コースとしての造形活動に対する初歩的・基本的な考え方・ものの見方を思考と体を動かしながら身につけていく。
実務経験のある教員	
評価明細基準	各クラスの課題80%、ポートフォリオ10%、目標到達度レポート10%の100点。

本実習内容は曜日毎に内容が異なるので、オリエンテーションには必ず出席すること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	林浩(非常勤)クラス 素材・道具の扱い方・発想	講義	課題の概要を知る	180
	内容	授業概要の説明			
2回	テーマ	立方体の概念の確認	レクチャー — 実習	正確な立方体をつくるための道具と技術を知る	180
	内容	ゲント紙による10mm×10mm×10mmの立方体の制作・立方体の概念の確認			
3回	テーマ	製作技術の習得	レクチャー — 実習	アクリル板のカット技術の習得	180
	内容	アクリル板(10mm×10mm×10mm×2mm)6枚の貼り合わせによる立方体の制作			
4回	テーマ	立方体の概念の確認と製作技術の習得	レクチャー — 実習	マイナス空間(何もない部分)を構成要素として使用するpart 1	180
	内容	ゲント紙(10mm×10mm)とスチレンボード(5mm×5mm)を素材とした積層による立方体の制作			
5回	テーマ	立方体の概念の確認と製作技術の習得	レクチャー — 実習	マイナス空間(何もない部分)を構成要素として使用するpart 2	180
	内容	ゲント紙(10mm×10mm)の噛み合わせによる立方体の制作			
6回	テーマ	立方体の概念の確認と製作技術の習得	レクチャー — 実習	マイナス空間(何もない部分)を構成要素として使用するpart 2	180
	内容	発泡ウレタンボードの面材(10mm×10mm)×6枚を任意の形でくりぬいたものによる立方体の制作			
7回	テーマ	立方体の概念の確認と製作技術の習得	レクチャー — 実習	素材の特徴の理解と切削、接着技術の習得	180
	内容	段ボール(10mm×10mm×3mm)を素材とした積層による立方体の制作			
8回	テーマ	立方体の概念の確認と製作技術の習得	レクチャー — 実習	材の特徴の理解と切削、接着技術の習得及びマイナス空間(何もない部分)を構成要素として使用するpart 4	180
	内容	段ボール(10mm×10mm×3mm)とボール紙(サイズは任意)を素材とした積層による立方体の制作			
9回	テーマ	立方体の概念の確認と製作技術の習得	レクチャー — 実習	素材の特徴の理解と切削、接着技術の習得	180
	内容	線材(竹串)の積層による立方体の制作			
10回	テーマ	立方体の概念の確認と製作技術の習得	レクチャー — 実習	素材の特徴の理解と切削、接着技術の習得	180
	内容	粒子材の集合による立方体の制作			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	立方体の概念の確認と製作技術の習得	レクチャー — 実習	オリジナル素材による立方体の制作素材技術の発想力	180
	内容	任意の面材(10mm×10mm×10mm)6枚の貼り合わせによる立方体の制作			
12回	テーマ	立方体の概念の確認と製作技術の習得	レクチャー — 実習	オリジナル素材による立方体の制作素材技術の発想力	180
	内容	任意の面材(10mm×10mm×10mm)6枚の貼り合わせによる立方体の制作			
13回	テーマ	立方体の概念の確認と製作技術の習得	レクチャー — 実習	オリジナル素材による立方体の制作素材技術の発想力	180
	内容	任意の線材の積層による立方体の制作			
14回	テーマ	立方体の概念の確認と製作技術の習得	レクチャー — 実習	オリジナル素材による立方体の制作素材技術の発想力	180
	内容	任意の粒子材の集合による立方体の制作			
15回	テーマ		レクチャー —	反省と今後の課題	180
	内容	作品講評とまとめ			
16回	テーマ	三枝泰之クラス グラフィックアート領域	レクチャー — 実習	①レクチャーの内容を復習。	180
	内容	①全体概要と展望テクノロジーやデザインとの関連の中からグラフィックアートの位置、基礎的な準拠について理解する。			
17回	テーマ	②洞窟絵画	レクチャー — 実習	②の内容を復習。	180
	内容	ラスコーやアルタミラの洞窟絵画について理解する。「ベジヤミジ複製技術時代の芸術作品」の講読から、礼拝的価値/展示的価値を理解する。			
18回	テーマ	③複製技術	レクチャー — 実習	並行した関連制作(1)	180
	内容	「ベジヤミジ複製技術時代の芸術作品」の講読から、写真技術とデウラの関係を理解する。			
19回	テーマ	④再現(リプレゼンテーション)	レクチャー — 実習	並行した関連制作(2)	180
	内容	再現としての模倣/寓意/比喩に関わる古典芸術と中世・現代芸術について理解する。			
20回	テーマ	⑤絵画芸術の寓意	レクチャー — 実習	並行した関連制作(3)	180
	内容	17世紀オランダ絵画/フェルメールとカメラ・オブスクーラ			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	①ー⑤の総括		プレゼンテーション	180
	内容	①ー⑤のまとめと中間発言・発表			
22回	テーマ	⑦文化と現実界(1)	レクチャー ー 実習	並行した関連制作(4)	180
	内容	文化と現実界ノアルフレディーニ夫妻の肖像 a.			
23回	テーマ	⑧文化と現実界(2)	レクチャー ー 実習	並行した関連制作(5)	180
	内容	文化と現実界ノアルフレディーニ夫妻の肖像 b.			
24回	テーマ	⑨文化と現実界(3)	レクチャー ー 実習	並行した関連制作(6)	180
	内容	文化と現実界ノラス・マニエリス			
25回	テーマ	⑩近代絵画のはじまり	レクチャー ー 実習	並行した関連制作(7)	180
	内容	ミシェル・ラーゴノマネ論			
26回	テーマ	⑪20世紀絵画(1)	レクチャー ー 実習	⑪の内容を復習。	180
	内容	媒体の固有性と行為ノアクション・ペインティングノイベント ルーチョ・フォンタナノジャクソン・ポロックノイブ・クラインノ			
27回	テーマ	⑫20世紀絵画(2)	レクチャー ー 実習	⑫の内容を復習。	180
	内容	「これはパイプではない」アルネ・マグリット 記号論の理解(ジミライエノジニフィアン)			
28回	テーマ	⑬20世紀絵画(3)	レクチャー ー 実習	⑬の内容を復習。	180
	内容	大衆文化としてのアートノポップ・アート(アンディ・ウォーホル、ロイ・リキテンシュタイン)スーパー・フラット(村上隆)ネオデニー			
29回	テーマ	⑭映画と平面芸術	レクチャー ー 実習	⑭の内容を復習。	180
	内容	「ベンヤミン複製技術時代の芸術作品」の講読から、映画の知覚を理解する。			
30回	テーマ	総括			180
	内容	⑦ー⑭までのまとめ。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
31回	テーマ	野島泉里(非常勤)・永田 ドローイング①	実習	いわゆるデッサンは、ドローイングの中の一手法であるといえる。様々なドローイングの方法を体験しながら、五感で物事をとらえる手段としてのドローイングを身につける。	540
	内容	ドローイング課題1(3週)			
32回	テーマ	ドローイング②	実習	実習時間以外にもドローイングをし、ものの見方を身につける。	540
	内容	ドローイング課題2(3週)			
33回	テーマ	ドローイング③	実習	実習時間以外にもドローイングをし、ものの見方を身につける。	540
	内容	ドローイング課題3(3週)			
34回	テーマ	ドローイング④	実習	実習時間以外にもドローイングをし、ものの見方を身につける。	540
	内容	ドローイング課題4(3週)			
35回	テーマ	ドローイング⑤	実習	実習時間以外にもドローイングをし、ものの見方を身につける。	540
	内容	ドローイング課題5(3週)			

科目名	視覚造形演習A (1美)				開講学年	1	講義コード	1672101	区分	選択	
英文表記	Visual Art Basic Seminar A				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	永田 郁										
研究室	A208 (芸術学部棟)						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	アートって何 ダンボール自画像 企画構想 芸術理論 抽象力										
授業概要	<p>視覚芸術コースのカリキュラムの視覚造形実習 I A, I Bの実技実習と連動して、本演習は理論と制作に必要な言語・思考能力について受講者のプレゼンテーション、ライティング(レポート作成)を通して、「美術って何」という問いに対して、理解を深め、制作に必要な「抽象力」を高めることを目的とする。その他、ダンボール自画像を通して、客観的に自分を見つめ、それを如何にアウトプットするか、企画構想から制作までを自分の立てた見積に即して実現出来るかを検証していく。プレゼンテーション、ライティングについては課題毎に演習内で学生にフィードバックを行う。</p>							関連科目			
								視覚造形実習 I A、視覚造形実習 I B、視覚造形演習B			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	自分の調べた課題を口頭で発表し、さらにその内容を文章化できる。									
	②	自分の作りたいイメージを如何に実現化するかについて、企画・構想から予算立て、制作までの詳細を自分で計画し、実現できる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	40	40	10	10	0	100		
教科書	<p>美術ってなあに? 河出書房新社 スージー・ホッジ 上記のテキストは購入の必要なし、適宜コピーを配布する。</p>										
参考書	<p>5歳の子どもにできそうでできないアート 現代美術の100の読み解き 東京美術 スージー・ホッジ 制作へ EKRITS 上妻世海 路上と観察をめぐる表現史 考現学の「現在」 フィルムアート社 広島市現代美術館監修 抽象の力 亜紀書房 岡崎乾二郎 時のかたち 事物の歴史をめぐる 鹿島出版会 ジョージ・クブラー</p>										

予備知識	
DP との 関連	視覚芸術コースとしての造形活動に対する初歩的・基礎的な考え方・ものの見方を身につけていく。
実務経験 のある 教員	
評価明細 基準	プレゼンテーション／レポート(40)、課題(企画書、制作)(40)、ポートフォリオ(紙媒体、10)、目標到達度レポート(10)

オリエンテーションでは、視覚芸術コースの卒業研究(制作)までの実習・演習の流れを説明するので、必ず出席のこと。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ 内容	オリエンテーション 視覚芸術コースで何を学ぶ/何が出来る 本演習のオリエンテーション	講義	本演習の内容・目的の確認。	180 (1)
2回	テーマ 内容	『美術ってなあに?』を読む、調べる。4月-5月 『美術ってなあに?』を読んで、アートに関わるテーマを各自がリサーチし、発表する。	講義・演習	毎回発表したテーマについて発表後、レポート作成する。	900 (2-6)
3回	テーマ 内容	段ボール自画像制作 6月 学科展に向けて、企画構想・予算立て・制作。	実習	制作スケジュールを各自確認し、作業を進める。	720 (7-10)
4回	テーマ 内容	作品撮影 (7月第1週) 学科展の展示作品の撮影	実習	作品撮影を通して自分の作品を知る。	180 (11)
5回	テーマ 内容	展覧会見学 (7月第2週) 熊本県内外の展覧会を見学する。	鑑賞見学	観覧後、展評作成。	180 (12)
6回	テーマ 内容	路上観察と表現 (7月後半-8月第1週) 路上観察から表現の種を探す。	演習	路上観察の成果を発表する。ポートフォリオ作成。	540 (13-15)

科目名	東洋美術史（2美デ）（通年）				開講学年	2	講義コード	1672301	区分	選択	
英文表記	History of Eastern Art				開講期	通年	開講形態		単位数	4	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala @art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	アジア美術史 インド文化 仏教美術 ヒンドゥー教美術										
授業概要	<p>ギリシア・ローマの古典的技法とキリスト教の信仰を基盤とした西洋文明に対して、アジアの文明は必ずしも一体であり一貫しているというわけではなく、大きく3つの文明圏に分けて考えることができる。すなわち、一つは東アジア文明圏、一つは仏教・ヒンドゥー教を中心とするインド文明圏、そしてイスラムの信仰を核とする西アジア文明圏である。本講義は東洋、いわゆるアジアの中でも南アジア、特にインド美術を取り上げ、宗教美術（仏教・ヒンドゥー教など）を中心に講義していく。その際、我々が住む東アジア（中国・日本）の関係にも触れながら、古代のアジアの美術の様相について歴史的背景による表現形式の違い、民族や宗教の違いに留意して理解していく。また、アジアの文化や芸術に触れることで、異文化理解のための汎用的な観察力・洞察力を養う。本講義の課題や小テストに関しては適宜フィードバックを行う。</p>							関連科目			
								<p>すべての芸術学部開講科目に関連する。特に日本美術史、西洋美術史、美術概論、日本文化特論（近代）、日本・東洋美術史特論Ⅰ／Ⅱ、宗教芸術・文化Ⅱ（アジア）</p>			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項（中学校及び高等学校美術）【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）							学修・教育目標			
	JABEE基準										
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	各回の内容を通して、アジア芸術・文化に関する基礎的な知識・ものの見方・考え方を理解することができる。									
	②	インドおよびアジアに仏像の様式を理解し、その違いを見分けることができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	65	0	10	0	0	10	15	100		
教科書	特にテキストは使用しない。										
参考書	<p>増補新装 カラー版東洋美術史 美術出版社 前田耕作監修 アジアの芸術史 造形篇Ⅱ 朝鮮半島・西アジア・中央アジア・インド（芸術教養シリーズ4） 藝術学舎 金子典正編 インド文化事典 丸善出版 インド文化事典編集委員会 インド美術史 吉川弘文館 宮治昭 世界美術大全集 東洋編 1-13-15／中国、朝鮮半島、東南アジア、インド1、インド2・中央アジア 小学館</p>										

予備知識	
DPとの関連	造形活動や芸術文化研究における基礎的な知識、ものの見方・考え方を学ぶ。
実務経験のある教員	
評価明細基準	平常点、前・後期に行う定期試験、授業内の小テスト(またはレポート)による評価。前期・後期各100点の平均を成績とする。

通年の授業であるので、前期・後期を通じて受講しないと単位取得できません(履修登録は前期のみ)。単位修得の条件は①出席3分の2以上、②定期試験受験、③課題提出あるいは小テスト受験のすべてを満たしていること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	アジア、インドってどんなところ?	講義	アジア地図作成。	90(1)
	内容	アジア地図を作ろう。			
2回	テーマ	インドってどんなところ?	講義	ヒンディー語で名前を書く。	180(3)
	内容	其の2:インドの文字とヒンディー語			
3回	テーマ	付論:インド美術の曙	講義	3.の配布資料の復習。	90(4)
	内容	インダス文明			
4回	テーマ	インド美術のはじまり	講義	4.の配布資料の復習。	180(6)
	内容	マウリヤ朝の美術/民間信仰の造形			
5回	テーマ	仏教美術の開花①	講義	5.の配布資料の復習。	90(7)
	内容	パールラット			
6回	テーマ	仏教美術の開花②	講義	6.の配布資料の復習。	90(8)
	内容	サニシチー			
7回	テーマ	クシャーーン朝の美術①	講義	7.の配布資料の復習。	180(10)
	内容	ガシタニラ			
8回	テーマ	クシャーーン朝の美術②	講義	8.の配布資料の復習。	90(11)
	内容	マトウラー			
9回	テーマ	南インドの仏教美術①②	講義	9.の配布資料の復習。	180(12-13)
	内容	アマラーヴァティ:ナーガールジュナコナダ			
10回	テーマ	展覧会あるいは寺社見学	実地見学	事前レポート/事後レポート 前期定期試験	180(14-15)
	内容	展覧会あるいは寺社見学(2コマ分前期実施) 見学および展覧会レビュー 前期定期試験(第15回)			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	グプタ朝の美術	講義	11.の配布資料の復習。	180 (16-17)
	内容	古典様式の仏像の成立			
12回	テーマ	アジアと日本の仏たち	講義	アジアの仏像の復習。	180 (18-19)
	内容	スリランカ、中東アジア、東南アジア、東アジア(中国・朝鮮半島)、日本			
13回	テーマ	インドの石窟寺院:序	講義	13.の配布資料の復習。	180 (20-21)
	内容	インドの石窟寺院とは?			
14回	テーマ	ヒンドゥー教美術の世界①	講義	14.の配布資料の復習。	180 (22-23)
	内容	初期ヒンドゥー教美術(グプター朝)・シヴァ神の神話世界			
15回	テーマ	ヒンドゥー教美術の世界②	講義	15.の配布資料の復習。	180 (24-25)
	内容	ヴァイシュナヴァ神の神話世界・女神その他・ジャイナ教の世界			
16回	テーマ	インドの石彫寺院	講義	16.の配布資料の復習。	180 (26-27)
	内容	エローラ・カイルーサナータ寺院・南インド、マーマラプラムの石彫寺院			
17回	テーマ	インド中世の寺院建築	講義	17.の配布資料の復習。石窟、石彫寺院理解度小テスト。	180 (28-29)
	内容	寺院のイメージ/曼荼羅としての寺院			
18回	テーマ	総括	講義	課題等の返却。後期定期試験	180 (30-31)
	内容	アジアの美術・文化への理解 後期定期試験(第31回)			

科目名	色彩論演習(2美)				開講学年	2	講義コード	1672501	区分	選択	
英文表記	Seminar on theory of colors				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	熊谷有展										
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金曜日5時限目				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	色彩論										
授業概要	<p>私達の周りの環境は、色彩に満ちあふれている。そしてその色彩を通して、多くの情報が伝達されている。色彩は特に重要不可欠な要素の一つである。ここでは、平面作品の制作を通して、その作品における色彩の意味や必要性、重要性を学び、平面絵画における色彩の可能性をさぐる。また、色彩の基本的な特性、本質を理解させ、より良いかたちで色彩を活用していけるような手助けを目指したい。</p>							関連科目			
								実習			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	色彩の特性・本質を理解できる									
	②	色彩をより良く活用することができる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	70	10	20	100		
教科書	プリント、描画材料など										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	講義とそれらを踏まえての演習
DPとの関連	自己理解・自己管理能力、課題対応能力を身につけ、それらを実践できるもの
実務経験のある教員	
評価明細基準	提出作品、出席状況などから判断する

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	色彩	講義、演習	色彩の基本的特性について	90
	内容	色彩とは何か 点描による演習			
2回	テーマ	//	//	//	90
	内容	//			
3回	テーマ	//	//	表色法	90
	内容	色の表し方 点描による演習			
4回	テーマ	//	//	//	90
	内容	//			
5回	テーマ	//	//	加法混色、減法混色、三原色など	90
	内容	混色の原理と応用 点描による演習			
6回	テーマ	//	//	//	90
	内容	//			
7回	テーマ	//	//	刺激と色感覚	90
	内容	色彩の知覚的効果 点描による演習			
8回	テーマ	//	//	//	90
	内容	//			
9回	テーマ	//	//	//	90
	内容	//			
10回	テーマ	//	//	色彩の感情効果	90
	内容	色彩の感情効果 点描による演習			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	//	//	//	90
	内容	//			
12回	テーマ	//	//	//	90
	内容	//			
13回	テーマ	//	//	色彩の調和	90
	内容	色彩の美的効果 点描による演習			
14回	テーマ	//	//	//	90
	内容	//			
15回	テーマ	//	//	//	90
	内容	//			

科目名	美術領域論Ⅱ（立体造形）（2美デ）				開講学年	2	講義コード	1672601	区分	選択	
英文表記	Art theory 2 (3D modeling)				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	清島 浩徳（実務経験）										
研究室	L-A-216						オフィス アワー 月曜5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	立体造形										
授業概要	<p>様々な国や時代の彫刻作品や立体造形物を概観し、作品の良さや美しさを感じ取り、作者の意図や心情についても考え、その作品の歴史的、社会的背景などにも触れながら、立体芸術への興味を引き出し、最終的に立体造形や作家研究のテーマを決めプレゼンテーションを行う。プレゼンや関連レポートについては適宜学生にフィードバックする。立体芸術を深く味わう楽しさを共有しながら、表現者としての資質を伸ばしていく。</p>							関連科目			
								彫刻実習、西洋彫刻論、彫刻特論、東洋美術史			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	立体造形物への興味と知識を深めることができる									
	②	美術史と彫刻作品や作家などを関連づけて理解することができる									
	③	自らテーマを見つけ、研究することができるようになる									
	④	研究したものをプレゼンテーションすることができるようになる									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	30	0	10	10	100		
教科書	適宜指示する										
参考書	適宜指示する										

予備知識	西洋美術史、日本美術史、東洋美術史、西洋彫刻論
DPとの関連	幅広い専門知識と、考察力の備わった人材育成。
実務経験のある教員	清島浩徳
評価明細基準	・立体造形物や彫刻家に対する興味と研究姿勢 ・研究内容のプレゼンテーションおよびレポート ・出席などを併せて評価する

常に、いつ、誰が、どのように、なんの為にそれを作ったかという観点に立ち、自ら疑問を持つことで、研究のきっかけを見つける姿勢が必要。また表現者としての立場と、客観的な立場の双方から造形物や作家を考察することで、鑑賞力の向上を目指す。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	立体の造形物について俯瞰する	講義		90
	内容	心に響く彫刻（導入）			
2回	テーマ	古代の彫刻	講義	西洋美術史の予習	90
	内容	古代文明の彫刻概観			
3回	テーマ	ギリシア彫刻	講義	西洋彫刻論の（予習、復習）	90
	内容	ギリシア彫刻概観			
4回	テーマ	キリスト教美術の彫刻表現	講義	西洋彫刻論（予習・復習）	90
	内容	キリスト教的主題の彫刻、造形物			
5回	テーマ	ルネサンスの彫刻	講義	ミケランジェロ作品の検索	90
	内容	作家論：ミケランジェロとルネサンス、 マニエリスム			
6回	テーマ	バロックから近代の彫刻	講義	バルニーニ作品の検索	90
	内容	バロックから近代の彫刻概観			
7回	テーマ	ロダン、ブールデル、マイヨールの彫刻	講義	ロダン作品の検索	90
	内容	作家論：ロダンとその弟子たち			
8回	テーマ	飛鳥から平安の仏像彫刻	講義	仏教美術史予習 復習	90
	内容	日本の仏教的主題の彫刻、造形物Ⅰ			
9回	テーマ	鎌倉時代の慶派仏師の仏像彫刻	講義	仏教美術史予習 復習	90
	内容	日本の仏教的主題の彫刻、造形物Ⅱ			
10回	テーマ	人物埴輪について	講義	人物埴輪作品の検索	90
	内容	人物埴輪の造形的特徴概観Ⅰ			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	近代から現代彫刻	講義	西洋美術史 復習	90
	内容	近代から現代の彫刻概観			
12回	テーマ	個人プレゼン発表	演習	個人研究	90
	内容	個人研究プレゼンテーション			
13回	テーマ	個人プレゼン発表	演習	個人研究	90
	内容	個人研究プレゼンテーション			
14回	テーマ	個人プレゼン発表	演習	個人研究	90
	内容	個人研究プレゼンテーション			
15回	テーマ	個人プレゼン発表	演習	個人研究	90
	内容	個人研究プレゼンテーション			
16回	テーマ	フィードバックをもとにした自己評価	演習	評価	90
	内容	相互評価 反省など			

科目名	共通絵画実習Ⅰ（日本画）（2美）				開講学年	1	講義コード	1672701	区分	選必	
英文表記	Common Japanese Painting practice I				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	佐藤 和歌子										
研究室	A412						オフィス アワー 火曜日・昼休み				
メールアドレス	w-sato@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,岩絵具,金箔,銀箔										
授業概要	美術学科に於ける各コースの専門教育のスキル向上のため、所属するコースの専門以外の領域を実体験する。この科目は日本画コース以外の美術学科の学生を対象とし、実習を通して日本画領域への理解を深めるものであり、そのために大きく二つの項目に於ける実習を行なう。最初に日本の文化・美術の成り立ちや日本画の精神性を理解することを目指した実習を行ない、次に日本画特有の画材を用いた技術・技法の習得を目指す。							関連科目			
								共通絵画実習Ⅱ、共通立体実習（彫刻）			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	古来より日本人が大切にしてきた自然界との関わり方を理解した上での写生ができるようになる。									
	②	室内装飾としての役割を踏まえた自然物のイメージ化とその表現への理解ができるようになる。									
	③	日本画の画材の性質を理解できるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	90	0	出席や制作姿勢（10点）	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書											

予備知識	
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	出席及び制作姿勢と実習に於ける全ての作品に対して評価を行なう。

授業での実習をスムーズに実施するため、毎回事前に授業項目に必要な道具の検討及び知識を得ておくこと

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	日本画への理解	講義	日本の文化・美術の成り立ちや日本画の精神性及び画材に対する理解を得る講義	180
2回	テーマ 内容	「花」	実習	屋外にて写生1	180
3回	テーマ 内容	「花」	実習	屋外にて写生2	180
4回	テーマ 内容	制作	実習	和紙・墨・筆への理解及び溜め塗り・たらしこみ技法の習得	180
5回	テーマ 内容	制作	実習	写生を元にした色紙・短冊制作	180 18 0
6回	テーマ 内容	「植物」	実習	屋外にて写生3	180
7回	テーマ 内容	制作	実習	写生を元に装飾芸術としての図案化	180
8回	テーマ 内容	制作	実習	図案化したものを杉板に制作	180
9回	テーマ 内容	「自由」	実習	屋外にて写生4	180
10回	テーマ 内容	制作	実習	写生を元に下図制作	180

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ 内容	制作	実習	和紙の水張り及び地塗り	180
12回	テーマ 内容	制作	実習	下図の転写、墨入れ、下塗り	180
13回	テーマ 内容	制作	実習	盛り上げ、箔	180
14回	テーマ 内容	制作	実習	岩絵具	180
15回	テーマ 内容	総評 合評 採点	実習 講義	岩絵具	180

科目名	共通絵画実習Ⅱ（洋画）（2美）				開講学年	2	講義コード	1672801	区分	選必	
英文表記	Common OilPainting practiceⅡ				開講期	前期集中	開講形態		単位数	2	
担当教員	下城賢一 永田和之（非常勤）										
研究室	L号館A102						オフィス アワー 月1,2				
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	絵画史 コラージュ技法 絵画鑑賞 細密画										
授業概要	平面絵画に共通する基礎的な知識と技法および絵画鑑賞の心得を学ぶ。通常の制作実習ではカバーしていない領域の技法に取り組み、各々の作品制作の幅を広げ深めるような課題を用意している。適切な絵画展や展覧会を鑑賞することで美術全般の見識と理解を深める。絵画史かどのように発展し、変遷を経て現在に至るのかを理解できるようにする。							関連科目			
								共通絵画実習Ⅰ（日本画）			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	細密描写ができる									
	②	画家とその作品の時代性が理解できる									
	③	優れた作品と対峙する事で、自身の作品を考えることができる									
	④	様々な技法や画材に精通する									
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	20	20	40	0	20	100		
教科書	特になし										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	必要な画材を用意すること。展覧会見学については、1ヶ月以上前より日程と展覧会の内容を告知する。
DPとの関連	国内外の美術展を見学することで、幅広い絵画表現の現場に触れる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.成果発表(作品の寸評・講評会)を通して制作した作品の評価を次回の作品制作に繋げられるか。(20点) 2.展覧会鑑賞やレクチャーなどのレポート提出(20点) 3.課題制作の完成度とテーマへの理解度(40点)

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	様々な技法	実習	準備物と課題計画の確認	720
	内容	細密デッサン コラージュ 自由制作			
2回	テーマ	鑑賞	見学演習	該当する展覧会の作家や作品について調べておく	1980
	内容	国内外の美術展を見学			

科目名	日本画実習ⅡA(2美)				開講学年	2	講義コード	1673001	区分	選必	
英文表記	Japanese PaintingⅡA				開講期	前期	開講形態		単位数	8	
担当教員	佐藤 和歌子										
研究室	A412						オフィス アワー 火曜・昼休み				
メールアドレス	w-sato@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,岩絵具,運筆,色紙,短冊,白描法,彫塗,没骨,溜塗,たらし込み										
授業概要	<p>明治以降、日本の生活文化は大きく西洋文化の影響を受けながら変化してきた。日本絵画の世界もそれに伴い大きく変化し、現代においては会場芸術として額装形態の作品が主流となるが日本建築の存続に対し、軸・色紙・短冊の形態も根強く残ることとなる。この形態・様式に対する理解と伝統技法の習得を目指し、日本画独自の美意識や自然観などから生まれる余白を用いた空間表現と金箔・銀箔を使用した背景の表現について西洋画との違いを意識しながら、自らの表現を追求する。</p>							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	墨・和紙の性質を理解できるようになる									
	②	筆の種類・基本的使用方法・様々な筆法を理解できるようになる									
	③	色紙・短冊等の性質と形態の特徴に起因する特有の表現様式を理解できるようになる									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席(10点)	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書											

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	一作品ごとに合評・採点を行う。

この実習は単時限完結であるため、前回の実習における技術的反省点を各自クリアしておくことが重要である。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 内容	運筆 筆と筆法	実習	画材や技法について十分に検討する	180
2回	テーマ 内容	運筆 潤筆と乾筆、直筆と側筆	実習	画材や技法について十分に検討する	180
3回	テーマ 内容	運筆 和紙の種類・ドーサの有無による相違	実習	画材や技法について十分に検討する	180
4回	テーマ 内容	運筆 干濃淡	実習	画材や技法について十分に検討する	180
5回	テーマ 内容	運筆 竹の鉛筆写生	実習	画材や技法について十分に検討する	180
6回	テーマ 内容	運筆 墨で描く(付立)	実習	画材や技法について十分に検討する	180
7回	テーマ 内容	運筆 谷評・採点	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
8回	テーマ 内容	色紙・短冊 色紙・短冊の技法 百描法・彫塗り・波膏・溜塗り・だらし込み等の表現技法	実習	画材や技法について十分に検討する	180
9回	テーマ 内容	色紙・短冊 色紙 野菜・果物の鉛筆写生	実習	画材や技法について十分に検討する	180
10回	テーマ 内容	色紙・短冊 色紙 墨・顔彩で描く	実習	画材や技法について十分に検討する	180

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	色紙・短冊	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	色紙 風景写生(鉛筆淡彩)			
12回	テーマ	色紙・短冊	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	色紙 墨彩画(墨ど顔彩)			
13回	テーマ	色紙・短冊	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	短冊 花の写生(鉛筆淡彩)			
14回	テーマ	色紙・短冊	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	短冊 墨彩画(墨ど顔彩)			
15回	テーマ	色紙・短冊	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	短冊 墨彩画(墨ど顔彩)			
16回	テーマ	色紙・短冊	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	合評・採点			

科目名	洋画実習ⅡA(2美)				開講学年	2	講義コード	1673201	区分	選必		
英文表記	Oil PaintingⅡA				開講期	前期	開講形態		単位数	8		
担当教員	下城賢一 熊谷有展 上野洋嗣(非常勤)											
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金曜日5時限目					
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	油彩 デッサン テンペラ画 人物表現 静物表現											
授業概要	<p>洋画実習ⅠA・Bを経て、西洋絵画の総合的な完成を求める。絵画上での基礎的な表現力を養い、応用力を身につけ、自由に様々なモチーフとテーマに取り組むことを目的とする。また自らの作品の客観的な評価を自分で行うことが出来るようになり、さらにはプレゼンテーションを通して作品を他者へ向けて発表できる力を身につける。イメージの発想と技術の重要性に目を向け、西洋絵画の歴史における時代ごとの変遷や内容を理解しつつ個々の感性による表現を大切にする。対象物を観察し、調和の取れた感動ある作品を目指す。この授業には汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理力の内容も含まれている。</p>								関連科目			
									洋画実習ⅠA、ⅠB			
教職関連区分									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	絵画上の表現力を身に付けることができる										
	②	感性による表現を大切にすることができる										
	③	自然な空間表現ができる										
	④	色彩について理解できている										
	⑤	多様な画材の理解と知識がある										
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	0	40	60	0	0	100			
教科書	プリント配布											
参考書	授業の中で指示する											

予備知識	洋画実習ⅠA,ⅠBを経て、絵画の総合的な完成を求める洋画実習ⅢBへと繋がる。
DPとの関連	汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理力の内容も含まれている。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.作品の講評会を受けて作品の客観的な評価と問題点などを次回の作品制作に復習する。40点 2.課題への理解と、モチーフとテーマへの理解を反映させた作品の評価。60点

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	制作	実習	人物着衣を描く、オリエンテーション、デッサン、エスキース、油彩による着彩	720
	内容	人物画(油彩)			
2回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
3回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
4回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
5回	テーマ	制作	"	" 作品講評	720
	内容	"			
6回	テーマ	制作	実習	静物を描く、オリエンテーション、発想、デッサン、エスキース、油彩による着彩	720
	内容	静物画(油彩)			
7回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
8回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
9回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
10回	テーマ	講評	" 講評	" 作品講評	720
	内容	"			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	制作	実習	人物ヌードを描く、オリエンテーション、デッサン、エスキース、 油彩による着彩	720
	内容	人物画(油彩)			
12回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
13回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
14回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
15回	テーマ	講評	" 講評	" 作品講評	720
	内容	"			

科目名	彫刻実習ⅡA(2美)			開講学年	2	講義コード	1673401	区分	必修	
英文表記	sculpture work 2A			開講期	前期	開講形態		単位数	6	
担当教員	清島 浩徳 (実務経験)									
研究室	L-A-216					オフィス アワー 月曜 5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	塑像による全身像									
授業概要	<p>塑像による人体の全身像を制作する。対象を鋭く観察し、様々なアプローチを試みることによって、造形的な見方・考え方を働かせ、人体の持つ存在感やムーブメントを的確に捉える修練や、それを立体で表現する能力を高める。粘土の持つ可塑性を駆使した表現を自ら探求する姿勢を身につけるとともに、彫刻表現の可能性を追求する態度を養う。作品の自己評価力を高め、作品などに対する見方や感じ方を深める。作品管理能力、自己管理能力の向上を目指す。</p>						関連科目			
							基礎科目:西洋美術史特論Ⅰ、西洋美術史特論Ⅱ、美術領域論Ⅱ(立体)			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	ポーズを理解できるようになる								
	②	量塊の的確な構成(デッサン)ができるようになる								
	③	写実に基づくモデリングができるようになる								
	④	モデルの個性を掴み、表現できるようになる								
	⑤	自分の制作した作品について、とことん追求する姿勢を身につけることができるようになる								
	⑥	作品についてプレゼンテーションすることができるようになる								
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	20	60	10	10	100	
教科書	適宜指示する									
参考書	適宜指示する									

予備知識	石膏技法実習
DPとの関連	美術表現者としての専門性、感性を伸ばし、徹底した観察に基づく制作姿勢を貫かせることは、自ずから作家としての資質のみならず、人間性を育てることにつながり、DPを達成する要素を網羅した授業内容である。
実務経験のある教員	清島浩徳
評価明細基準	・作品制作への姿勢 ・観察力、探究心 ・立体造形の技術力 ・基礎デッサン力 ・作品管理能力 ・自己管理能力

・全身像への取り組みは、精神的、体力的にもハードルが高くなる。したがって、授業に臨む前の準備、その後の作品管理も含め、計画的に制作していく必要がある。作品が完成するまでの、長期間の制作で、いかに多くの発見ができるか、常に新しい発見に挑む姿勢で制作することが大切である。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	オリエンテーション	講義	内容の確認	90
	内容	オリエンテーション			
2回	テーマ	デッサンによるポーズ決め	実習、A L	ポーズの研究を予習する	540
	内容	ポーズ決定のためのデッサン			
3回	テーマ	人体の構造と流れの把握	実習、A L	ポーズの研究(復習)	180
	内容	ポーズの決定と分析			
4回	テーマ	等身用心棒組み	実習、A L	必要な材料を準備する	360
	内容	心棒組み			
5回	テーマ	制作	実習、A L	構造的に粘土を荒付けする	2160
	内容	制作Ⅰ 荒付け			
6回	テーマ	中間講評	実習、A L	講評を反映して制作する	180
	内容	中間講評Ⅰ 相互評価			
7回	テーマ	制作	実習、A L	観察を基にバランスよく全体の粘土をつけ、方向性を探りながら制作する	2160
	内容	制作Ⅱ 展開			
8回	テーマ	中間講評	実習、A L	講評を反映して制作する	180
	内容	中間講評Ⅱ 相互評価			
9回	テーマ	制作	実習、A L	問題点を探りながら、仕上げに向けて制作を深める	3330
	内容	制作Ⅲ まとめ			
10回	テーマ	最終講評	実習、A L	講評を反映して、次作への計画を立てる	180
	内容	最終講評・評価 相互評価			

科目名	木彫実習（2美）		開講学年	2	講義コード	1673601	区分	必修		
英文表記	Wood carving (Practicum)		開講期	前期	開講形態		単位数	4		
担当教員	森 英顕（非常勤）									
研究室	本館1階 非常勤講師室					オフィス アワー 授業の前後				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	彫刻 木彫 立体造形 木工技法									
授業概要	<p>本授業では、木という実材（作品として恒久的に設置することを想定した素材）から彫刻を生み出すプロセスを通して木彫の基本的な技術を学び、素材の持つ要素・特性と向き合いながら魅力的な彫刻作品を生み出すことを目的とします。木彫制作といった物体を手で加工する行為は、視覚情報に合わせて手接触を通じた身体感覚情報を一致させ認識することにより、より正確な体性感覚を身に付けることができます。体性感覚とは触覚や圧覚、位置・動き・力の感覚などです。正確な体性感覚は、加工技能の向上だけではなく、社会にあふれる様々な情報を正確に判断する自分自身の物差しを持つことができ、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養います。自己身体の持つ感覚と物体との関わりを木彫制作を通して学び、汎用的造形力・表現力を体得し、各自の表現活動に生かすことのできる能力を養います。</p>						関連科目			
							彫刻実習 2B、3A、3B、4A、4B			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	木彫制作に必要な道具の扱い方を習得することができる。								
	②	重さ・硬さ・色など、木が持つ形の強さや魅力を知り、立体造形に必要な構造・要素を発見することができる。								
	③	木の素材と向き合い、自分の手で作品を生み出す創造力・実践力を養うことができる。								
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	20	60	10	10	100	
教科書	授業の中で適宜配布する									
参考書	授業の中で適宜配布する									

予備知識	<p>塑造、造形</p>
DPとの関連	<p>実習科目として位置づけられる本授業を通して、立体表現の初歩的な技術及び理解を得ることが期待できる。【知識・理解】 その後の学修の基盤となる力を身に付けることが期待できる。【汎用的技能】 課題を通して幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付ける。【態度・志向性】</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>出席・制作過程・完成作品などを考慮し、総合的に評価する。</p>

動きやすく作業に適した服装であること。作業には電動工具や刃物など危険を伴う道具を使用するため、注意説明をよく聞き、わからないことは事前に質問すること。事故防止のため、常に作業場の清掃や道具等の整理整頓に努めること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	説明	講義	木彫の材料・道具について	180
	内容	ガイダンス			
2回	テーマ	木を彫る	実習	制作プランを準備する	180
	内容	制作プランと守法決め			
3回	テーマ	木を彫る	実習	木の扱い方を知る	180
	内容	木取りと粗取り			
4回	テーマ	木を彫る	実習	木の扱い方を知る	180
	内容	木取りと粗取り			
5回	テーマ	木を彫る	実習	構造についての考察	180
	内容	構造について①			
6回	テーマ	木を彫る	実習	空間と量塊の考察	180
	内容	空間と量塊①			
7回	テーマ	木を彫る	実習	面と稜線の考察	180
	内容	面と稜線①			
8回	テーマ	制作を振り返る①	実習	制作を振り返る	180
	内容	中間講評			
9回	テーマ	木を彫る	実習	構造についての考察	180
	内容	構造について②			
10回	テーマ	木を彫る	実習	空間と量塊を意識し制作	180
	内容	空間と量塊②			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	木を彫る	実習	面と稜線を意識し制作	180
	内容	面と稜線②			
12回	テーマ	木を彫る	実習	全体と細部の関係性を考察し制作	180
	内容	全体と細部について			
13回	テーマ	木を彫る	実習	形と表現の追求	180
	内容	形と表現①			
14回	テーマ	木を彫る	実習	形と表現の追求	180
	内容	形と表現②			
15回	テーマ	木を彫る	実習	形と表現の追求	180
	内容	形と表現③			
16回	テーマ	制作を振り返る②	実習	作品プレゼンテーション	180
	内容	プレゼンテーション及び講評			

科目名	デザイン表現演習Ⅰ(2美)			開講学年	2	講義コード	1673701	区分	選択	
英文表記	Design Expression Practice			開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	三枝泰之									
研究室	D315					オフィス アワー 月曜3時限目				
メールアドレス	lunacy@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	DTP									
授業概要	自分の研究している内容を文章(テキスト)とともに、図や写真などを組み合わせ、視覚的にその内容を伝える能力が美術史を学習していく上でも重要である。本演習では視覚伝達デザインの基礎的な知識・技術についての理解を深め、実際にPhotoshopやIllustratorのソフトの基礎的な操作を学ぶ。上記のソフトを使用して、ポスターやチラシ、また展示パネルなどの制作ができる能力を習得する。						関連科目			
							メディアデザイン実習、コンテンツ制作実習、広告デザイン実習、グラフィックデザイン実習、総合造形実習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	グラフィックアプリケーションの基本操作の修得ができる								
	②									
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	10	10	10	70	100	
教科書	授業の中で指示する									
参考書	世界一わかりやすいIllustrator 操作とデザインの教科書 Web ピクセルハウス									

予備知識	PCの基本的な仕組みの理解
DPとの関連	優れた応用力を有するための、汎用的基礎力と基本的な専門知識を身につけることで社会の中に発信していく。
実務経験のある教員	
評価明細基準	① 授業中の質疑や課題発表から学生の理解度を評価する。② 並行した関連制作を通して、受講者の理解度を確認・評価

コンピューターやソフトの操作は慣れることは必要です。日常的にコンピューターに触れる機会を多くつくること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 内容	授業全体に関するオリエンテーション WebClass、Webmailの理解、PCの仕組み/USBメモリ	視覚資料 による講 義	シラバス確認・オリエンテーション	90
2回	テーマ 内容	アプリケーション/フォント 文字、CG、動画、画像、ラスター/ベクター	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った理解	90
3回	テーマ 内容	イラストレータの理解__01 イラストレータの基本(ベジェ曲線)	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った予習・復習	90
4回	テーマ 内容	イラストレータの理解__02 トレース基本1	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った予習・復習	90
5回	テーマ 内容	イラストレータの理解__03 トレース基本2	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った予習・復習	90
6回	テーマ 内容	イラストレータの理解__04 文字入力、アウトライン化	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った予習・復習	90
7回	テーマ 内容	フォトショップの理解__01 フォトショップの基本(ビットマップ)	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った予習・復習	90
8回	テーマ 内容	フォトショップの理解__02 画像編集1	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った予習・復習	90
9回	テーマ 内容	フォトショップの理解__03 画像編集2	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った予習・復習	90
10回	テーマ 内容	イラストレータの応用__01 ベジェ曲線とロゴマーク1	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った自学	90

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	イラストレータの応用__02	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った自学	90
	内容	ベジエ曲線とロゴマーク1			
12回	テーマ	フォトショップの応用__01	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った予習・復習	90
	内容	切り抜きコラージュ1			
13回	テーマ	フォトショップの応用__02	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った予習・復習	90
	内容	切り抜きコラージュ2			
14回	テーマ	イラストレータとフォトショップ	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った予習・復習	90
	内容	イラストレータとフォトショップの互換、下絵とグリッティングパス			
15回	テーマ	総括	視覚資料 による講 義・実習	アプリケーションを使った予習・復習	90
	内容	まとめ			

科目名	デザイン表現演習Ⅱ(2美)			開講学年	2	講義コード	1673801	区分	選必		
英文表記	Design Skills II			開講期	前期	開講形態		単位数	2		
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208					オフィス アワー 水曜日5限					
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	ドキュメント制作 写真撮影 画像加工・編集										
授業概要	文化財を含む芸術作品を対象とする美術史という学問は自分の目で観察した芸術作品を言葉で伝えるというのが基本的な作業となる。その一方、対象とした作品を映像、特に視覚イメージとして映像技術で再現・記録することも美術史研究にはなくてはならない能力である。本講義では芸術作品の記録・加工・編集という観点から「写真」を用いた資料についての考え方の他、カメラの扱い方、写真撮影の基本操作について講義と撮影実習を通して学んでいく。講義については事前に配布されたテキストを精読しておくこと。提出後の講評によりフィードバックを実施。実践編では使用する機材(カメラ、ライティング機材など)を扱える状態しておくので、事前に触って、実践にスムーズに進めるような状態しておくこと。							関連科目		芸術文化専門科目全般、デザイン表現演習Ⅰ、視覚造形実習Ⅰ-Ⅳ、博物館実習	
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	文化財を含む芸術作品について理解を深めるために映像表現をどのように活用できるかについて理解できる。									
	②	基礎的な写真撮影の操作およびドキュメント作成ができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	60	0	10	30	100		
教科書	特に指定しない。										
参考書	光と影の芸術 平凡社 東京都写真美術館編 たのしい写真 よい子のための写真教室 平凡社、2009年 ホンマタカシ 写真がもっと好きになる。菅原一剛の写真ワークショップ。ソフトバンククリエイティブ、2008年 菅原一剛 フィルムカメラの教科書 雷鳥社 キッチンミノル										

予備知識	写真を撮ることに日常的に慣れておくこと。
DPとの関連	造形活動および芸術文化研究に必要なドキュメント作成能力を学ぶ。
実務経験のある教員	
評価明細基準	講義および実践の積極的な取り組み(30%)と課題提出(60%)、その他SOJOポートフォリオの提出により評価する。

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	オリエンテーション	講義	本演習の内容・目的を理解する	90
	内容	授業の進め方(第1回)			
2回	テーマ	写真を読む①	演習/実習	課題①作成	180
	内容	画像取り込み/好きな写真の記述(第2,3回)			
3回	テーマ	写真を読む②	演習/実習	課題②作成	180
	内容	画像取り込み/好きな写真に自分でタイトルをつける(第4,5回)			
4回	テーマ	カメラを知る。	講義・実習	配布資料の復習。	180
	内容	カメラとフィルムの種類/レンズの種類`スライドフィルム鑑賞`DAMCAMによる撮影 (第6,7回)			
5回	テーマ	スナップ写真を撮ろう①	実習	写るんです撮影、現象、プリント	180
	内容	写るんです篇(第8,9回)			
6回	テーマ	スナップ写真を撮ろう②	実習	ポラロイド撮影	180
	内容	ポラロイドカメラ篇(第10,11回)			
7回	テーマ	マニュアル一眼レフカメラの撮影体験	撮影実習	マニュアルの一眼レフカメラの操作実施。	180
	内容	ネガとポジ・フィルムの撮影実習(第12,13回)			
8回	テーマ	撮影実習	撮影実習	カメラの基本操作の復習	180
	内容	カメラの基本操作と心構え`作品の撮影(三脚および照明を使用して)(第14回) 総括(第15回)			

科目名	西洋美術史特論Ⅰ(2美)			開講学年	2	講義コード	1673901	区分	選必		
英文表記	History of Western Art Advanced I			開講期	前期	開講形態		単位数	2		
担当教員	関根 浩子										
研究室	A313					オフィス アワー 金曜3限					
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	美術史学 芸術学 芸術家列伝 AL PBL										
授業概要	<p>本学科の目標の一つに高度な専門知識を総合的に身に付けるということが挙げられるが、本科目は美術史を専門とする学生にとって不可欠な科目である。本科目では、これから芸術を理論的に学んでいく学生のために、美術史学とは何か、芸術学とは何かについて理解を深めるとともに、それらの「学」としての成立や、発展・展開の歴史について学ぶ。今年度もイタリヤのヴァザーリが書いた美術家列伝と、列伝中に取り上げられた作家の中から数名を取り上げ、現存作品と照合しながらヴァザーリの評価の基準について考察する。また、列伝の中から担当作家を一人決め、担当作家について調べプレゼンしてもらう予定である。さらに、プレゼンの後にはプレゼンについてのフィードバック、またレポートについては提出後、添削して返却するので、赤で注意書きした点を熟読し、次回のレポート作成時に反映させるようにして欲しい。</p>							関連科目			
								西洋美術史 西洋彫刻論 など			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	古代から近世にかけての美術史学の展開を理解する。									
	②	文献を正確に読む能力を身につける。									
	③	資料から得られる情報を整理し、整理した情報を根拠として、専門用語を使いながら作家や作品に対する自身の考えを書く能力を身に付ける。									
	④	自分で文章化した内容を要領よく適切にプレゼンテーションできるようになる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	35	40	0	10	15	100		
教科書	授業時に配布										
参考書	美術史学の歴史 中央公論美術出版 ウード・クルターマン ISBN4-8055-0289-4 「北方画家列伝」注解 中央公論美術出版 カーレル・ファン・マンデル ISBN978-4-8055-0705-6 美術家列伝 第1、3、4、5 中央公論美術出版 ジョルジョ・ヴァザーリ 他										

予備知識	特になし。
DPとの関連	芸術文化研究における専門家として社会で活躍するために、専門的知識(ここでは美術史学や芸術学の成立や展開に関する知識)や論理的思考力、プレゼンテーション力を身に付ける。また、4年次の卒業研究に向け、課題や問題に対する古代から近代までの解決方法を学修することができる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	成績の評価は、プレゼンテーションとレポートを中心に、ポートフォリオと出席状況も加味して行う。合計が6割に満たない場合はレポート再提出とする。

プレゼンテーションと課題(レポート)提出がある。参考書は高額であるが、図書館や芸術学部図書室に配架されているので、進んで参照すること。また記載した参考書以外の関連書籍も参照して自習して欲しい。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 概説	ルネサンスの芸術史	講義	配布資料の復習	30
	内容	ルネサンスの芸術史			
2回	テーマ 古代～中世	古代～中世までの美術批評ノイタリア語入門	講義 演習	配布資料の復習	30
	内容	古代～中世までの美術批評ノイタリア語入門			
3回	テーマ 中世～近世	中世～近世の美術批評ノイタリア語入門	講義 演習	配布資料の復習	30
	内容	中世～近世の美術批評ノイタリア語入門			
4回	テーマ イタリアの美術家列伝	ダヴィンチとダヴィンチの美術家列伝ノイタリア語入門	講義 講読	配布資料の復習	30
	内容	ダヴィンチとダヴィンチの美術家列伝ノイタリア語入門			
5回	テーマ イタリアの美術家列伝	ダヴィンチの美術家列伝ノイタリア語入門	講義 講読	配布資料の復習	30
	内容	ダヴィンチの美術家列伝ノイタリア語入門			
6回	テーマ 美術家列伝とその内容	ジョットと列伝の記述	講義 講読	配布資料の復習	30
	内容	ジョットと列伝の記述			
7回	テーマ 美術家列伝とその内容	ジョットと列伝の記述	講義 講読	配布資料の復習 発表対象決定	30
	内容	ジョットと列伝の記述			
8回	テーマ 美術家列伝とその内容	ジョットと列伝の記述	講義 講読	配布資料の復習 プレゼン準備	60
	内容	ジョットと列伝の記述			
9回	テーマ 美術家列伝とその内容	ヤコポ・カルッチ・ダ・ボントルモと列伝の記述	講義 講読	配布資料の復習 プレゼン準備	60
	内容	ヤコポ・カルッチ・ダ・ボントルモと列伝の記述			
10回	テーマ 美術家列伝とその内容	ヤコポ・カルッチ・ダ・ボントルモと列伝の記述	講義 講読	配布資料の復習/プレゼン準備	60
	内容	ヤコポ・カルッチ・ダ・ボントルモと列伝の記述			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	美術家列伝とその内容	講義 講読	配布資料の復習／プレゼン準備	60
	内容	ヤコボ・バルツィ・ダ・ボンドルモと列伝の記述			
12回	テーマ	学生による発表	AL PB	配布資料の復習／プレゼン準備	180
	内容	担当作家に関するプレゼンテーション②			
13回	テーマ	学生による発表	AL PB	配布資料の復習／プレゼン準備	180
	内容	担当作家に関するプレゼンテーション②			
14回	テーマ	学生による発表	AL PBL	配布資料の復習／プレゼン準備	180
	内容	担当作家に関するプレゼンテーション③			
15回	テーマ	プレゼン まとめ	AL PBL	レポート提出	180
	内容	学生によるプレゼンテーション 総括			

科目名	芸術学演習Ⅱ（原書講読）（2美）				開講学年	2	講義コード	1674301	区分	選必	
英文表記	Seminar on Arts (Reading Original Texts) II				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A313						オフィス アワー 金曜3限				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	解説 草書体 明治期 近代日本画										
授業概要	<p>本学科の人材育成目標の一つに、専門分野に関する深い理解を獲得し、高度な専門家を養成することがあるが、本科目は、学芸員やそれに類する仕事に就くことを目指す学生には、本科目は必要不可欠な科目である。本科目は、岡倉天心にその才能を認められて日本美術院の創設に参加し、天心の理想とする新日本画創造に邁進した近代日本画家菱田春草の草書体によるさまざまな自筆の書簡や芸術論を読み、作品や作家に対する理解を深め、明治期や大正期の類似した作家の研究に応用できる能力を養う。また、「候文」の読解の講義、演習に入ったら、自力で読解してもらった後、毎回答え合わせ（フィードバック）を行うので、間違えたり読めなかった箇所は『くずし字事典』を見直して、しっかり復習して欲しい。</p>							関連科目			
								日本美術史、日本文化特論、ほか			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	活字化された明治期の候文が読めるようになる。									
	②	明治期の芸術家の毛筆による草書体の筆跡や文体(候文)、略字、個人的な書き癖に慣れ、独力で原文を読めるようになる。									
	③	作家や作品に対してより深い理解が得られるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	60	0	0	15	0	10	15	100		
教科書	授業の中で配布する										
参考書	<p>菱田春草総合年譜 下伊那教育会 下伊那教育会編 菱田春草の書簡と絵画—菱田家よりの寄贈品— 下伊那教育会 菱田春草研究委員会 菱田春草 大日本絵画巧芸美術株式会社 菱田春夫 原色日本の美術30近代の日本画 小学館 日本美術史 美術出版社 山根有三監修</p>										

予備知識	特になし。
DPとの関連	芸術文化研究の専門家になるための専門的知識や技術(ここでは史料の読解)を身に付け、課題や問題を自力で解決できるようになる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	定期試験における草書体の書簡や葉書の読み下し文(計60点)と普段の口頭による読み下し(15点)、ポートフォリオ、出席状況の合計点とする。合計が60点に満たない場合は再試験とする。

くずし字解読辞典を必携し、配布資料を予習、復習するとともに、授業で取り上げない書簡等も積極的にコピーし、自主的に解読に努めること。最後に筆記試験がある。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	概説	講義	科目の内容や目標を理解する	30
	内容	オリエンテーション 作家・講読資料に関する概説 日本近代絵画史(日本画史)概説			
2回	テーマ	日本近代絵画史	講義	日本近代絵画史(日本画史)(復習)	40
	内容	日本近代絵画史(日本画史)概説			
3回	テーマ	日本近代絵画史	講義	日本近代絵画史(日本画史)(復習)	40
	内容	日本近代絵画史(日本画史)概説			
4回	テーマ	候文葉書	講義 演習	配布された資料の復習	40
	内容	活字化された候文の葉書の講読			
5回	テーマ	候文葉書	講義 演習	配布された資料の復習	40
	内容	活字化された候文の葉書の講読			
6回	テーマ	候文書簡	講義 演習	配布された資料の復習	40
	内容	活字化された候文書簡の講読			
7回	テーマ	候文書簡	講義 演習	配布された資料の復習	40
	内容	活字化された候文書簡の講読			
8回	テーマ	候文書簡	講義 演習	配布された資料の復習	40
	内容	活字化された候文書簡の講読			
9回	テーマ	草書体の葉書	講義 演習	配布された資料の復習	60
	内容	草書体の葉書の原文の解説			
10回	テーマ	草書体の葉書	講義 演習	配布された資料の復習	60
	内容	草書体の葉書の原文の解説			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	草書体の書簡	講義 演習	配布された資料の復習	60
	内容	草書体の書簡の原文の解読			
12回	テーマ	草書体の書簡	講義 演習	配布された資料の復習	60
	内容	草書体の書簡の原文の解読			
13回	テーマ	草書体の書簡	講義 演習	配布された資料の復習	60
	内容	草書体の書簡の原文の解読			
14回	テーマ	草書体の書簡	講義 演習	配布された資料の復習	60
	内容	草書体の書簡の原文の解読			
15回	テーマ	試験	試験	葉書と書簡の原文に関する試験	180
	内容	試験			

科目名	ワークショップ演習(2美)(通年)			開講学年	2	講義コード	1674501	区分	選必	
英文表記	Workshop Practice			開講期	通年・集中	開講形態		単位数	2	
担当教員	永田 郁									
研究室	芸術学部棟A208					オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	ワークショップ ファシリテーター									
授業概要	近年、アートワークショップという形での芸術活動が非常に注目されている。アートワークショップが美術館・博物館や地域において社会と人々を繋ぐものとして、有効に活用されている。また、アートワークショップを表現手段の一つとして活躍しているアーティストも増えてきている。本演習は受講者全員と担当教員が一緒になって、「アートワークショップ」という実践的な方法で、アートと社会の関係を考えていく。併せて、アートワークショップの実践を通して、社会と人々をつなげるファシリテーター(活動を促進する人)としての基礎的な知識・技術を理解していく。初回、オリエンテーションに従い講義&実践を進めていくので、受講者自身が意識をもって、「指示待ち」状態にならないよう、特にワークショップの実践においては事前に自分の役割を確認し、任された作業・仕事は確実に実施し、協働作業に支障がないよう準備してくること。学生へのフィードバックは毎回の演習において実施する。						関連科目			
							美術史基礎演習Ⅰ／Ⅱ、アートマネジメント論、美術ジャーナル論、デザイン表現演習Ⅰ／Ⅱ、視覚造形実習ⅠA-B、ⅡA-B、視覚造形演習A,B 学芸員課程科目／教職課程科目			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)						学修・教育目標			
							JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	実践的な学習によって、アートの方で地域や人々を繋いでいき、アートの楽しさ、アートの可能性について実践的な方法で理解できる。								
	②	実践を執り行っていく過程で、色々な問題が生じるが、それを「manage」(なんとかする)して、計画が実施できる柔軟な対応力を身につけることができる。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	10	30	0	10	50	100	
教科書	tupera tupera わくわくワークショップ みんなでたのしむ造形タイム チャイルド本社 tupera tupera アートプロジェクトのつくり方「つながり」を「つづける」ためのことば アートフィルム社 森司監修 上記のテキストは購入の必要なし、適宜コピーを配布する。									
参考書	これからのアートマネジメント“ソーシャル・シェア”への道 フィルムアート社 中川真+編集部 藤浩志のかえるワークショップ いまをかえる、美術の教科書 3331 ARTS CYD 藤浩志 アートプロジェクト(芸術と共創する社会) 水曜社 熊倉純子 コミュニティ・アートプロジェクト ゼロダテ/絶望をエネルギーに変え、街を再生する NPOゼロダテ 中村政人 クリエイティブ・コミュニティ・デザイン 関わり、つくり、巻き込もう フィルムアート社 紫牟田伸子+編集部									

予備知識	積極的に美術館・博物館や地域で開催されているワークショップに参加しておく参考となる。
DPとの関連	人間社会の様々な問題や課題に対して、課題解決のための知識や取り組み方を実践的に学ぶ。
実務経験のある教員	
評価明細基準	平常の授業／ワークショップの取り組み方(50点)ワークショップ企画プレゼンテーション(30点)実践成果および提出物(企画書・報告書など)(10点)、SOJOポートフォリオ(10点)

本演習は基本的にグループ作業で行う。視覚造形実習ⅡA, ⅡBと連携。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	序(4月)	講義	本演習の理解、目的の確認。	90
	内容	オリエンテーション(授業の進め方)(第1回)			
2回	テーマ	研究・計画編①4月-6月	講義/演習	企画立案 企画プレゼンテーション	360
	内容	よりみち展×ワークショップ@くまもと森都心プラザ図書館 見学/よりみち展の展示・ワークショップ企画立案・プレゼンテーション(第一次選考)/くまもと森都心プラザにて企画プレゼンテーション(企画確定)(第2, 34, 5回)			
3回	テーマ	展示計画編① 6月後半以降	講義/演習	展示の構想、準備、制作へ取りかかる。	450
	内容	タイムスケジュール、実施段取り等詳細決定 制作開始(第6, 7, 8, 9, 10回)			
4回	テーマ	ワークショップ計画編②	AL	ワークショップの立案、準備	180
	内容	デジタルデザインにおけるワークショップの企画立案(第11, 12回)			
5回	テーマ	実践編①9月	AL	ワークショップの実施。よりみち展の制作。	540
	内容	デジタルデザインの実施。よりみち展のDM作成 展示制作、ワークショップ準備(第13, 14, 15, 16, 17, 18回)			
6回	テーマ	実践編②10-11月	AL	よりみち展開催に向け制作、開催。	900
	内容	よりみち展展示・ワークショップ(11月後半実施)の準備・制作・実施(19-28回)			
7回	テーマ	総括・まとめ(1月、29-30回)	AL	ポートフォリオ作成	180
	内容	デジタルデザイン・よりみち展の振り返り。(第29, 30回)			

科目名	視覚造形実習ⅡA(2美)				開講学年	2	講義コード	1674601	区分	必修	
英文表記	Visual Arts WorkⅡA				開講期	前期	開講形態		単位数	8	
担当教員	永田郁 林浩(非常勤) 森英顕(非常勤) 東耕平(非常勤)										
研究室	永田A208(芸術学部棟)						オフィス アワー 水曜日5限(永田)				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	アート制作 色彩 木彫、石膏 ワークショップ										
授業概要	<p>本実習は視覚芸術3年生の個人制作に向けて、必要な技術、素材(木彫・石膏等)の扱い方を学ぶ、さらにプラザ図書館で後期に実施するよりみち展の作品展示・ワークショップを念頭においた実践的なワークショップの考え方や実践を学んでいく。各担当教員による講評により学生へのフィードバックを行う。視覚造形実習ⅡAの担当は次の通りである。月曜3-4限 森英顕(非常勤)木彫・石膏 火曜1-2限 東耕平(非常勤)ワークショップ 水曜3-4限 林浩(非常勤)色彩論 木曜1-2限 永田郁(美術)</p>							関連科目			
								視覚造形実習ⅠA、ⅠB、視覚造形演習A、B、視覚造形実習ⅢA、ⅢB、ワークショップ演習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科に関する科目(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像が表現を含む)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	アート制作にあたり、必要な基本的なものの考え方、素材や道具の扱い方、体を動かして発想する方法を理解できる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	20		70	10	0	100		
教科書											
参考書	ヨハネス・イッテン色彩論 美術出版社 大智浩 訳 色彩の表記 みすず書房 アルバート・H・マンセル著 日高杏子 訳										

予備知識	
DPとの関連	視覚芸術コースとしての造形活動に対するものの見方や考え方を思考と体を動かしながら身につけていく。
実務経験のある教員	
評価明細基準	各クラスの課題70%、ポートフォリオ20%、目標到達度レポート10%計100点。

本実習は曜日毎に内容が異なるので、オリエンテーションには必ず出席すること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	森英顕(非常勤)クラス	レクチャー	実習の目的の理解	
	内容	木工接法、木彫			
2回	テーマ	説明	講義+実習	立体造形の材料・道具について	180
	内容	ガイダンス			
3回	テーマ	制作	実習	石膏の扱い方	180
	内容	石膏加工01			
4回	テーマ	制作	実習	石膏による造形	180
	内容	石膏加工02			
5回	テーマ	制作	実習	材加工の道具と基礎技法① 材加工の道具と基礎技法②	360
	内容	木材加工01 木材加工02			
6回	テーマ	制作	実習	木材の研磨と塗装技法	180
	内容	木材加工03			
7回	テーマ	制作	実習	制作プランと寸法決め	180
	内容	木彫制作01			
8回	テーマ	制作	実習	木取りと荒取り	360
	内容	木彫制作02-03			
9回	テーマ	制作	実習	構造について	180
	内容	木彫制作04			
10回	テーマ	制作	実習	空間と量塊	180
	内容	木彫制作05			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	制作	実習	面と稜線	180
	内容	木彫制作06			
12回	テーマ	制作	実習	全体と細部について	180
	内容	木彫制作07			
13回	テーマ	制作	実習	形と表現①②	180
	内容	木彫制作08-09			
14回	テーマ	制作	講評	プレゼンテーション及び講評	180
	内容	木彫制作10			
15回	テーマ	東耕平(非常勤)クラス ワークショップ	講義	ワークショップについての説明	180
	内容	1.ワークショップとは?			
16回	テーマ	ワークショップ	演習	年齢層・目的・素材・予算等について	360
	内容	2-3. ワークショップをする上で考慮しなければならないことを考える。			
17回	テーマ	ワークショップ	演習	リサーチ	360
	内容	4-5. 現在行われているワークショップを調べる。			
18回	テーマ	ワークショップ	演習	ワークショップ案プレゼンテーション	180
	内容	6. ワークショップ案提出			
19回	テーマ	ワークショップ	実習	ワークショップ準備・実施	360
	内容	7-8. 模擬実践			
20回	テーマ	ワークショップ	演習	振り返り	180
	内容	9. 実践の講評、反省会			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	ワークショップ	実習	ワークショップ準備。	360
	内容	10-11.ワークショップ実践①			
22回	テーマ	ワークショップ	実習	実際の子供たちとワークショップを行う。	540
	内容	12-14.ワークショップ実践②			
23回	テーマ	ワークショップ	演習	実地実践の振り返り	180
	内容	15.講評・反省会			
24回	テーマ	林浩(非常勤)クラス			
	内容				
25回	テーマ	色彩論 オリエンテーション	講義	課題の概要と目的を理解する	180
	内容	授業概要および課題の具体的な内容の説明・準備するものについて			
26回	テーマ	色彩の性格と遠近法的図像の成立-①	レクチャー -実習	見て判断をすることの経験 ビジュアル作品における感覚的 判断の正確さについて	180
	内容	与えられたモノクロの画像を指定された有彩色に置き換える-① 2種類制作 [モノトーンと同系色]			
27回	テーマ	色彩の性格と遠近法的図像の成立-②	レクチャー -実習	見て判断をすることの経験 ビジュアル作品における感覚的 判断の正確さについて	180
	内容	色彩の性格と遠近法的図像の成立-②			
28回	テーマ	色彩の性格と遠近法的図像の成立-③	レクチャー -実習	見て判断をすることの経験 ビジュアル作品における感覚的 判断の正確さについて	180
	内容	えられたモノクロの画像を指定された有彩色に置き換える-③ 2種類制作 [固有色の表現について]			
29回	テーマ	色彩を見る視点①-④	レクチャー -実習	色彩を判断する基準の学習 -①-④	720
	内容	カラーチャートの作成 ①(色相別) ②(彩度別) ③(明度別) ④(相対的に見た時の進出と後退)			
30回	テーマ	色彩表現の可能性-①	レクチャー -実習	固有色表現の幅に関して試みる	180
	内容	与えられたモノクロの人物像を有彩色に置き換える-① [固有色の表現について考える]			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
31回	テーマ	色彩表現の可能性-②③	レクチャー -実習	表現の自由の幅について考える	360
	内容	与えられたモノクロの人物像を有彩色に置き換える-②③[自由に表現する]			
32回	テーマ	色彩表現の可能性-③	レクチャー -実習	表現の自由の幅について考える	540
	内容	自分で選んだモチーフ(既存の写真でも可)			
33回	テーマ	講評	レクチャー	表現の自由の幅について考える	180
	内容	作品講評			
34回	テーマ	永田郁クラス よりみち展制作他	実習	実地見学・企画書作成・作成プレゼンテーション	180× 7
	内容	図書館プロジェクト(4-5月)			
35回	テーマ	よりみち展制作他	実習	スケジュール作成 展示の準備	180 × 5
	内容	図書館プロジェクト(6-7月)			
36回	テーマ	よりみち展制作他	実地見学	見学後の展覧会評作成。	180× 2
	内容	美術館見学&レポート作成			
37回	テーマ	よりみち展制作他	演習	前期の課題のポートフォリオ作成	180
	内容	ポートフォリオ作成			

科目名	日本画実習ⅢA (3美)				開講学年	3	講義コード	1674801	区分	選必	
英文表記	Japanese Painting ⅢA				開講期	前期	開講形態		単位数	4	
担当教員	中村 賢次										
研究室	A416						オフィス アワー 水曜昼休み				
メールアドレス	ken1214@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画										
授業概要	日本画には古くより特有の表現技法が伝えられている。更に日本画そして絵画全般に云える事は、自然を相手に心の動くところを表現したものである。自然の形態、色彩、明暗、そして匂いや肌で感じるものが人間の感性を動かし、心に映り、心象となって、これが平面の上に描かれ絵画となって行く。特に日本画の基本的様式は平面的・装飾的な表現であり、線が主要なものとなり、対象を見たまに描写するのではなく自分の意思・感覚・思想・生活感情等を通して単純化されたものである。このことを暗まえ、自分の心に呼応した対象と向き合って日本画制作に取り組む。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科に関する科目(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像がIT表現を含む)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	自然と対峙し落ち着いて写生を行なう姿勢を養うことができるようになる									
	②	自分が感動した事象を客観的に捉える能力を養うことができるようになる									
	③	大作を描くために必要な過程の理解とその技術を習得することができるようになる									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80点	10	出席10点	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	日常的に質疑を行ない理解度を深める。一作品ごとに合評・採点を行なう。

前回の実習の反省点を十分に検討した上で、毎時ごとに制作到達計画を立てる。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ 風景	風景をテーマとして屋外にて写生及び50号パネル製作	実習	作品にする風景と出会うため屋外にて写生	180
2回	テーマ 風景	小下図・草稿制作及び裏打ち	実習	感覚的なイメージを具現化する	180
3回	テーマ 風景	草稿を転写、墨入れ、地塗り	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	180
4回	テーマ 風景	本紙制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
5回	テーマ 風景	本紙制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
6回	テーマ 風景	本紙制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
7回	テーマ 風景	谷評・採点	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
8回	テーマ 自由制作	描く対象を各自写生及び100号パネル製作	実習	十分に写生を繰り返す	180
9回	テーマ 自由制作	小下図・草稿制作及び裏打ち	実習	感覚的なイメージを具現化する	180
10回	テーマ 自由制作	墨入れ、地塗り、本紙制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	180

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
12回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
13回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
14回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
15回	テーマ	自由制作	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	谷評・採点			

科目名	日本画実習ⅢB (3美)				開講学年	3	講義コード	1674901	区分	選必	
英文表記	Japanese painting Practical ⅢB				開講期	前期	開講形態		単位数	4	
担当教員	佐藤 和歌子										
研究室	A412						オフィス アワー 火曜・昼休み				
メールアドレス	w-sato@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,岩絵具,風景画										
授業概要	二年次までに習得した日本画の基礎的知識と技術・技法の元に各自が自由なテーマに基づき個性的表現の実践と研究を行なう。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科に関する科目(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像デジタル表現を含む)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	自分の表現したい世界・対象を具現化するための造形力と技術力を養うことができるようになる									
	②	大作を描くために必要な全プロセスを理解できるようになる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席(10点)	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	出席及び制作姿勢と実習に於ける全ての作品に対して評価を行う。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	風景	実習	作品にする風景と出会うため屋外にて写生	180
	内容	風景をテーマとして屋外にて写生及び50号パネル製作			
2回	テーマ	風景	実習	感覚的なイメージを具現化する	180
	内容	小下図・草稿制作及び裏打ち			
3回	テーマ	風景	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	180
	内容	草稿を転写、墨入れ、地塗り			
4回	テーマ	風景	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
5回	テーマ	風景	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
6回	テーマ	風景	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
7回	テーマ	風景	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	谷評・採点			
8回	テーマ	自由制作(100号)	実習	十分に写生を繰り返す	180
	内容	描く対象を各自写生及び100号パネル製作			
9回	テーマ	自由制作	実習	感覚的なイメージを具現化する	180
	内容	小下図・草稿制作及び裏打ち			
10回	テーマ	自由制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	180
	内容	墨入れ、地塗り、本紙制作			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
12回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
13回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
14回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
15回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
16回	テーマ	自由制作	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	合評・採点			

科目名	洋画実習ⅢA (3美)				開講学年	3	講義コード	1675201	区分	選必	
英文表記	Oil Painting ⅢA				開講期	前期	開講形態		単位数	4	
担当教員	熊谷有展										
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金5				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	作家研究										
授業概要	作家研究を通して、二年度までのカリキュラムで習得した基本的技術を完成させ、自分自身の絵画世界を展開させる。幅広い表現方法、用具の特性の理解や、洋画の歴史について学ぶ。							関連科目			
								洋画実習ⅡB			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科に関する科目(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像デジタル表現を含む)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	専門的な知識や技術を身に付ける									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	70	10	20	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	洋画実習ⅡB
DPとの関連	今後の創作活動を見据え、専門的な知識や技術を身につける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	課題作品のデッサン・エスキースを含んだ作品 講評・採点

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	制作	実技	オリエンテーション、発想、取材、デッサン、エスキース等	360
	内容	テーマ、構図の決定			
2回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
3回	テーマ	〃	〃	構図の決定	360
	内容	〃			
4回	テーマ	〃	〃	作家研究による自由制作。各自、自由な発想・テーマに基づいて、よりプロセスを大切にしながら取り組む	360
	内容	油彩による制作			
5回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
6回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
7回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
8回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
9回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
10回	テーマ	〃 講評	〃 講評	〃	360
	内容	〃 中間講評			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	制作	実技	"	360
	内容	油彩による制作			
12回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
13回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
14回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
15回	テーマ	講評	講評	"	360
	内容	作品講評			

科目名	洋画実習ⅢB (3美)				開講学年	3	講義コード	1675301	区分	選択		
英文表記	Oil Painting ⅢB				開講期	前期	開講形態		単位数	4		
担当教員	熊谷 有展 永田和之 (非常勤)											
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金曜日5時限目					
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	洋画ⅢB											
授業概要	<p>大作を制作するには、特にプロセスが重要である。発想段階から取材、デッサン、エスキース等の試行錯誤を経て作品のテーマが明確化される。自主的な制作計画を身につけながら自己の造形能力、感性を錬磨し、積極的な制作活動が求められる。発想段階から制作プロセスをエスキース等を見ながら話し合いを進めていく。この授業には汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理力の内容も含まれている。幅広い表現方法、用具の特性や油彩画の歴史について学ぶ。</p>								関連科目			
									洋画実習ⅢA			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科に関する科目(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像がデジタル表現を含む)</p>								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	作家研究をする中で自身に合う表現を探することができる										
	②	方向性・個性を確立させることができる										
	③											
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	0	0	70	10	20	100			
教科書	特になし											
参考書	特になし											

予備知識	洋画実習ⅢAと連動して、テーマ制作を更に深める。
DPとの関連	汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理能力の内容も含まれている。
実務経験のある教員	
評価明細基準	課題作品のデッサン、エスキースを含んだ作品 講評、採点

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	制作	実技	オリエンテーション、発想、取材、デッサン、エスキース等	360
	内容	テーマ、構図の決定			
2回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
3回	テーマ	制作	"	構図の決定	360
	内容	"			
4回	テーマ	制作	"	各自、自由な発想に基づいて、よりプロセスを大事にして取り組む	360
	内容	油彩による制作			
5回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
6回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
7回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
8回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
9回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
10回	テーマ	講評	" 講評	"	360
	内容	" 中間講評			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
12回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
13回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
14回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
15回	テーマ	講評	" 講評	"	360
	内容	作品講評			

科目名	彫刻実習ⅢA (3美)			開講学年	3	講義コード	1675601	区分	選必	
英文表記	Sculpture trainingⅢA			開講期	前期	開講形態		単位数	4	
担当教員	勝野 眞言 (実務経験)									
研究室	A212					オフィス アワー 火曜日16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	粘土,人体,観察,量塊									
授業概要	人間をテーマにした彫刻表現の歴史は永い。私自身塑造分野の世界で人間表現の追求に取り組み、国内外での発表活動を経て半世紀近い。また、制作を通じた美術振興に関わる様々なプロジェクトの立案、支援も取り組んできた。これらの知見をもとにこの科目では、塑造による人体表現をテーマとして、身に付けるべき普遍的な造形の基礎を学びながら、成果物としての作品を地域共創活動での発表として展開する。授業は人体観察による等身大の塑造制作である。粘土の特性である可塑性や固まりなどの材料の性質を理解し、様々な角度から創意工夫や試行錯誤を行う。その手法として人間の観察による造形的な要素の理解を深めるためにポーズを固定し、時間をかけ観察によるアプローチを繰り返し行う。人体観察を通して、自然の摂理、構築を観察する中で、自由な精神に基づいた真理への探究心や、知性、感性に裏付けられた柔軟な思考力と発想力(表現の追求)を身に付ける。また、作品制作や研究を通し立案、計画、作業を自分で組み立て実現させる実行力を身に付ける。授業を進めるなかで、学生各自が制作にあたってのテーマを相互の意見交換を交えた中間講評により確認し、お互いの切磋琢磨の場となるよう授業を組み立て展開する。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。完成作品を地域共創活動として玉名市の高瀬蔵での展示会で発表する。						関連科目			
							基礎デッサンⅠ・Ⅱ 共通立体 彫刻実習ⅡA・ⅡB			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科に関する科目(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	デッサンによる形態把握ができるようになる								
	②	心棒の制作が正確に出来るようになる								
	③	空間の中での量塊の位置が正しく理解できるようになる								
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	20	60	10	10	100	
教科書	プリント(解剖図)									
参考書	適時指示する									

予備知識	モチーフを人物(ヌード)とする。対象をしっかり観察し、素描により個々の制作意図を固め、粘土による塑造制作へと展開して行く。その中で基本的な造形力を確認して行く。
DPとの関連	1.客観的な観察力を身に付けるために、対象を深く見つめ、人体の基本的な構造、動勢、比率を素描(平面)と塑造(立体)の両次元から理解を深めて行くことができる。【知識・理解】 2.課題を通して幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付けることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	出席・課題の取り組み・作品の到達度などを考慮し、総合的に評価する。

作業着を着用し、作品を包む布、ビニール袋を準備しておくこと。モデルが入室する前に制作の準備をしておくこと。遅刻した場合休憩時間まで入口で待機しておくこと。常に室内の気温がモデル制作に適温か、留意すること。制作後の清掃は必ず行うこと。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	対象の理解	実習	時間をかけた観察により対象の特性を理解する	180
	内容	制作Ⅰ 素描(デッサン)			
2回	テーマ	対象の理解	実習	短時間での対象の特性理解	180
	内容	制作Ⅱ 素描(クロッキー)			
3回	テーマ	対象の理解	実習	制作意図の確認	180
	内容	制作Ⅲ ポーズの決定			
4回	テーマ	構造の理解	実習	芯棒による量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅳ 芯棒制作			
5回	テーマ	対象の理解	実習	量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅴ 粘土付け			
6回	テーマ	客観的な理解	実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅵ 中間講評会			
7回	テーマ	対象の理解	実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅶ 作り込み			
8回	テーマ	対象の理解	実習	造形原理の生かし方とその構築について	180
	内容	制作Ⅷ 彫刻の構築			
9回	テーマ	客観的な理解	実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅸ 講評会			
10回	テーマ	対象の理解	実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅹ 作り込み			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
12回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
13回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
14回	テーマ	対象の理解	実習	制作の狙いの確認	180
	内容	同上			
15回	テーマ	客観的な理解	実習	「到達度ポートフォリオ」の提出	180
	内容	講評会			

科目名	彫刻実習ⅢB (3美)			開講学年	3	講義コード	1675701	区分	選必		
英文表記	Sculpture trainingⅢB			開講期	前期	開講形態		単位数	4		
担当教員	勝野 眞言 (実務経験)										
研究室	A212					オフィス アワー 火曜日16時30分					
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	粘土,人体,観察,造形力										
授業概要	人間をテーマにした彫刻表現の歴史は永い。私自身塑造分野の世界で人間表現の追求に取り組み、国内外での発表活動を経て半世紀近い。また、制作を通じた美術振興に関わる様々なプロジェクトの立案、支援も取り組んできた。これらの知見をもとにこの科目では、塑造による人体表現をテーマとして、身に付けるべき普遍的な造形の基礎を学びながら、成果物としての作品を地域共創活動での発表として展開する。授業は人体観察による等身大の塑造制作である。粘土の特性である可塑性や固まりなどの材料の性質を理解し、様々な角度から創意工夫や試行錯誤を行う。その手法として人間の観察による造形的な要素の理解を深めるためにポーズを固定し、時間をかけ観察によるアプローチを繰り返し行う。人体観察を通して、自然の摂理、構築を観察する中で、自由な精神に基づいた真理への探究心や、知性、感性に裏付けられた柔軟な思考力と発想力(表現の追求)を身に付ける。また、作品制作や研究を通し立案、計画、作業を自分で組み立て実現させる実行力を身に付ける。授業を進めるなかで、学生各自が制作にあたってのテーマを相互の意見交換を交えた中間講評により確認し、お互いの切磋琢磨の場となるよう授業を組み立て展開する。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。完成作品を地域共創活動として玉名市の高瀬蔵での展示会で発表する。							関連科目			
								基礎デッサンⅠA/ⅠB 共通立 体 彫刻実習ⅡA/ⅡB			
教職関連 区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・選択【科目区分】・・・教科に関する科目(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・彫刻							建築学 科のみ	建築 総合	建築 計画	建築 構造
								学修・教育 目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	デッサンにより形態の把握ができるようになる									
	②	心棒制作が正確に出来るようになる									
	③	空間の中での量塊の位置が正確に与えることができるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	プリント										
参考書	プリント										

予備知識	モチーフを人物(ヌード)とする。対象をしっかり観察し、素描により個々の制作意図を固め、粘土による塑造制作へと展開して行く。その中で基本的な造形力を確認して行く。
DPとの関連	1.客観的な観察力を身に付けるために、対象を深く見つめ、人体の基本的な構造、動勢、比率を素描(平面)と塑造(立体)の両次元から理解を深めて行くことができる。【知識・理解】 2.課題を通して幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付けることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	出席・課題の取り組み・作品の到達度などを考慮し、総合的に評価する。

モデル使用の為室温に常に留意すること モデル使用中の教室の入退出は禁止である。制作に入るための準備、特に室温調整をあらかじめしておくこと。制作後の清掃は必ず行うこと。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	対象の理解	実習	時間をかけた観察により対象の特性を理解する	180
	内容	制作Ⅰ 素描(デッサン)			
2回	テーマ	対象の理解	実習	短時間での対象の特性理解	180
	内容	制作Ⅱ 素描(クロッキー)			
3回	テーマ	対象の理解	実習	制作意図の確認	180
	内容	制作Ⅲ ポーズの決定			
4回	テーマ	構造の理解	実習	芯棒による量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅳ 芯棒制作			
5回	テーマ	対象の理解	実習	量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅴ 粘土付け			
6回	テーマ	対象の理解 客観的な理解	実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅵ 中間講評会			
7回	テーマ	対象の理解	実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅶ 作り込み			
8回	テーマ	対象の理解	実習	造形原理の生かし方とその構築について	180
	内容	制作Ⅷ 彫刻の構築			
9回	テーマ	客観的な理解	実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅸ 講評会			
10回	テーマ	対象の理解	実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅹ 作り込み			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
12回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
13回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
14回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
15回	テーマ	客観的な理解	実習	「到達度ポートフォリオ」の作成	180
	内容	講評会 制作の狙いの確認			

科目名	鑄造実習A(3美)				開講学年	3	講義コード	1676001	区分	選択	
英文表記	Casting Practice A				開講期	前期集中	開講形態		単位数	2	
担当教員	陶山 伸一 (非常勤)										
研究室	硯川実習室107						オフィス アワー 火曜日16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	,技法,窯,溶解,蠟,ブロンズ										
授業概要	<p>蠟型鑄造に対する理解を深め、実習によって蠟の合わせ方、流し方、窯の組み方、火入れ、焼成、合金の割合、金属溶解、鑄込み、仕上げなどについて、確実に安全な方法を身につける。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。</p>							関連科目			
								彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科に関する科目(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	蠟型鑄造に対する理解を深めることができる。									
	②	安全に作業を行うことができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	10	60	10	20	100		
教科書											
参考書											

予備知識	彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B
DP との 関連	1.造形活動を通して培った汎用的造形力・表現力を通して、社会への関わり方や発展に持続的に貢献できる能力を身に付ける。【知識・理解】【汎用的技能】 2.課題を通して幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付ける。【態度・志向性】
実務経験 のある 教員	
評価明細 基準	出席・課題の取り組み・到達度などを考慮し、総合的に評価する。

実習中に適宜指示する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	鑄造技法	実習	講義で工程の流れを知る	80
	内容	蠟型鑄造法とは			
2回	テーマ	鑄造技法	実習	蠟の特性を知る	270
	内容	蠟原型制作			
3回	テーマ	鑄造技法	実習	工程のポイントを学ぶ	450
	内容	窯詰め、焼成 火入れ、鑄型の焼成をする			
4回	テーマ	鑄造技法	実習	工程のポイントを学ぶ	450
	内容	鑄込み			
5回	テーマ	鑄造技法	実習	到達度ポートフォリオの作成	80
	内容	仕上げ 型を割り、湯道、釘を抜く 酸洗い、着色、色止めをする			

科目名	宗教芸術・文化Ⅰ（ヨーロッパ・日本）（3美）		開講学年	3	講義コード	1676201	区分	選必		
英文表記	Religious Art & Culture I : European & Japanese Society		開講期	前期	開講形態		単位数	2		
担当教員	関根 浩子									
研究室	A313				オフィス アワー 金曜放課後					
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	キリスト教美術 キリシタン美術 聖母マリア 黙示録									
授業概要	<p>本学科の人材育成目標の一つに、芸術文化研究における専門的知識を総合的に修得するということが挙げられているが、本科目は西洋美術史の二大根幹といえるキリスト教美術について基礎的知識を身に付けるという意味で、芸術文化コースの学生にとって必要不可欠な科目である。本年度も、キリスト教美術の発生から現代に至るまでの重要なキリスト教建築・美術・文化について学習する。また特に本年度は、岡田温司氏の『黙示録—イメージの源泉』をプレゼン発表の教科書として、キリスト教美術における黙示録の図像やそれらの作例などについて学習、考察していく。また近代のマリアの「奇跡」の表象としてフランスのルルドの例を紹介するとともに、日本の近世や近代における聖母マリア信仰の特徴についても紹介し、キリスト教美術史全般の基礎的知識の習得を目指す。また、プレゼン後にはプレゼンに対するフィードバック、提出されたレポートには添削して返却（フィードバック）を行うので、赤入れされた箇所を熟読し、次回のレポート作成時に反映させて欲しい。</p>						<p>関連科目</p> <p>西洋美術史、西洋美術史特論Ⅰ、西洋美術史特論Ⅱ、日本近世・近代美術史、ほか</p>			
	建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造						
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科に関する科目(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論及美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む)						学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	キリスト教美術の主題や図像について基礎的知識を得る。								
	②	様式的な変化を生じさせた時代背景や要因について考察する思考力を養う。								
	③	資料作成能力を身に付ける。								
	④	プレゼンテーション力を身に付ける。								
	⑤	学術的な記述力を身に付ける。								
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	40	35	0	10	15	100	
教科書	黙示録—イメージの源泉 岩波新書 岡田温司 9784004314721									
参考書	<p>聖母マリア 講談社選書メチエ 竹下節子</p> <p>聖母マリア 創元社 シルヴィ・バルネイ著 船本弘毅監修 遠藤ゆかり訳</p> <p>聖母像の到来 白水社 若桑みどり</p> <p>キリスト教美術図典 吉川弘文館 柳宗玄 中森義宗編</p> <p>黙示録</p>									

予備知識	特になし。
DPとの関連	芸術文化研究における専門家として、専門的知識(ここではキリスト教美術)や論理的思考力、プレゼンテーション力、国際的視点を身に付け、社会において課題や問題を解決できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	P.P.を使用した発表(35点)とレポート(40点)、ポートフォリオ、出席状況の合計点とする。合計が6割に満たない場合はレポートの再提出がある。

P.P.を使用した発表とレポート提出がある。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	講義	1回目の復習	40
	内容	ガイダンス／キリスト教の歴史			
2回	テーマ	キリスト教の歴史	講義	2回目の復習	30
	内容	概説(キリスト教の歴史)			
3回	テーマ	キリスト教の歴史	講義	3回目の復習	30
	内容	概説(キリスト教の歴史)			
4回	テーマ	キリスト教の歴史	講義	4回目の復習	30
	内容	概説(キリスト教の歴史)			
5回	テーマ	聖母マリア信仰	講義	5回目の復習	30
	内容	概説(聖母マリア信仰とマリア像の諸型)			
6回	テーマ	聖母マリア信仰	講義	6回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	講義(聖母マリア信仰とマリア像の諸型) 研究発表分担の決定			
7回	テーマ	ルルドと聖洞窟模型	講義	7回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	講義(ルルドの奇跡と模造ルルドの世界への普及)			
8回	テーマ	ルルドと天草	講義	8回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	講義(巡礼地ルルドと天草の模造ルルド)			
9回	テーマ	日本のルルドの聖母信仰	講義 演習	9回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	講義(日本におけるルルドの聖母信仰と模造ルルドの普及)			
10回	テーマ	黙示録	講義 演習	10回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	第1章「七」という数字—『ヨハネの黙示録』から			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	黙示録	講義 演習	11回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	第2章 終末の源泉―聖書のなかの黙示をたどる			
12回	テーマ	黙示録	講義 演習	12回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	第3章 変奏される神話―黙示録思想の展開			
13回	テーマ	プレゼン	AL PBL	学生による研究発表1、総括 レポート準備	180
	内容	学生による発表 第4章 女の出番―重なり合う聖女と淫婦			
14回	テーマ	プレゼン	AL PBL	学生による研究発表2、総括 レポート準備	180
	内容	学生による発表 第5章 「敵」としてのアンチキリストイメージの戦争			
15回	テーマ	プレゼン・レポート提出	AL PBL	学生による研究発表3、総括	180
	内容	学生による発表 第6章 カタストロフ―怪獣、核、そして騎士 レポート提出			

科目名	特別演習（日本画）（3美）				開講学年	3	講義コード	1676401	区分	選択	
英文表記	Special Seminar (Japanese Painting)				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	中村 賢次 佐藤 和歌子										
研究室	A412						オフィス アワー 火曜・昼休み				
メールアドレス	ken1214@@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画、絹本、掛軸										
授業概要	<p>明治以降、日本は西洋文化の影響を大きく受け、生活様式や文化も大きく変化してきた。日本画の世界においても同様で、現代では額装形態の作品が主流となり、それに伴ない、古来より用いられてきた材料である絵絹の使用が減ってきた。しかしこの絹に描かれた絵画は紙とは異なった美しさを持ち、更にその技術・技法も違うことを踏まえ、日本画の材料研究を行なう。</p>							関連科目			
								日本画実習 I～IV、学外演習（日本画）			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	絵絹の性質を理解し、古典的な日本画の支持体である絹本に描写する技術を身に付けることができるようになる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席及び制作姿勢(10点)	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	日常的に質疑を行い理解度を確認する。合評による作品評価。

絵絹は非常にデリケートな材料であるため、授業前にその日に実施可能な作業工程を十分に検討し、それに必要な画材の準備をする。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	花鳥	講義	絹による古典技法の理解を深める	90
	内容	絹本に於ける伝統的な画材と技法			
2回	テーマ	花鳥	講義	絹による古典技法の理解を深める	90
	内容	絹本に於ける伝統的な表現様式			
3回	テーマ	花鳥	実習	モチーフの持つ特色を観察・考察する	90
	内容	各自用意した花の写生			
4回	テーマ	花鳥	実習	日本画における空間表現について理解を深める	90
	内容	小下図の制作			
5回	テーマ	花鳥	実習	日本画における空間表現について理解を深める	90
	内容	原寸大の草稿制作			
6回	テーマ	花鳥	実習	日本画における空間表現について理解を深める	90
	内容	原寸大の草稿制作			
7回	テーマ	花鳥	実習	絹と墨について十分な理解をする	90
	内容	草稿の転写と墨入れ			
8回	テーマ	花鳥	実習	絹と胡粉について十分な理解をする	90
	内容	絹に胡粉を塗る(下塗り)			
9回	テーマ	花鳥	実習	日本画における空間表現について理解を深める	90
	内容	空間を意識した彩裏色			
10回	テーマ	花鳥	実習	画材の使用方法・表現について見当する	90
	内容	制作			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	花鳥	実習	画材の使用方法・表現について見当する	90
	内容	制作			
12回	テーマ	花鳥	実習	画材の使用方法・表現について見当する	90
	内容	制作			
13回	テーマ	花鳥	実習	画材の使用方法・表現について見当する	90
	内容	制作			
14回	テーマ	花鳥	実習	画材の使用方法・表現について見当する	90
	内容	制作			
15回	テーマ	花鳥	実習	客観的に自身の作品を評価する	90
	内容	谷評・採点			

科目名	特別演習（洋画）（3美）				開講学年	3	講義コード	1676501	区分	選択	
英文表記	Special Seminar(Oil Painting)				開講期	前期集中	開講形態		単位数	2	
担当教員	有田巧（非常勤） 熊谷有展 下城賢一										
研究室	L号館A201						オフィス アワー 前期集中				
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	フレスコ ストラッポ 壁画 古典技法										
授業概要	イタリア発祥の壁画技法であるフレスコ技法を学ぶ。古典技法を学び、現在の絵画への変遷と発展を知り自らの作品制作を深める契機にする。							関連科目			
								洋画実習ⅢA・ⅢB、基礎デッサンⅠ、基礎デッサンⅡ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	フレスコについて知識を得る									
	②	適切な技法および画材のへの修練がなされたか									
	③	古典絵画技法への理解度									
	④	課題制作の完成度									
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	30	70	0	0	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	洋画実習ⅢA、ⅢB、基礎デッサンⅠ、基礎デッサンⅡ
DPとの関連	古典技法と近代絵画 フレスコ
実務経験のある教員	
評価明細基準	1作品講評会(寸評など)を受けて各学生が自らの作品制作を客観的に評価できたか(30点) 2古典技法のテンペラ絵画制作を完成度、理解度、表現への取り組みなどを基準に評価(70点)

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	イタリア絵画	実習	準備物と課題計画の確認	420
	内容	パレスコ絵画制作			
2回	テーマ	古典技法の理解	実習／講義		840
	内容	作品解説、講義			

科目名	特別演習（彫刻）（3美）				開講学年	3	講義コード	1676601	区分	選択	
英文表記	Special Seminar (Sculpture)				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	清島 浩徳										
研究室	L-A-216						オフィス アワー 月曜5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	彫刻素材 彫刻作家										
授業概要	4年次の卒業研究のための予備研究として位置づけ、研究テーマの絞込みと、制作力の向上をめざして、制作のみならず、日本及び諸外国の伝統的な美術作品から現代の美術作品まで幅広く扱い、造形的な要素についての理解を深め、民族性や地域性と表現との関連、作家研究や論理的な考察も試みながら、表現者としての資質向上を目指す。							関連科目			
								日本美術史、西洋美術史、東洋美術史、西洋彫刻論、美術領域論Ⅱ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	主な近代彫刻家について研究し理解することができるようになる									
	②	近代から現代の彫刻について幅広い知識を得ることが出来るようになる									
	③	卒業制作の試作を行なうことができるようになる									
	④	主な彫刻素材について自ら研究できるようになる									
	⑤	鑑賞したり研究したことを端的にレポートにできるようになる									
	⑥	調べたことをプレゼンテーションできるようになる									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	20	30	30	10	10	100		
教科書	適宜指示する										
参考書	適宜指示する										

予備知識	自分の好きな作家や興味のある作品などの研究をする 制作テーマを見つける。出来るだけ多くの美術館やギャラリーに行き、作品を見る(データや画像でなく本物を見る)
DPとの関連	専門的な力を身につけた、感性豊かな人格と、論理的な思考力を持つ人材を育てる
実務経験のある教員	
評価明細基準	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻芸術に対する基本的な知識を得られたか ・自他の作品に対して、自らの言葉で感想やコンセプトを伝えることができたか ・作家研究等によって、自分の作品に反映することができたか ・卒業研究テーマが決まったか

彫刻芸術に対する深い理解者となり、高度な資質を備えた表現者となるために、論理的なアプローチと感性的なアプローチをバランスよく試み、素材研究、作家研究、制作上での技法研究、コンセプチュアルな表現研究などの中から興味深いテーマを選び、自らの研究テーマを導き出す。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	導入	講義	演習内容を理解する	90
	内容	オリエンテーション			
2回	テーマ	作家研究	演習	作家研究(予習)	270
	内容	作家研究を行いプレゼンテーションをする			
3回	テーマ	素材研究	演習	素材研究(予習)	450
	内容	素材研究をし、成果発表をする			
4回	テーマ	テーマ設定	演習	テーマ制作(予習)	450
	内容	テーマ制作を行い、プレゼンテーションする			
5回	テーマ	プレゼンテーション	演習	卒業研究テーマの決定	90
	内容	総括まとめ			

科目名	芸術文化演習Ⅲ◎（4美）				開講学年	3	講義コード	1677101	区分	必修	
英文表記	Art & Culture Studies : Practice III				開講期	前期	開講形態		単位数	4	
担当教員	関根 浩子 永田 郁										
研究室	A313 A208						オフィス アワー 金曜3限				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	文献検索・資料収集 テーマ設定 論文執筆 プレゼンテーション										
授業概要	<p>課題を発見し、解決できる高度な専門家を目指し卒業研究を論文で提出する学生にとっては必要不可欠な科目である。本科目は、「芸術文化演習Ⅱ」に引き続き、4年次の卒業研究（論文作成）に向けて、研究課題の設定や研究の方法、論文の構成や書き方など、卒業研究（論文）の遂行に必要な一連の事柄（作品やものの見方や考え方を含む）の指導を行う。「芸術文化演習Ⅲ」では、学術論文を実際に数本読みながら、論文や論文の書き方についてさらに知識を深めた後、学生による研究発表（1名/1週間）を中心に授業を進め、課題発見力や解決能力を養う。フィードバックは、プレゼンに対する講評や、レポートの赤入れ添削や構成修正の形で行う。</p>							関連科目			
								芸術文化コースの全科目			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科に関する科目(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論及美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	卒業研究のために確実な資料収集が行えるようになる。									
	②	卒業研究のために的確な問題設定ができるようになる。									
	③	卒業研究の方向づけが行えるようになる。									
	④	研究成果を論文の中での的確に展開できるようになる。									
	⑤	研究成果の発表方法に熟達できるようになる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	25	0	10	15	100		
教科書	授業の中で個別に指示する										
参考書	授業の中で個別に指示する										

予備知識	テーマに関するある程度の知識。
DPとの関連	芸術文化研究における専門家となるための知識や技術、特に論文執筆のための調査研究方法や技術を身に付けることで、社会においても芸術文化の研究や発展に貢献、寄与できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	平常の討議・口頭発表の内容、提出された小論文もしくはレポート、出席状況、ポートフォリオによって総合的に評価する。

受講生各自の自主的、積極的な取り組みが必要である。また、研究内容の口頭発表、小論文の提出は必須である。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	講義	なし	0
	内容	オリエンテーション1(科目のガイダンス)			
2回	テーマ	進捗状況報告	講義 演習	報告準備	90
	内容	オリエンテーション2(研究の進捗状況報告)			
3回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
4回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
5回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
6回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
7回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
8回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
9回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
10回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
12回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
13回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
14回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
15回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
16回	テーマ	論文講読	講義 演習	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
17回	テーマ	口頭発表	講義 演習 AL PBL	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
18回	テーマ	口頭発表	講義 演習 AL PBL	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
19回	テーマ	口頭発表	講義 演習 AL PBL	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
20回	テーマ	口頭発表	講義 演習 AL PBL	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	口頭発表	講義 演習 AL PBL	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
22回	テーマ	口頭発表	講義 演習 AL PBL	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
23回	テーマ	執筆・添削	演習 AL P BL	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
24回	テーマ	執筆・添削	演習 AL P BL	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
25回	テーマ	執筆・添削	演習 AL P BL	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
26回	テーマ	執筆・添削	演習 AL P BL	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
27回	テーマ	執筆・添削	演習 AL P BL	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
28回	テーマ	執筆・添削	演習 AL P BL	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
29回	テーマ	執筆・添削	演習 AL P BL	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
30回	テーマ	総括	講義	小論文最終作成(予習)	180
	内容	半期の総括と各学生への今後の指導/小論文提出			

科目名	卒業研究◎（日本画、洋画、彫刻、視覚芸術）（4美）				開講学年	4	講義コード	1677301	区分	必修	
英文表記	Graduation Study/Work				開講期	通年・集中	開講形態		単位数	16	
担当教員	熊谷有展 永田郁										
研究室	A 3 1 1（熊谷研究室） A 2 0 8（永田研究室）						オフィス アワー 金曜日昼休み				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	卒業制作、卒業研究										
授業概要	各専門に関連する各自の卒業研究テーマを決定し、担当教官より個別の指導を受け、4年間の集大成として作品制作及び研究を行なう。							関連科目			
								本学科で履修した全ての科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	作品及び研究に於ける全プロセスへの理解を深め、テーマの具現化を目指す。その過程に於いて問題提起とその解決能力を身に付けることができるようになる									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	10	0	70	10	10	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	本学科で履修した全ての科目
DPとの関連	卒業制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	研究作品と制作論、研究姿勢などを総合的に評価する

担当教員の指導のもとで各々の研究に必要な準備・取材等に十分な時間を掛け、目標に向かって日常的に自己反省とその解決のために必要な準備を実践する

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	卒業制作・研究	実習	各学生が担当教員のもと、3年間で修得した内容を踏まえテーマを設定する	任意
	内容	制作・研究のテーマ決定			
2回	テーマ	卒業制作・研究	実習	設定したテーマを具現化するために必要な理論及びイメージの構築	任意
	内容	テーマの具体化			
3回	テーマ	卒業制作・研究	実習	制作・研究に必要な取材、使用画材・機材等の準備を行	任意
	内容	制作・研究のための準備			
4回	テーマ	卒業制作・研究	実習	制作及び研究	任意
	内容	制作・研究			

科目名	卒業研究◎（芸術文化）（4美）			開講学年	4	講義コード	1677401	区分	必修		
英文表記	Graduation Study/Work(Art & Culture)			開講期	通年	開講形態		単位数	8		
担当教員	関根 浩子 永田 郁										
研究室	A313 A208					オフィス アワー 金曜放課後					
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	論文 美術史 文化史 AL PBL										
授業概要	<p>本科目は芸術文化コースの卒業研究(論文)を執筆するために必要不可欠な科目である。各自の卒業研究のテーマを決定し、個別に指導を受けながら、4年間の集大成として研究論文の執筆を行う。担当教員の指導下で各々の研究に必要なフィールドワークや文献収集を十分に行い、提起した問題の解明(結論)に向けてを努力することで、論文を執筆する基礎能力や汎用的調査・研究能力を養う。フィードバックは、論文の入れ添削や構成の修正などの形で行うので、赤入れされた箇所のコメントを熟読、再考し、よりよい卒業論文にしていって欲しい。</p>							関連科目		芸術文化コース全科目	
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分								学修・教育目標			
								JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	学術論文の書き方や構成方法を習得する。									
	②	論理的な考察ができるようになる。									
	③	注の意味を理解し注が付けられるようになる。									
	④	文献の扱い方や参考文献一覧の作成方法を習得する。									
	⑤	図版の処理やキャプションのつけ方に習熟する。									
	⑥	フィールドワークや写真撮影、インタビューなどができるようになる。									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0		20	70	10	0	100		
教科書	個別に指導										
参考書	個別に指導										

予備知識	テーマに関するある程度の事前知識が必要
DPとの関連	学外(フィールド)に出て第一次資料の実見や写真撮影、台帳記入をしたり、図書館等で文献調査・収集を行ったりして、研究課題解決のための技術や知識、論理的思考力、プレゼンテーション力を身に付けることで、社会において芸術文化研究の専門家として芸術文化の発展に持続的に貢献できる力を修得することを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	論文(70点)と口頭発表(20点)、ポートフォリオ(10点)の総点で評価を行う。

先行研究を熟読し、できるだけ早く未解明の問題を絞り込み、問題解明のための資料や文献収集、インタビューを行うこと。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	学術論文を書く	AL PBL	学生に応じて異なる	8カ月
	内容	授業としては設定せず、必要に応じ随時指導			

科目名	石彫実習（2美）				開講学年	2	講義コード	1677501	区分	選択		
英文表記					開講期	前期集中	開講形態		単位数	2		
担当教員	野島 泉里（非常勤）											
研究室	硯川実習棟107						オフィス アワー 火曜日16時30分					
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	石彫,構造,											
授業概要	<p>石の起源を調べると、地球の誕生までさかのぼる。これほど長い時間と生命を宿し続けている素材は他には無く、現代人の心を打つ石による巨大な建造物や都市などが、世界各地に現存していることは既によく知られている。古代の人々は、石を掘り磨くことを思いつくと同時に美を感じる心を発揮し、現代では想像も出来ないほどの根気と情熱を傾けて、素晴らしい動物や女性の像などを制作した。これらの作品は私たちに驚きと、人類の限りない生命力、可能性を教えてくれる。石彫技法を初歩から習得し、作家としての姿勢を認識しながら情熱ある作品作りを展開させたい。</p>								関連科目			
									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分									学修・教育目標			
									JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	道具の扱いができるようになる										
	②	手掘りの技術を身に付けることができる										
	③	共同作業により協調性を身に付けることができる										
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計			
	0	0	0	10	10	50	10	20	100			
教科書												
参考書												

予備知識	塑造実習1A,1B,2A,2B,3A,3B
DPとの関連	造形活動を通して培った汎用的造形力・表現力を生かし、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できるの能力を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	作品と制作に対する姿勢を総合的に判断し評価する

Gパンのような生地の厚い長ズボン・長袖シャツ・運動靴・帽子か手ぬぐい・軍手を用意しておくこと。（メガネ、マスクは学校で用意します）

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	石の性質と動かし方・重心について	実習	イメージデッサン	270
2回	テーマ 内容	道具(ノミ・コヤスゲ・ピジャン・ヤスリ・電動工具など)の使い方と作業時の服装について	実習	エスキースの制作(粘土か石膏)	270
3回	テーマ 内容	デッサンと実在の関係について	実習	制作(実材)	270
4回	テーマ 内容	面の彫り方の理解	実習	制作(実材)	270
5回	テーマ 内容	良い作品と生命感の理解 完成・作品講評(全体・個人)	実習		270

科目名	基礎デッサンⅡ（1美）				開講学年	1	講義コード	2670501	区分	選択	
英文表記	basic drawing Ⅱ				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	下城 賢一										
研究室	A214						オフィス アワー 金曜日・放課後				
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	デッサン 石膏像デッサン 素描 観察										
授業概要	この授業では表現世界における基礎造形力を養うことを目的とする。デッサンを通して身近なモチーフ(描く対象)を深く観察し、そのモチーフに宿る均衡、律動、バランスなどを美しさを感じながら描き、対象に向き合うことを学ぶ。さらにはモチーフが作り出す空間と室内空間を適切な光と影を表現しながら修練を重ねることで、空間に対する認識力が高まっていく。またモチーフの観察力の高まりにより、表面の質感表現からより根本的なイメージの構築へと表現が深まって行くことを目指す。							関連科目			
								日本画実習 洋画実習 彫刻実習 視覚造形実習 共通絵画実習Ⅰ 共通絵画実習Ⅱ 共通立体実習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	観察から表現へ 作家としての視る力、表現する力を養うことができるようになる。									
	②	平面表現における空間把握の理解ができるようになる									
	③	構図の理解ができるようになる									
	④	明暗、陰影(調子)の理解ができるようになる									
	⑤	観察と描き込みにより完成度を高めることができるようになる									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	50	50	0	0	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	シャルル・バルグのドローイングコース (株)ポーンデジタル ジェラルド・M・アッカーマン 978-4-86246-376-0										

予備知識	基礎デッサンⅠ
DPとの関連	造形活動や芸術文化研究における専門家として、基礎的技術や専門的知識を総合的に身に付けたものに関連した科目である
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.口頭による成果発表 適時に自分の作品に対し狙い及び批評を行う 各25点×2回 50点 2.作品制作に対しての取り組む姿勢、作品の内容(表現力、完成度、他)で総合的に評価する(50点)

デッサン用具一式（木炭、木炭紙、鉛筆、カルトンなど）を準備する。テーマにそった内容の講義を実習内に適時行い、テーマにつながる文献等を紹介し、実習外でそれらを補う学習法を指示する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	静物素描 2種類のモチーフから選択する。	実習	対象をよく観察し、不要な部分を整理して、表現する力を養う。 形、明暗、材質、空間の表現	180
2回	テーマ 内容	実習	180
3回	テーマ 内容	実習	180
4回	テーマ 内容	実習	180
5回	テーマ 内容	実習	180
6回	テーマ 内容	実習	180
7回	テーマ 内容	実習 ポートフォリオの中間チェック	180
8回	テーマ 内容	実習	180
9回	テーマ 内容	石膏デッサンⅠ	実習	古典彫刻の作品の造形から、形態の美しさを学び、素描の基礎力を培う。	180
10回	テーマ 内容	実習	180

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	〃	実習	〃	180
	内容				
12回	テーマ	石膏デッサンⅡ	実習	石膏デッサンⅠより高度な石膏像に取り組むことにより、応用力を身につける。ポートフォリオの提出	180
	内容				
13回	テーマ	〃	実習	〃	180
	内容				
14回	テーマ	〃	実習	〃	180
	内容				
15回	テーマ	〃	実習	〃	180
	内容				

科目名	美術領域論Ⅰ（平面造形）（1美デ）				開講学年	1	講義コード	2670701	区分	選択	
英文表記	Theory of Design Domein				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	岩上孝二										
研究室	L号館 芸術学部棟 D314						オフィス アワー 金曜日1限				
メールアドレス	iwagami@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	デザインの源流 デザインの歴史 リベラルアーツ的思考										
授業概要	歴史的デザインの源流を学び、歴史的検証からデザインの領域を理解し、様々なデザインの事例から、進化しつづけるこれからの時代のデザイン領域を学ぶ							関連科目			
								グラフィックデザイン実習 広告デザイン実習 デザインビジネス論 グラフィックデザイン論			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	歴史的デザインの源流を理解し、デザインの現場における細分化したデザイン領域を検証し理解することができる									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	15	75	10	0	0	0	100		
教科書	適時対応										
参考書	適時対応										

予備知識	1、デザインの現場 2、デザインの歴史 3、人間学 4、社会学
DPとの関連	「優れた応用力を有する専門家になるため、汎用的基礎力と基本的な専門知識を身につけたもの。」に関する科目である。 将来、デザイナー、クリエイターとしての専門的な知識を身につけ、具体的な内容を理解する
実務経験のある教員	
評価明細基準	1、小テスト 最終的なまとめ 15点×1=15 2、レポート 5点×15=75 3、口頭発表 10点×1=10 1

毎回レポート課題の提出

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	授業の進め方の説明、質疑、応答			
2回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し 分析し考察する			
3回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し 分析し考察する			
4回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し 分析し考察する			
5回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し 分析し考察する			
6回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し 分析し考察する			
7回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し 分析し考察する			
8回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し 分析し考察する			
9回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し 分析し考察する			
10回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し 分析し考察する			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し、分析し考察する			
12回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し、分析し考察する			
13回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し、分析し考察する			
14回	テーマ	講義	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	歴史的な事例から、問題を発見し、分析し考察する			
15回	テーマ	まとめ	座学	予習／各自で予備知識を得ておく 復習／授業内容を復習する	90
	内容	これからの時代に適応するデザインの領域を思考する			
16回	テーマ	小テスト			90
	内容				

科目名	コンピューター演習（1美）				開講学年	1	講義コード	2670801	区分	選択	
英文表記	Seminar in Computer				開講期	後期集中	開講形態		単位数	4	
担当教員	森 英顕（非常勤）										
研究室	教務課前 非常勤講師室						オフィス アワー 授業の前後				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	コンピューター活用法、文書作成、画像編集、アートディレクション										
授業概要	本演習では、アーティストとしての活動を行う上で武器となるアート・マネジメント、その一つである企画・広報のための資料作成のプロセスを踏む中で、道具であるコンピュータを用いて紙媒体への出力を目的とした印刷データを作成し、基礎的なコンピュータの操作方法を学ぶものである。《アートのためのセルフ・ディレクション》ディレクションとは、プロジェクトの制作から管理まで総合的な役割を示す言葉である。一般的に企画を管理する役割、「全体を見る」「取りまとめ」だけではなく、実際に制作に関わる・手を使うというニュアンスも含まれている。セルフ(自分自身)で自分自身の展覧会(個展)をディレクションすることで、企画に関わる一連の流れを通して基礎的なコンピュータの活用法を学び、書類作成とプレゼンテーションの能力を習得することを目的とする。							関連科目			
								コンピュータ基礎実習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	コンピュータの活用法を習得することができる。									
	②	アートのためのセルフ・ディレクションのプロセスを理解することができる。									
	③	企画・広報に関わる文書・フライヤー等の作成法を習得することができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	25	30	20	10	15	100		
教科書	授業の中で適宜配布する										
参考書	授業の中で適宜配布する										

予備知識	コンピューター基礎実習
DPとの関連	<p>アートのためのセルフ・ディレクションに関わる資料作成を通して、道具としてのコンピュータ活用法を理解することが期待できる。【知識・理解】企画・広報のための資料作成のプロセスを踏む中で、文書作成・画像編集ソフトウェアのオペレーションを習得し、社会活動に応用できる力を身に付けることが期待できる。【汎用的技能】【態度・志向性】</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>点数の割り当ては以下とする。(合計 100 点) レポート25点 成果発表(口頭・実技)30点 作品20点 ポートフォリオ10点 その他(出席)15点 ※作品点(20点)は、すべての課題を提出することで付加する。</p>

自身の作品発表を前提として演習を行う。自分の作品(3点)を制作し、写真データを準備しておくこと。コンピュータの操作を覚えるだけでなく、日常の中で実際に活用できることが本カリキュラムの目的である。課題を通して自分自身の様々な活動に応用できるように、その意識を持って取り組むこと。※授業では各自所有している大学指定のパソコン(Mac book)を使用する。必ず持参すること。また、事前にAdobe Creative Cloud(学生・教職員個人版ライセンス)を購入し、自分のパソコンにPhotoshop、Illustrator、Acrobatをインストールしておくこと。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ 内容	コンピュ ータ 基礎 道真としてのコンピュータを扱うための 基礎知識、「プリントの ためのセルフ ・ディレクション」の概要	講義 + 課題 演習	興味がある展覧会のリストアップ	180
2回	テーマ 内容	文書 作成 Microsoft Word の基本操作	講義 + 課題 演習	展覧会のフライヤーなど参考資料を 集めておくこと	180
3回	テーマ 内容	文書 作成 展覧会計画書の作成	講義 + 課題 演習	展覧会のフライヤーなど参考資料を 集めておくこと	180
4回	テーマ 内容	画像 編集 Adobe Photoshopの基本操作	講義 + 課題 演習	自分の作品(3点)の写真を撮っておくこと。	180
5回	テーマ 内容	レイアウト編 集 Adobe Illustratorの基本操作	講義 + 課題 演習	参考にしたい展覧会のフライヤー (ハガキサイズ/DM)を集めておくこと	180
6回	テーマ 内容	レイアウト編 集 Adobe Illustratorの応用操作	講義 + 課題 演習	参考にしたい展覧会のフライヤー (ハガキサイズ/DM)を集めておくこと	180
7回	テーマ 内容	レイアウト編 集 フライヤー(DM)の作成	講義 + 課題 演習	自分の作品(3点)の写真の準備と、自分が作りたいフライヤー(ハガキサイズ/DM)のイメージ図を考えてくること	180
8回	テーマ 内容	レイアウト編 集 フライヤー(DM)の作成	講義 + 課題 演習	自分が作りたいフライヤー(ハガキサイズ/DM)のイメージ図を考えてくること	180
9回	テーマ 内容	レイアウト編 集 フライヤー(DM)の作成	講義 + 課題 演習	自分が作りたいフライヤー(ハガキサイズ/DM)の完成イメージ図を考えてくること	180
10回	テーマ 内容	中間 講評 印刷出力のための基礎知識	講義 + 課題 演習	Illustrator の基本操作の確認	180

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	レイアウト編集	講義 + 課題 + 演習	参考にしたい展覧会のフライヤー (A4)を集めておくこと	180
	内容	フライヤー(A4)の作成(基本)			
12回	テーマ	レイアウト編集	講義 + 課題 + 演習	自分の作品(3点)の写真の準備と、自分が作りたいフライヤー(A4)のイメージ図を考えてくること	180
	内容	フライヤー(A4)の作成(応用)			
13回	テーマ	レイアウト編集	講義 + 課題 + 演習	自分が作りたいフライヤー(A4)のイメージ図を考えてくること	180
	内容	フライヤー(A4)の作成(応用)			
14回	テーマ	レイアウト編集	講義 + 課題 + 演習	自分が作りたいフライヤー(A4)の完成イメージ図を考えてくること	180
	内容	フライヤー(A4)の作成(応用)			
15回	テーマ	文書編集	講義 + 課題 + 演習	自分の作品(3点)の作品名・サイズ・素材・制作年をリストアップしておくこと。	180
	内容	キャプション・プレスリリースの作成			
16回	テーマ	文書編集	プレゼン + 講評	提出課題である、/展覧会計画書/ フライヤー(DM)/フライヤー(A4)/キャプション/プレスリリース/ のデータチェックをしておくこと。	180
	内容	最終講評			

科目名	日本画実習ⅠB(1美)				開講学年	1	講義コード	2671001	区分	選必	
英文表記	Japanese Painting I B				開講期	後期	開講形態		単位数	8	
担当教員	佐藤 和歌子 田淵 恵理 (非常勤)										
研究室	A412						オフィス アワー 火曜・昼休み				
メールアドレス	w-sato@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,細密写生,模写,鳥獣戯画										
授業概要	東洋芸術と西洋芸術の相違は、その地の人々の生活・文化・宗教等に起因するものである。その中において日本美術は正確且つ現実的な物体・空間・存在を表現するのではなく、自然との対話と融合を重んじ、精神性を求める芸術へと発展してきた。伝統技法と古典を臨模することにより、この日本画本来の美意識と自然観を探究する。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	古来より続く日本美術に対して理解できるようになる									
	②	現代社会における模写の役割を理解できるようになる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席及び制作姿勢(20点)	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	出席及び制作姿勢と実習に於ける全ての作品に対して評価を行う。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	細密写生 鳥の剥製	実習	水張りに使用する道具(刷毛、筆洗、のり、絵皿など)の準備、手順を確認しておく	180
	内容	使用する剥製の選択 和紙(美濃紙)の水張り及び鉛筆で描写			
2回	テーマ	細密写生 鳥の剥製	実習	日本画細密写生における鉛筆の使い方について十分に検討する	180
	内容	鉛筆で描写			
3回	テーマ	細密写生 鳥の剥製	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	鉛筆で描写 墨入れ・地塗り			
4回	テーマ	細密写生 鳥の剥製	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	水干絵具による細密写生			
5回	テーマ	細密写生 鳥の剥製	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	水干絵具による細密写生			
6回	テーマ	細密写生 鳥の剥製	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	水干絵具による細密写生			
7回	テーマ	細密写生 鳥の剥製	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	谷評・採点			
8回	テーマ	模写 鳥獣戯画	講義	模写の技法・役割について十分に検討する	180
	内容	鳥獣戯画及び模写の技法・役割等の説明			
9回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	模写における鉛筆の使い方について十分に検討する	180
	内容	模写(鉛筆)			
10回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	模写における鉛筆の使い方について十分に検討する	180
	内容	模写(鉛筆) 水張り(厚美濃紙)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	模写における鉛筆の使い方について十分に検討する	180
	内容	模写(鉛筆) 永張り(薄美濃紙)			
12回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	模写(墨)			
13回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	模写(墨)			
14回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	模写(墨)			
15回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	模写(墨)			
16回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	合評・採点			

科目名	洋画実習ⅠB(1美)				開講学年	1	講義コード	2671201	区分	選必		
英文表記	Oil PaintingⅠB				開講期	後期	開講形態		単位数	8		
担当教員	下城賢一 熊谷有展 古澤伸一郎(非常勤)											
研究室	L号館D201						オフィス アワー 月1,2 火3,4 木3,4 金1,2					
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	油絵具 キアロスクーロ(古典的デッサン) 静物油彩 人体骨格 素描											
授業概要	<p>洋画実習ⅠAにおいて試みた基礎造形力を学ぶ課題をさら深め応用するための課題に取り組む。洋画実習ⅡBではこの基礎造形力を身につける課題に引き続き取り組みつつ1Aで評価基準とした3点をがどのような面で絵画表現にとって必要かを思考し各学生が共有できるように課題が組まれている。さらに画材への理解を深め、様々な用具の特性を理解し自らの制作に応用できるようにする。この授業での評価基準としては1Aにおける3点(観察力・技術・構成力)に加えて各学生の油彩表現における絵画的な豊かさや技法の習得、色彩と明暗の理解も併せて評価の基準とする。</p>								関連科目			
									洋画実習1A			
教職関連区分									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	油彩画の基本的な技法を理解し、応用力を養うことができる。										
	②	無彩色から有彩色へ色彩について応用できるようになる。										
	③	油絵具による質感表現に取り組むことができる。										
	④	グリザイユ技法による空間表現を理解することができる。										
	⑤	自然な人物表現ができるようになる。										
	⑥	室内空間が描けるようになる。										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	0	40	50	0	10	100			
教科書	授業の中で指示する											
参考書	授業の中で指示する											

予備知識	洋画実習1A、基礎デッサン、西洋美術史
DPとの関連	絵画制作の基本的な技術を追求しながら、幅広い芸術世界についても、美術館見学等を通し、探求する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.成果発表(作品講評会)において作品への評価を受け、問題点や解決への緒を各学生が導き出す。(10点×4回 計40点) 2.課題のテーマ、モチーフへの理解と観察、などを基準にして総合的に作品の評価を行います。50点

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	デッサン	実習	使用画材と技法の理解 準備物と課題計画の確認	540
	内容	着彩紙デッサン(キアロスクーロ)			
2回	テーマ	デッサン	実習	使用画材と技法の理解 準備物と課題計画の確認	1620
	内容	裸婦デッサン/大型木炭紙			
3回	テーマ	油彩画	実習	使用画材と技法の理解 準備物と課題計画の確認	2700
	内容	着衣人物/油彩画			
4回	テーマ	油彩画	実習	使用画材と技法の理解 準備物と課題計画の確認	5220
	内容	人物座像/デッサン、グリザイユ、油彩画			

科目名	彫刻実習ⅠB(1美)				開講学年	1	講義コード	2671401	区分	必修	
英文表記	Sculpture Work 1B				開講期	後期	開講形態		単位数	4	
担当教員	清島 浩徳 (実務経験)										
研究室	L-104						オフィス アワー 月曜5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sono-u.ac.jp										
キーワード	人物塑像制作										
授業概要	粘土による人体像の制作を行う。写実的な表現を試みることで、造形的な見方・考え方を働かせ、基礎的な立体造形力を身につけることを目指す。量感や奥行きといった、立体ならではの感覚を高め、粘土素材を自由に駆使できるようになるには、創造的な思考力、判断力、表現力を身につけるための多くの修練が必要である。全身像の制作では人体の比例や均衡、動勢、マッサなどについての理解が求められる。何度も繰り返し制作を続けながら、表現者としての感性、観察眼を養うとともに、学んだことを総合的に組み立てて、意図するものがより明確に表現できるように務める。授業以外の時間で自主的に制作を深め、毎日制作する習慣を身につけることで、表現者としての資質の向上を目指す。							関連科目			
								西洋美術史、日本美術史、美術領域論Ⅱ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	人体のデッサン力を高めることができるようになる									
	②	心棒の組み方が理解できるようになる									
	③	塑像による表現を楽しめるようになる									
	④	面や量感などの造形要素を理解できるようになる									
	⑤	モデルを見て、的確なモデリングができるようになる									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	適宜指示します										
参考書	適宜指示します										

予備知識	粘土の性質を理解する 人体の骨格や筋肉などを観察して繰り返しデッサンする 立体を形作る面、量、質感、空間などや、比例、均衡、動勢、マッサなどについて理解する 彫刻の素材や制作の為の道具について研究する
DPとの関連	芸術や文化における専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付け、造形活動や芸術の研究を通して培った豊かな感性や高い倫理観を持った、社会人となるための修練や、あらゆる物事に真摯に取り組む姿勢を持つ人物の育成を目指すとともに、社会における芸術の役割を認識した上で、現代の課題を発見し、それを解決することによって未来の文化形成に寄与し、社会貢献できる人物を育成するという目標を持った授業となっています。
実務経験のある教員	清島浩徳
評価明細基準	的確なデッサンに基づくモデリングができたか 表現に工夫がみられたか 毎回テーマを持って取り組めたか

心身ともに健康面の管理を徹底する 粘土や道具等の管理を自ら責任をもって行なう 最後まで粘り強く作品を作り上げる姿勢で臨む 自主制作を徹底する

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	オリエンテーション	講義	人体の頭部の構造を理解する	150
	内容	内容の確認			
2回	テーマ	ポーズ決め	実習	骨格や構造を理解するためのデッサンを心がける	150
	内容	デッサン			
3回	テーマ	ポーズ決め	実習	骨格や構造を理解するためのデッサンを心がける	150
	内容	デッサン			
4回	テーマ	ポーズ決め	実習	骨格や構造を理解するためのデッサンを心がける	150
	内容	デッサン			
5回	テーマ	心棒組み	実習	人体の流れを把握しながら心棒を作る	150
	内容	心棒組み			
6回	テーマ	心棒組み	実習	人体の流れを把握しながら心棒を作る	150
	内容	心棒組み			
7回	テーマ	制作	実習	モデルをしっかり観察しながらモデリングを行う	150
	内容	粘土によるモデリング			
8回	テーマ	制作	実習	モデルをしっかり観察しながらモデリングを行う	150
	内容	粘土によるモデリング			
9回	テーマ	制作	実習	モデルをしっかり観察しながらモデリングを行う	150
	内容	粘土によるモデリング			
10回	テーマ	制作	実習	モデルをしっかり観察しながらモデリングを行う	150
	内容	粘土によるモデリング			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	中間講評	講評	中間講評を行い、課題を把握する	150
	内容	粘土によるモデリング			
12回	テーマ	制作	実習	モデルをしっかり観察しながらモデリングを行う	150
	内容	粘土によるモデリング			
13回	テーマ	制作	実習	モデルをしっかり観察しながらモデリングを行う	150
	内容	粘土によるモデリング			
14回	テーマ	制作	実習	モデルをしっかり観察しながらモデリングを行う	150
	内容	粘土によるモデリング			
15回	テーマ	制作	実習	モデルをしっかり観察しながらモデリングを行う	150
	内容	粘土によるモデリング			
16回	テーマ	講評 評価		成果と課題を確認し、次の制作へのつなげていく	150
	内容	プレゼンテーション 評価			

科目名	石膏技法実習A (1美)				開講学年	1	講義コード	2671501	区分	必修	
英文表記	Plaster technique work A				開講期	後期前半	開講形態		単位数	1	
担当教員	清島 浩徳 (実務経験)										
研究室	A-104						オフィス アワー 金曜日5限				
メールアドレス	hirokiyo@gmail.com										
キーワード	石膏、型取り、FRP樹脂取り、アクリル樹脂取り、シリコン型制作										
授業概要	<p>塑像作品を耐久素材に置き換えるための素材として、石膏は欠かせないものである。石膏の性質を理解し、型取りから成型までの流れを理解し体験し、塑像作品を石膏に置き換えられるようになる。また、石膏を表現素材として活用する技法も身につける。また石膏以外の多様な材料や異なる材料を組み合わせたり、新しく開発された素材などの特性を活用したりして、試行錯誤しながら新たな表現方法を発見したり思いついたりするなど、多様な表現を追求できるようになる。</p>							関連科目			
								彫刻実習 I A、I B			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	石膏素材を自由に扱うことができるようになる									
	②	型取りを理解し、技法を駆使できるようになる									
	③	新しい素材の特性を活用することができるようになる									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	10	10	60	10	10	100		
教科書	特になし										
参考書	特になし										

予備知識	<p>塑像制作作品の完成 型取りから成型にいたるまでの行程を理解する</p>
DP との 関連	<p>芸術や文化における専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付け、造形活動や芸術の研究を通して培った豊かな感性や高い倫理観を持った、社会人となるための修練や、あらゆる物事に真摯に取り組む姿勢を持つ人物の育成を目指すとともに、社会における芸術の役割を認識した上で、現代の課題を発見し、それを解決することによって未来の文化形成に寄与し、社会貢献できる人物を育成するという目標を持った授業となっています。</p>
実務経験 のある 教員	<p style="text-align: center;">清島浩徳</p>
評価明細 基準	<p>石膏型取りを理解し技術を体得できたか 実習の為の準備や自主的な制作ができたか 理解した内容が作品に反映できたか</p>

道具等は各自で必要なものを揃える

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	オリエンテーション	講義	次回授業の準備説明	150
	内容	内容の理解			
2回	テーマ	石膏素材について	講義、実習	石膏及び必要な道具の準備・購入	150
	内容	石膏の特徴や可能性について理解する			
3回	テーマ	型取り実習	実習	型の分け方、石膏の性質を理解する	150
	内容	キリガネの入れ方 石膏の使用法実習 型取り実習			
4回	テーマ	型取り, 成型実習	実習	石膏の扱い方を理解する	150
	内容	成型実習			
5回	テーマ	型取り 成型実習	実習	割り出しの手順、道具の扱いを理解する	150
	内容	成型、割り出し実習			
6回	テーマ	石膏じか付け制作	実習	石膏の扱い、道具の扱いと応用を理解する	150
	内容	石膏によるじか付け制作			
7回	テーマ	石膏じか付け制作	実習	同上	150
	内容	石膏によるじか付け制作			
8回	テーマ	プレゼンテーション 講評、評価	評価	授業内容の理解度を確認する	150
	内容	プレゼンテーション			
9回	テーマ				150
	内容				
10回	テーマ				150
	内容				

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ				150
	内容				
12回	テーマ				150
	内容				
13回	テーマ				150
	内容				
14回	テーマ				150
	内容				
15回	テーマ				150
	内容				
16回	テーマ				150
	内容				

科目名	石膏技法実習B(1美)				開講学年	1	講義コード	2671601	区分	必修	
英文表記	Plaster technique work B				開講期	後期後半	開講形態		単位数	1	
担当教員	清島浩徳(実務経験)										
研究室	A104						オフィス アワー 金曜5限				
メールアドレス	hirokiyo@gmail.com										
キーワード	FRP樹脂、型取り、アクリル樹脂、シリコン型制作										
授業概要	石膏素材と同じく、FRP樹脂を彫刻の成型素材として使用できることを理解し、その技法を身につけることを目指します。また、石膏やFRPが、型取りや成型の素材としてだけでなく、表現素材としての展開もあることを学びます。また石膏以外の多様な材料や異なる材料を組み合わせたり、新しく開発された素材などの特性を活用したりして、試行錯誤しながら新たな表現方法を発見したり思いついたりするなど、多様な表現を追求できるようになる。							関連科目			
								彫刻実習IA IB			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	塑像作品の型取りができるようになる									
	②	FRPの使用方法を理解できるようになる									
	③	FRP成型ができるようになる									
	④	彫刻作品の着色ができるようになる									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	特になし										
参考書	特になし										

予備知識	FRP樹脂とは何かを知っておく
DPとの関連	芸術や文化における専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付け、造形活動や芸術の研究を通して培った豊かな感性や高い倫理観を持った、社会人となるための修練や、あらゆる物事に真摯に取り組む姿勢を持つ人物の育成を目指すとともに、社会における芸術の役割を認識した上で、現代の課題を発見し、それを解決することによって未来の文化形成に寄与し、社会貢献できる人物を育成するという目標に沿った授業となっています。
実務経験のある教員	
評価明細基準	FRP樹脂の使い方が理解できたか FRP樹脂成型ができるようになったか 石膏を自由に使用できるようになったか 着色ができるようになったか

危険な薬品等も使用するので、服装、有機溶剤対応のガスマスク等の準備が必要です

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	オリエンテーション	講義	FRPの特性を理解する	150
	内容	実習概要の説明とFRPについての講義			
2回	テーマ	型取り	実習	石膏の型取りを理解する	150
	内容	石膏による型取り			
3回	テーマ	型取り、粘土掻き出し	実習	粘土のかき出し方を理解する	150
	内容	型取り、粘土掻き出し			
4回	テーマ	FRP成型	実習	FRP成型を理解する	150
	内容	FRP成型			
5回	テーマ	FRP成型	実習	同上	150
	内容	FRP成型			
6回	テーマ	割り出し	実習	割り出し方を理解する	150
	内容	割り出し			
7回	テーマ	修正、着色	実習	修正、着色の作業を理解する	150
	内容	修正、着色			
8回	テーマ	プレゼンテーション 講評、評価	プレゼン 評価	実習の理解度を確認する	150
	内容	プレゼンテーション 講評、評価			

科目名	美術史基礎演習Ⅱ（1美）				開講学年	1	講義コード	2671801	区分	選必	
英文表記	Basic Study for Art History II				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	美術史 アートリテラシー 鑑賞能力 文章記述力										
授業概要	美術史という学問はまず「もの(芸術作品)をみる」ことから始まる。それはまさに「世界」を認識することでもある。自分が観察したもの(視覚的情報)を自分の言葉でできるだけわかりやすく変換できるかが美術史の基本作業となり、すべてはそこから始まる。これを「作品記述(description)」と呼ぶ。本演習では美術史の勉強をはじめると同時に、作品記述に必要な様々な技術・能力を養い、「作品記述」を通して、「ものをみる」能力、つまり鑑賞能力(アートリテラシー)を鍛えていく。また、本演習を通して実社会に役立つ日本語表現応力を身につける。各課題のフィードバックは提出後の発表しと講評により行う。							関連科目			
								日本美術史／東洋美術史／西洋美術史／美術概論／芸術文化コース開講のすべての専門科目に関連する。学芸員課程科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	美術作品の観察力・鑑賞力の基礎力を習得できる。									
	②	美術作品についての記述力・伝達力の基礎力を習得できる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	40	10	30	0	10	10	100		
教科書	高校生のための哲学・思想入門 筑摩書房 竹田青嗣他編著 日本美術史ハンドブック 新書館 辻惟雄他編 美術史と美術理論 西洋十七世紀絵画の見方 放送大学教材 木村三郎 1冊でわかる美術史 岩波書店 ダナ・アーノルド著・鈴木杜幾子訳 購入の必要なし。上記のテキストは適宜コピーを配布する。										
参考書	西洋美術史入門 ちくまプリマー新書、2012年 池上英洋 イメージの歴史 ちくま学芸文庫、2012年 若桑みどり イメージを読む—美術史入門— ちくま学芸文庫、2005年 若桑みどり アートを書く!クリティカル文章術 Next Creator Bookフィルムアート社、2006年 杉原賢彦他 美術を書く 東京美術 シルヴァン・バーネット著、竹内順一監訳										

予備知識	
DPとの関連	2年次以降の専門科目の芸術文化研究を遂行するための初歩的な準備、基礎形成をしっかり行う。
実務経験のある教員	
評価明細基準	平常の授業の取り組み10点、自分記述10点、スケディ10点、モティディ20点、レポート10点、作品カード(3枚)30点、SOJOポートフォリオ10点(計100点)

単位修得の条件は①出席3分の2以上、②上記の課題提出をすべて満たしていること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション	講義	本演習の内容を理解する。	90
	内容	ものをみるって何？			
2回	テーマ	「自分」を記述する。①	演習／AL	課題①の作成	90
	内容	「牡蠣フライ理論(カキフ)」で記述してみよう。			
3回	テーマ	「自分」を記述する。②	演習	課題①のフィードバック	90
	内容	「牡蠣フライ理論(カキフ)」で記述してみよう。(添削指導)			
4回	テーマ	自分のまわりのものをデッサン／記述しよう。①	演習	課題②の作成	180
	内容	スケッチ×記述(スケデイ)			
5回	テーマ	モチーフ構成と記述①	演習	課題③-1の作成	180
	内容	モチーフ×記述(モティデイ)			
6回	テーマ	モチーフ構成と記述②	演習	課題③-2の作成	180
	内容	モチーフ×記述(モティデイ)			
7回	テーマ	視覚情報を的確に他人に伝えよう。①	演習	課題②③の講評 スケッチスキル実施。	90
	内容	スケッチスキル(スケスキ)			
8回	テーマ	視覚情報を的確に他人に伝えよう。②	演習／講義	ディスクリプションスキルのフィードバック。	90
	内容	ディスクリプションスキル(デイスキ) 美術作品の記述①: 作品カードの作り方			
9回	テーマ	美術作品の記述②(4コマ)	演習(添削指導)	課題④1-3: 作品カード作成(文章添削含む)	360
	内容	作品カード作成(3枚)および提出 総括			

科目名	視覚造形実習ⅠB(1美)				開講学年	1	講義コード	2672001	区分	選択		
英文表記	Visual Arts WorkⅠB				開講期	後期	開講形態		単位数	6		
担当教員	永田 郁 勝野眞言 野島泉里(非常勤) 野島マーサ(非常勤)											
研究室	永田A208(芸術学部棟) 勝野A212(芸術学部棟)						オフィス アワー 水曜日5限(永田)					
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	アート制作 ドローイング 塑造 コンセプト											
授業概要	本実習は視覚芸術コース独自のプログラムであり、アート制作にあたってデザイン的表現方法を含め、様々な領域を横断して作品制作が可能となる基本的な思考・方法論を学び、2年次以降自分が構想するイメージを多様なメディアを統合して作品制作できる基礎的なものの見方、考え方およびデザイン的思考を学び、アート制作の基盤を構築する。後期は①デッサン・ドローイング②立体塑造、③制作のアプローチで構成される。アート制作に必要な基本的な技術・発想法を含めアートへのアプローチの方法を習得していく。なお、理論およびプレゼンテーション、ライティングの技術については視覚造形演習B(永田担当)において習得していく。各担当の教員による作品講評、ディスカッションにより学生へのフィードバックを行う。本実習は週2コマ×3回で実施される。2年次以降のアート制作を実現するための様々なツール(デザイン領域、アート理論領域)を修得し、自分が制作したい作品内容を実現するための方法を様々な分野を横断しながら、作品に落とし込み、その表現方法を身につけていく。各領域の担当開講曜日は下記の通りである。月曜日1-2限:デッサン・ドローイング(野島泉里[美/非]) 木曜日1-2限:立体塑造(勝野[美]) 金曜日1-2限:制作のアプローチ(野島[マ][美/非])								関連科目			
									視覚造形実習ⅠA/視覚造形演習A/視覚造形演習B			
教職関連区分									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	アート制作にあたり、必要な基本的なものの考え方、素材や道具の扱い方、またドローイングを通して発想する方法を理解できる。										
	②											
	③											
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	0	80	10	10	0	100			
教科書	特に指定しない。											
参考書	学ばないドローイング(HOW TO SEEシリーズ) フィルム・アート社 ピーター・ジェニー著・石田友里訳 ドローイング・テクニック(HOW TO SEEシリーズ) フィルムアート社 ピーター・ジェニー著・石田友里訳 アーティストの目(HOW TO SEEシリーズ) フィルムアート社 ピーター・ジェニー著・石田友里訳 人間を描く(HOW TO SEEシリーズ) フィルムアート社 ピーター・ジェニー著・石田友里訳											

予備知識	
DPとの関連	アート制作、ドローイング、塑造といった異なる領域の学びを通して、メディア、固定観念にとらわれない造形活動の土台を形成する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	各クラスの課題80%、ポートフォリオ10%、目標到達度レポート10%の100点。

本実習内容は曜日毎に内容が異なるので、オリエンテーションには必ず出席すること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 野島泉里(非常勤) ドローイング	内容 ドローイングは思考の方法である。ドローイングに正解はなく、むしろその思考の連続性の中に様々な発見をしていくところに価値を見出す。正解を求めることは思考の停止であり、ドローイングはその反対の行為である。一年を通じてドローイングを学んでいくが、2年次以降の創作の基盤となることを目指す。	講義	ドローイングの目的を確認。	180分
2回	テーマ ドローイング	内容 ドローイング課題1(3週)	実習	ドローイングに向け、自分を整える。	540
3回	テーマ ドローイング	内容 ドローイング課題2(3週)	実習	ドローイングに向け、自分を整える。	540
4回	テーマ ドローイング	内容 ドローイング課題3(3週)	実習	ドローイングに向け、自分を整える。	540
5回	テーマ ドローイング	内容 ドローイング課題4(3週)	実習	ドローイングに向け、自分を整える。	540
6回	テーマ ドローイング	内容 ドローイング課題5(3週)	実習	ドローイングに向け、自分を整える。	540
7回	テーマ 勝野 立体塑造	内容 1、モデルのデッサンをして特徴を把握する	実習	モデルを観察して、特徴を把握できるようになる	180
8回	テーマ 立体塑造	内容 2、心棒制作と粘土の荒付	実習	粘土の性質を知って塑造の制作過程を理解できるようになる。	180
9回	テーマ 立体塑造	内容 3-4、粘土による頭像制作・I-II	実習	・塊や面、構造について理解できるようになる ・道具の使い方工夫できるようになる	360
10回	テーマ 立体塑造	内容 5、中間評での相互評価	レクチャー	・塊や面、構造について理解できるようになる ・道具の使い方工夫できるようになる	180

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ 6、評価を反映して頭像制作・Ⅲ	立体塑造	実習	塊や面、構造について理解できるようになる・道具の使い方を工夫できるようになる	180
	内容				
12回	テーマ 7、粘土による頭像制作・Ⅳ	立体塑造	実習	塊や面、構造について理解できるようになる・道具の使い方を工夫できるようになる	180
	内容				
13回	テーマ 8、同上・Ⅴ	立体塑造	実習	塊や面、構造について理解できるようになる・道具の使い方を工夫できるようになる	180
	内容				
14回	テーマ 9、相互評価による中間評	立体塑造	レクチャー	塊や面、構造について理解できるようになる・道具の使い方を工夫できるようになる	180
15回	テーマ 10、粘土による頭像制作・Ⅵ	立体塑造	実習	塊や面、構造について理解できるようになる・道具の使い方を工夫できるようになる	180
	内容				
16回	テーマ 11、石膏取り・Ⅰ 雌型づくり(作業の流れを理解する。	立体塑造	実習	石膏取り、及びテラコッタ制作の流れを理解できるようになる。	180
	内容				
17回	テーマ 12、石膏取り・Ⅱ 雌型づくり(作業の)流れを理解する。	立体塑造	実習	石膏取りの流れを理解できるようになる。	180
	内容				
18回	テーマ 13、テラコッタ用型詰め	立体塑造	実習	テラコッタ制作の流れを理解できるようになる。	180
	内容				
19回	テーマ 14、型外しと修正	立体塑造	実習	テラコッタ制作の流れを理解できるようになる。	180
	内容				
20回	テーマ 15、焼成	立体塑造	実習	テラコッタ制作の流れを理解できるようになる。	180
	内容				

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	立体塑造	実習	テラコッタ制作の流れを理解できるようになる。	180
	内容	i6、窯開けと修正および彩色			
22回	テーマ	野島マーサ(非常勤) 作品のアプローチ		実習の目的の確認。	
	内容	作品の内容とは何か、ということについて、簡単な制作を通じて考える。随時ディスカッションをする。(前期のほかの講義の内容を踏まえて)			
23回	テーマ	作品のアプローチ	実習	課題の準備・制作	360
	内容	課題1			
24回	テーマ	作品のアプローチ	実習	課題の準備・制作	360
	内容	課題2			
25回	テーマ	作品のアプローチ	実習	課題の準備・制作	360
	内容	課題3			
26回	テーマ	作品のアプローチ	実習	課題の準備・制作	360
	内容	課題4			
27回	テーマ	作品のアプローチ	実習	課題の準備・制作	360
	内容	課題5			
28回	テーマ	作品のアプローチ	実習	課題の準備・制作	360
	内容	課題6			
29回	テーマ	作品のアプローチ	実習	課題の準備・制作	540
	内容	課題7			
30回	テーマ	作品展示(The 3rd Floor)	講評	作品のプレゼンテーション	180
	内容	本実習の課題の作品展示			

科目名	視覚造形演習B(1美)				開講学年	1	講義コード	2672201	区分	選択	
英文表記	Visual Art Basic Seminar B				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	永田 郁										
研究室	A208(芸術学部棟)						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	現代アート 人類学 つち式 The 3rd Floor										
授業概要	<p>本演習は前期の視覚造形演習Aに引き続き、前半において現代アートにおける理論的な理解を深め、制作に必要なものの見方・考え方の基盤を形成していく。その次に関心を自分の身の回りで起きている事象に向け、人類学的なアプローチからそれをどのようにプロジェクト化できるかを受講者とともに考える。そして、本演習の最後の課題として、視覚芸術コース年度末の成果発表の場であるThe 3rd Floor展に向け、各自企画構想して、それを如何に実現に向けて主体的に動き制作できるかを学んでいく。本展示の際の講評により学生へのフィードバックを行う。</p>							関連科目			
								視覚造形演習A/視覚造形実習IA/視覚造形実習IB			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	身の回りの問題について考え、どのようにプロジェクト化できるか、計画できる。									
	②	2年生に向けて、制作に必要な基礎的な考え方、ものの見方を修得できた。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	40	40	10	10	0	100		
教科書	<p>5歳の子どもにできそうでできないアート 東京美術 スージー・ホッジ つち式2017 東千茅 上記のテキストは講義時に適宜コピー配布。</p>										
参考書	<p>たぐいvol.1 垂紀書房 Lexicon 現代人類学 以文社 奥野克巳 アートで生きる 美術出版社 杉田敦編 イメージと意味の本 フィルムアート社 ション・ホール アートスクールで学ぶ101のアイデア フィルムアート社 キット・ホワイト</p>										

予備知識	
DPとの関連	視覚芸術コースとしての造形活動に対する初歩的・基礎的な考え方・ものの見方およびリサーチ力を身につけていく。
実務経験のある教員	
評価明細基準	プレゼンテーションによる発表およびレポートあるいは作品発表(40)、The 3rd Floor(40)、ポートフォリオ(10)、目標到達度レポート(10)計100点。

本演習は視覚造形実習IBと連動しているため、後期における視覚芸術コースの全体のスケジュールを初回オリエンテーションで説明するので必ず出席すること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	オリエンテーション	講義	本講義の理解、目的の確認。	180 (1週)
	内容	後期の課題(The 3rd Floor)とスケジュールについて			
2回	テーマ	講読・発表1(現代アート編)(10月)	演習	発表後、レポート作成する	720 (2-5週)
	内容	『5歳の子どもにできそうでできないアート』を取り上げ、各回学生が発表し、議論する。			
3回	テーマ	公募展への作品出品(予定)	演習	自分の作品のコンセプト、作品撮影、自己アピールを作品出品を通して学ぶ。	900 (6-10週)
	内容	Nonio Wave Awardに応募する(前年の例)。			
4回	テーマ	The3rd Floor	演習	自分の身の回りの身近なテーマを見つけ、それを作品化していくことを学ぶ(協働制作)	900 (11-15)
	内容	硯川実習棟における課題The3rdFloorの企画・制作			
5回	テーマ	まとめ	演習	プレゼンテーション	180
	内容	講評 目標到達度レポートおよびポर्टフォリオ作成			

科目名	美術概論（2美デ）				開講学年	2	講義コード	2672401	区分	選択	
英文表記	Introduction to Art				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208						オフィス アワー 水曜日4限				
メールアドレス	mahabala @art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	現代アート アートと社会 人類学 多自然主義／パースペクティズム アートリテラシー										
授業概要	本講義は現代アートのさまざまなテーマ・問題を取り上げ、現代アーティストの作品がどのように知覚され、何が視覚化されているか、鑑賞のポイントを解説する。現代アートを読み解くキーワードについてもテーマごとに紹介し、現代アートの理解を深め、グローバル化、テクノロジーの進化など複数の視点を持ち、批判的にアートの社会的機能・役割を考える。また熊本内外の展覧会に受講生が実際に赴き、その体験を言語化することによって客観的に作品を観るアート・リテラシー能力を習得していく。その他、国内外で開催されている展覧会等も紹介しながら、現代アートの動向を探っていく。講義中に行った小レポート等については適宜フィードバックしていく。							関連科目			
								日本美術史、西洋美術史、東洋美術史、視覚芸術のコース専門科目全般、学芸員課程科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	本講義を通して現代アートが我々人間と人間が住む社会にとってどんな機能をもっているかを理解できる。									
	②	アートに関してその体験を自分の言葉で、整理し、伝えることができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	45	0	20	0	10	10	15	100		
教科書	特に指定しない。										
参考書	現代アートの本当の学び方／現代アートの本当の見方／現代アートの本当の楽しみ方 フィルムアート社 フィルムアート社 アートと音楽ー新たな共感覚をもとめて フィルムアート社 東京都現代美術館監修 レヴィ=ストロース野生の思考(100分de名著)/現代思想3月臨時増刊号2017vol.45-4 NHK/青土社 美術手帖2018.6月号(特集アートと人類学) 美術出版社 制作へ EKRITS 上妻世海										

予備知識	芸術学部開講科目全般に関連する。
DPとの関連	造形活動や芸術文化研究における必要な基礎的な知識、ものの見方・考え方を学ぶ。
実務経験のある教員	
評価明細基準	講義への取り組み(15%)+展覧会評orライティング課題(20%)+定期試験/小作品(55%)+目標到達度レポート(10%)。

日ごろ、展覧会に足を運び、現代アート作品を見ることに慣れておくこと。単位修得の条件は①出席3分の2以上、②定期試験受験、③課題提出のすべてを満たしていること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 現代アートとは？ どうやって現代アートに近づくか？ 内容		講義	受講後、講義で取り上げた作品、アーティストについて参考文献等を活用して振り返るとともに、次回の講義において芸術運動や芸術理論等について聞かれても答えることができるよう理解を深めておくこと。	30(1)
2回	テーマ 美大における学び なぜデッサンは必要なのか？/アートは美大で学べるのか？など。 内容		講義	2.の配布資料の復習。	60(1)
3回	テーマ 日本画の遺伝子 村上隆/落合多武/奈良美智/アニメーション 内容		講義	3.の配布資料の復習。	180 (2-3)
4回	テーマ 芸術とは？ M・デュジャント・J・ゲージの挑戦 内容		講義	4分33秒になる。	180(4-5)
5回	テーマ 20世紀の音楽 ブレーズ、シュトックハウゼン、クセナキス、ヴァレーズ他 内容		鑑賞	学校では聞けない音楽鑑賞をどう聞いたか小レポート。	90(6)
6回	テーマ アートと音楽 21世紀の動向 内容		鑑賞	映像等を自分なりに鑑賞する。	90(7)
7回	テーマ モダンアートの限界 ボワイエ・キユーブとモダンアート、そしてインスタレーション 内容		演習	課題：「北川フラム更迭」問題の所在？について考える。	180(8-9)
8回	テーマ 出会う場所でアートは変わる 草間彌生/オラファー・エリアソン/レオナルド・エルリッヒなど 内容		講義	8.の配布資料を復習。	90(10)
9回	テーマ 「見る」ということ ゾフィー・カルフ/河原温など 内容		講義	9.の配布資料を復習。	90(11)
10回	テーマ アートと社会 ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻、我々は社会を動かす「資本」になれるのか？ 内容		講義	課題ワークシート：ヨーゼフ・ボイス	90(12)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	これからのアート	講義・演習	プリコラージュを体験する。	180(13-14)
	内容	アートと人類学、その前にプリコラージュについて知ろう			
12回	テーマ	学外見学	AL	各自展覧会を観て、展評をかく、not 感想文。	180 (14-15)
	内容	展覧会を観て、展評作成。			
13回	テーマ	総括		アーティストに関して調べて来たことを論述する。	90 (16)
	内容	定期試験			

科目名	共通立体実習（彫刻）（2美）				開講学年	2	講義コード	2672901	区分	選必	
英文表記	Common three-dimensional training (sculpture)				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	勝野 眞言（実務経験）										
研究室	A212						オフィス アワー 火曜日16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	粘土、観察力、頭部、発見										
授業概要	<p>人体の頭部を観察し、粘土による制作を通して観察力を実践的に養う機会とする。立体制作は、ただ一方向のつじつまが合えば良いと言うのではなく、360度あらゆる方向からの観察が必要であり、見慣れた対象を改めて見つめ直すと新たな発見が得られる。『観察力』は今後の造形活動が続けて行く上で必要不可欠なものである。対象をしっかり観察することによって、感動や自分の心を動かすもの、あるいは各自の狙いを素材である土を扱いながら追求を行う。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。</p>							関連科目			
								共通デッサン1、2／日本画実習1A、1B／洋画実習1A、1B／彫刻実習1A、1B			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	粘土による制作を通して観察力を深めることができる。									
	②	素材の特徴を理解することができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	プリント										
参考書											

予備知識	基礎デッサン1,2
DPとの関連	<p>学びのキーワードは「対象をよく観る＝観察力の習得」である。対象を見つめることから発想を得、コンセプトを練り上げ、制作のための試行錯誤を繰り返えし、他者にわかりやすく魅力的に伝える為の表現力やプレゼンテーション力を鍛える。このような一連のプロセスを辿ることで企業の現場で役立つような企画力、計画性、コミュニケーション力を身につけ、あらゆる業種の企業から求められる人材育成に繋げることができる。</p>
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	出席・レポート提出・プレゼンテーションへの取り組み・到達度などを考慮し、総合的に評価する。

動きやすく作業に適した服装であること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	作家活動紹介	実習	パワーポイントで作例を示す	180
	内容	立体作品紹介			
2回	テーマ	平面描写による立体の理解	実習	鉛筆デッサン	180
	内容	首画像デッサン			
3回	テーマ	心棒制作	実習	木材、棕櫚縄で頭部の心棒をつくる。粘土を土練機で練る	180
	内容	心棒制作・粘土練			
4回	テーマ	頭像観察	実習	面の展開	180
	内容	制作 構造の理解1			
5回	テーマ	頭像観察	実習	量の展開	180
	内容	制作 構造の理解2			
6回	テーマ	頭像観察	実習	切断・分割	180
	内容	制作 塊の理解1			
7回	テーマ	頭像観察	実習	積む構造	180
	内容	制作 塊の理解2			
8回	テーマ	頭像観察	実習	組む構造	180
	内容	制作 塊の理解3			
9回	テーマ	頭像観察	実習	量の全体の中でのバランスの理解	180
	内容	制作 量の構成			
10回	テーマ	客観的な理解	実習	個別にプレゼンを行う	180
	内容	講評会			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	頭像観察	実習	対象を観察し制作を行なう	180
	内容	制作量の理解			
12回	テーマ	頭像観察	実習	同上	180
	内容	同上			
13回	テーマ	頭像観察	実習	同上	180
	内容	同上			
14回	テーマ	頭像観察	実習	同上	180
	内容	同上			
15回	テーマ	頭像観察	実習	同上	180
	内容	同上			
16回	テーマ	客観的な理解	実習	到達度ポートフォリオの作成	180
	内容	講評会 個別にプレゼンを行う			

科目名	日本画実習ⅡB(2美)				開講学年	2	講義コード	2673101	区分	選必	
英文表記	Japanese painting Practical ⅡB				開講期	後期	開講形態		単位数	8	
担当教員	中村 賢次										
研究室	A416						オフィス アワー 水曜昼休み				
メールアドレス	ken1214@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,岩絵具,人物画										
授業概要	日本画制作に必要な写生・小下図・草稿・本紙の各過程の重要性を理解し実践する中で、日本の歴史と風土に培われた伝統的な日本画の画材全般の使用方法を理解し、制作において必要な集中力・持久力を養う。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	感動と観察による写生の重要性を理解できるようになる									
	②	写生を元に作品制作において重要な小下図の役割を理解できるようになる									
	③	日本画の画材の性質上、不可欠な工程である草稿の役割を理解できるようになる									
	④	本紙における各画材の使用方法を理解できるようになる									
	⑤	作品制作で最も重要である感動やイメージを具現化するために必要な気力・体力を身に付けることができるようになる									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席・平常点10点(日)	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	日常的に質疑を行ない理解度を確認する。一作品ごとに合評・採点を行なう。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 人物	人物 肖像又は実在する人物の写生及び20号パネル製作	実習	十分な写生を繰り返す	180
2回	テーマ 人物	人物 写生を元に小下図制作及び和紙(麻紙・楮紙)にドーサ引き	実習	感覚的なイメージを具体化する	180
3回	テーマ 人物	人物 原寸大での草稿及び裏打ち	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	180
4回	テーマ 人物	人物 草稿の転写、墨入れ、地塗り	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	180
5回	テーマ 人物	人物 本紙制作(水干絵具)	実習	画材と技法について十分に検討する	180
6回	テーマ 人物	人物 本紙制作(水干絵具)	実習	画材と技法について十分に検討する	180
7回	テーマ 合評・採点	合評・採点 本紙制作(水干絵具)	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
8回	テーマ 植物	植物 屋外にて植物の写生及び30号パネル製作	実習	十分な写生を繰り返す	180
9回	テーマ 植物	植物 写生を元に小下図制作及び和紙(麻紙・楮紙)にドーサ引き	実習	感覚的なイメージを具体化する	180
10回	テーマ 植物	植物 写生を元に小下図制作及び和紙(麻紙・楮紙)にドーサ引き	実習	感覚的なイメージを具体化する	180

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	植物	実習	カタチに対して十分な検討を行な	180
	内容	草稿の転写、墨入れ、地塗り			
12回	テーマ	植物	実習	画材と技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作(岩絵具)			
13回	テーマ	植物	実習	画材と技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作(岩絵具)			
14回	テーマ	植物	実習	画材と技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作(岩絵具)			
15回	テーマ	合評・採点	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	本紙制作(岩絵具)			

科目名	洋画実習ⅡB(2美)				開講学年	2	講義コード	2673301	区分	選択	
英文表記	Thematic Practice in Oil Painting II B				開講期	後期	開講形態		単位数	8	
担当教員	下城賢一 熊谷有展 上野洋嗣(非常勤)										
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金曜日5時限目				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	油彩 人物画 素描 テンペラ画 古典技法										
授業概要	洋画実習ⅡAの課題への取り組みを経て、西洋絵画の総合的な完成を求める。テンペラ画をはじめとした古典技法にも取り組み、自らのテーマ制作に反映できるようにする。空間や明暗、色彩など基礎造形力の到達と応用への試みを全体の主題とした課題が組まれている。この授業には汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理力の内容も含まれている。							関連科目			
								洋画実習ⅠA・B			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	基礎造形力の集大成としての力をつける									
	②	大きな画面で素描する									
	③	空間の中にモチーフや人物があることを表現できる									
	④	個々のテーマを持って制作に取り組むことができる									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	40	60	0	0	100		
教科書	プリント配布										
参考書											

予備知識	洋画実習ⅡAと連動する
DPとの関連	自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力をみにつけ、それらを実践できるもの
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.作品講評会において、客観的な教員の指導と評価を受けて次回以降の作品制作に反映し発展することができる。(40点) 2.課題のモチーフとテーマを自らのものとして作品表現へ結実させることができるか。(60点)

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 内容	人物画(油彩)	実技	人物着衣を描く	
2回	テーマ 内容	
3回	テーマ 内容	
4回	テーマ 内容	
5回	テーマ 内容	
6回	テーマ 内容	静物画(油彩)	静物画を描き、構図を考察する	
7回	テーマ 内容	
8回	テーマ 内容	
9回	テーマ 内容	
10回	テーマ 内容	

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	進級制作作品(油彩)	〃	人物、静物、風景を描く	
	内容				
12回	テーマ	〃	〃	〃	
	内容				
13回	テーマ	〃	〃	〃	
	内容				
14回	テーマ	〃	〃	〃	
	内容				
15回	テーマ	〃	〃	〃	
	内容				

科目名	彫刻実習ⅡB (2美)				開講学年	2	講義コード	2673501	区分	必修	
英文表記	sculpture works ⅡB				開講期	後期	開講形態		単位数	12	
担当教員	清島 浩徳 (実務経験)										
研究室	L-A216						オフィス アワー 月曜5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	塑像、人体像										
授業概要	<p>塑像で人体像を制作することにより、立体制作上の基礎的な構築力や、表現力を身につけることができようになる。対象を鋭く観察し、様々なアプローチを試みることによって、造形的な見方・考え方を働かせ、人体の持つ存在感やムーブメントを的確に捉える修練や、それを立体で表現する能力を高める。さまざまなポーズを研究し、人体彫刻の魅力について考察し、独創的・創造的に表す専門的な技能を身につけることができるようになる。量感や動勢、バランスなどを考慮しながら肉付けができるようになる。粘土素材で様々な表現技術を試みて、研究を深めることができるようになる。</p>							関連科目			
								共通立体、西洋彫刻論			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	構築的なポーズの研究を深めることができるようになる									
	②	正確なデッサンに基づくモデリングができるようになる									
	③	より深く対象を観察し、自己の表現について考察を深めることができるようになる									
	④	粘土による表現が多様化したか判断できるようになる									
	⑤	人体彫刻の魅力について考察できるようになる									
	⑥	次の作品制作の課題が見えてきたか判断できるようになる									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	10	10	60	10	10	100		
教科書	適宜指示する										
参考書	適宜指示する										

予備知識	ギリシア彫刻のコントラポストなど、片足重心のポーズの際の重心の捉え方や、左右対称のポーズの際の重心の位置などを観察してみる。傾きやひねりなどを意識して面の方向性について観察する。
DPとの関連	表現者としての技量を高めるとともに、制作を通して、人間生豊かな人格の形成を育むことができ、DPに即した内容である
実務経験のある教員	清島浩徳
評価明細基準	モデルの個性を生かしたポーズ決めができたか 構築的な把握ができたか 粘り強く制作に挑戦する姿勢があったか 制作上で新たな発見があったか 出席状況は良かったか

・準備から作品制作、そして片付けに至るまで、一貫した流れを身につける。制作意欲を自ら高め、課題を持って、積極的に制作に挑む。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	デッサン	実習	ポーズの研究(予習、復習) デッサン	540
	内容	ポーズ研究のためのデッサン			
2回	テーマ	デッサン	実習	ポーズの研究(予習)	180
	内容	ポーズ決めのためのデッサン			
3回	テーマ	制作	実習	素材の準備、心棒作成の研究(予習)	360
	内容	心棒組み			
4回	テーマ	制作	実習	デッサンに基づき粘土をつける(予習、復習)	1620
	内容	荒付けⅠ			
5回	テーマ	制作	講義	合評を基に自主制作する	180
	内容	中間合評			
6回	テーマ	制作	実習	立体の捉え方を自ら問いながら、粘土表現への可能性を研究する	1800
	内容	荒付けⅡ			
7回	テーマ	制作	講義	合評を基に自主制作する 講評について、話し合いさらに研究を深める	360
	内容	中間合評Ⅱ			
8回	テーマ	制作	実習	様々な作家研究をしながら、独自の表現を模索し、作品に反映させる	2000
	内容	中付け			
9回	テーマ	制作	実習	細部や表面処理を研究し、完成に向かう	520
	内容	仕上げ			
10回	テーマ	講評	講義	作品についてプレゼンテーションを行なう(予習)	180
	内容	講評・評価			

科目名	西洋美術史特論Ⅱ（2美）				開講学年	2	講義コード	2674001	区分	選必	
英文表記	History of Western Art Advanced II				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A313						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	パトロン メディチ家、教皇 芸術家 アートとマネー AL、PBL										
授業概要	美術学科の人材育成目標の一つに、美術領域の専門家としての基礎的な知識を総合的に身に付けることがあるが、本科目は特に芸術文化コースの学生にとっては、基礎的な知識を身に付けるのに必要不可欠な科目である。平成31年も、ルネサンスの黄金時代の立役者であったパトロン（メディチ家や教皇）とその主な舞台であるフィレンツェ、そして自己を「芸術家」と認めさせた作家たちとの関係から学び始めるが、今回は『パトロン物語』の方を主要な教科書として学習していく。また、プレゼン時とレポート提出後に、それぞれコメントと赤入れ添削によるフィードバックを行うので、次の発表やレポート作成に生かして欲しい。							関連科目			
								西洋美術史 西洋美術史特論Ⅰ 西洋彫刻論 ほか			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	各時代の芸術・芸術家とパトロンの関係が理解できるようになる。									
	②	調査結果や図版を用いてP.P.で論理的なプレゼンテーションができるようになる。									
	③	情報を整理し、専門用語を用いながら、論理的な記述ができるようになる。									
	④	アートとマネーの関係が理解できるようになる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	35	40	0	10	15	100		
教科書											
参考書											

予備知識	特になし
DPとの関連	芸術文化研究における専門家として、専門的知識や論理的思考力、プレゼンテーション力、国際的視点を身に付け、社会において課題や問題を解決できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	成績の評価は、プレゼンテーション及び資料作成(40点)、レポート(35点)、ポートフォリオ、出席状況の合計点とする。合計が6割に満たない場合はレポート再提出とする。

プレゼンテーションと課題(レポート)提出がある。教科書は購入する必要はなし(コピーを配布)。メダイチ家やルネサンス期の芸術家に関する文献は夥しい数にのぼるため、自主的に1冊でも多くの文献を参照すること。
レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ ガイダンス	ガイダンス	講義 演習	復習	20
	内容 オリエンテーション(ガイダンス、イタリア語入門)				
2回	テーマ 古代	古代	講義 演習	配布資料の復習	40
	内容 古代のパトロンと芸術、マネーの関係ノイタリア語入門				
3回	テーマ ルネサンス	ルネサンス	講義 演習	配布資料の復習	40
	内容 ルネサンスのパトロン(メディチ家)と芸術家、マネーの関係1ノイタリア語入門				
4回	テーマ ルネサンス	ルネサンス	講義 演習	配布資料の復習	40
	内容 ルネサンスのパトロン(メディチ家)と芸術家、マネーの関係2ノイタリア語入門				
5回	テーマ ルネサンス	ルネサンス	講義 演習	配布資料の復習	40
	内容 ルネサンスのパトロン(イザベラ・デステ、他)と芸術家、マネーの関係ノイタリア語入門				
6回	テーマ ルネサンス	ルネサンス	講義 演習	配布資料の復習	40
	内容 レオナルドとティツィアーノのパトロンとマネーの関係ノイタリア語入門				
7回	テーマ バロック	バロック	講義 演習	配布資料の復習	40
	内容 バロックのパトロンと芸術、マネーの関係ノイタリア語入門				
8回	テーマ 近代	近代	講義 演習	配布資料の復習 プレゼン準備	120
	内容 画商、多様なパトロンが登場、オリエントノイタリア語入門				
9回	テーマ 近代	近代	講義 演習	配布資料の復習 プレゼン準備	120
	内容 カーンツヴァイラー、画家・画集の出版人、ロシアのパトロンノイタリア語入門				
10回	テーマ 近代	近代	講義 演習	配布資料の復習ノプレゼン準備	120
	内容 シチューキン家、ロシア・アヴァンギャルドと蒐集家ノイタリア語入門				

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	アメリカのパトロン	講義 演習	配布資料の復習／プレゼン準備／レポート準備	120
	内容	アメリカのパトロンとモダン・アートの誕生			
12回	テーマ	アメリカのパトロン	講義 演習	配布資料の復習／プレゼン準備／レポート準備	120
	内容	マネー・キング、美術史家ベリシジンと画廊デザイン			
13回	テーマ	アメリカのパトロン	講義 演習	配布資料の復習／プレゼン準備／レポート準備	120
	内容	財閥のパトロン（モーガン、カーネギー、ロックフェラーなど）			
14回	テーマ	プレゼン	AL PBL	プレゼン準備／プレゼン準備／レポート準備	120
	内容	学生によるプレゼンテーション/インタリア語入門			
15回	テーマ	プレゼン 総括	AL PBL	レポート完成	120
	内容	レポート完成・提出／総括			
16回	テーマ				180
	内容				

科目名	日本・東洋美術史特論Ⅰ(2美)				開講学年	2	講義コード	2674101	区分	選必	
英文表記	Japanese/Eastern Art History, Advanced I				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本美術史 鑑賞能力 アートリテラシー 文章記述力										
授業概要	美術史は芸術作品を対象とし、その作品を歴史の中に位置付け、それがどのような環境で誕生し、どのようなものとして存在したかについて、またその意味内容について幅広く探っていく学問である。その芸術作品の理解にはその芸術作品の造形上の特徴や何時、何処で制作され、といった作品のそのものの情報を引き出す必要がある。その第一歩として徹底した「観察」により、その形を言語化することが美術史研究の基礎的な作業となる。それが作品記述(description:ディスクリプション)という作業である。この基礎作業の上に、作品解釈やその作品の歴史的理解が成り立っている。ここでは作品の「観察」を通して、視覚から得た形の情報を言語化するとともに、同時に視覚による観察を通して、その形を「素描」することにより、その形態を把握することで、形の微細な差異を見分ける美術史研究に必要な基礎的な能力を養うことを主眼とする。目と手を使って楽しみながら芸術作品の世界へ迫っていく。また、実社会にでも必要な伝達能力・構成力および汎用的な日本語の表現方法を身につける。毎回の作品カードの添削指導で学生へフィードバックを行う。							関連科目			
								日本美術史／東洋美術史／日本・東洋美術史特論II/宗教芸術・文化II(アジア)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	美術史研究に必要な観察力を習得できる。									
	②	作品記述の内容を他者へ正確に伝達する能力を習得できる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	80	0	0	10	10	100		
教科書											
参考書											

予備知識	「日本美術史」の単位を修得しているのが望ましい。
DPとの関連	芸術文化研究に必要な情報収集力、観察力・洞察力、文章力を鍛錬する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	作品カード8枚(うち4枚素描)(80%)と課題の取り組み・ポートフォリオ提出(20%)で評価する。

単位修得の条件は①出席3分の2以上、②作品カード提出(8枚)をすべて満たしていること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	授業の進め方	講義	作品カードの作成の理解	90
	内容	カード作成のやり方およびポイント			
2回	テーマ	縄文・弥生・古墳時代(第2-3週)	演習(添削指導)	各自作品カード作成する。作品記述は添削を受ける。	180
	内容	土器・青銅器他から1点(1枚目)			
3回	テーマ	飛鳥・白鳳時代(4-5週)	演習(添削指導)	事前にしてきた作品記述の作成、教員による添削指導。	180
	内容	仏像・絵画・工芸から1点(2枚目)			
4回	テーマ	奈良時代(6-7週)	演習(添削指導)	事前にしてきた作品記述の作成、教員による添削指導。	180
	内容	仏像・絵画から1点(3枚目)			
5回	テーマ	平安時代(8-9週)	演習(添削指導)	事前にしてきた作品記述の作成、教員による添削指導。	180
	内容	仏像・絵画から1点(4枚目)			
6回	テーマ	鎌倉一南北朝・室町時代(10-12週)	演習(添削指導)	事前にしてきた作品記述の作成、教員による添削指導。	270
	内容	絵画(1点)、彫刻(1点)(5、6枚目)			
7回	テーマ	桃山一江戸時代(14-16週)	演習(添削指導)	事前にしてきた作品記述の作成、教員による添削指導。	270
	内容	絵画(1点)、彫刻・工芸から1点(7、8枚)			

科目名	芸術学演習Ⅰ（原書講読）（2美）				開講学年	2	講義コード	2674201	区分	選択	
英文表記	Seminar on Arts (Reading Original Texts)				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	アトリテラシー 文章記述力 文章表現力										
授業概要	美術史に関する英語のエッセイ、論文を講読し、英語によるアート・レテラシー（アートの読み書き）の能力を修得する。必ず毎回講読する英文を日本語に訳出し、講義中に学生の訳出した日本語を教員により添削指導する。この演習を通して、実社会における汎用的な日本語の文章表現能力を身につける。							関連科目			
								*芸術文化コース専門科目全般に関係するので、関連科目は個別には表記しない。			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	英語の文献を読むための基礎力を養うことができる。									
	②	現代アートの作品記述、どのように言葉で分かりやすく表現できる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	70	0	10	20	100		
教科書											
参考書											

予備知識	英語Ⅰ/Ⅱ/Ⅲの修得しているのが望ましい。
DPとの関連	造形活動や芸術文化研究における専門家としてのライティング、プレゼンテーション能力を身につける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	①テキスト講読の和訳、質問に対する対応、議論の参加など(20点)、②作品解説スライド(パワーポイント)作成(70点)③SOJOポートフォリオ(10点)

英文テキストを輪読するので、毎回事前に予習を各自してくる。英和辞典を持参（電子辞書可）。単位修得の条件は①出席3分の2以上②課題提出をすべて満たしていること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 序論 この授業の進め方とテキストの解説(第1回)	内容	演習	事前に英文を読み、日本語にしておくこと。うまく予習:日本語にならなくても、問題ないので、一度日本語におとす。復習:講義終了後は、毎回進んだ分の英文を必ず自分の言葉で日本語にする。	90
2回	テーマ テキスト講読 Chapter 1 Objects/Toys Earth Eclipse by Joseph Cornell(第2,3回)	内容	演習	PP.20-21.	180
3回	テーマ テキスト講読 Homage to New York by Jean Tinguely(第4,5回)	内容	演習	PP.22-23.	180
4回	テーマ テキスト講読 Pancakes and Sausages by Claes Oldenburg(第6,7回)	内容	演習	PP.24-25	180
5回	テーマ テキスト講読 'Monument' for V. Tatlin by Dan Flavin(第8,9回)	内容	演習	PP.26-27	180
6回	テーマ テキスト講読 Untitled (Structure that eats salad) by Giovanni Anselmo(第10,11回)	内容	演習	PP.28-29	180
7回	テーマ テキスト講読 Campbell's Soup by Andy Warhol(第12,13回)	内容	演習	PP.30-31	180
8回	テーマ テキスト講読 No Title by Eva Hesse(第14回)	内容	演習	PP.32-33	90
9回	テーマ テキスト講読 More Love Hours than can ever be repaid and The Wages of Sin by Mike Kelley(第15回)	内容	演習	PP.34-35	90
10回	テーマ まとめ 課題提出(上記の訳出)	内容		これまで訳出したものを作品解説スライド(パワーポイント)としてまとめ、期日までに提出する。	

科目名	アートマネジメント論 (2美)				開講学年	2	講義コード	2674401	区分	選必	
英文表記	Art Management Study				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208						オフィス アワー 水曜日5限				
メール アドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	アートワークショップ アートプロジェクト コミュニティ										
授業概要	本講義はアートマネジメントについてその誕生から現在までの動向を探ることによって、アートがなぜ人間に必要なのか、または社会が求めるアートとは何かについて考え、今日求められているアートマネジメントのあり方を受講者と一緒に考えていく。そして、アートマネジメント事例研究を行った上で、アートと社会の関係のあり方をプレゼンテーションにより議論し、社会における「アート」の役割について理解していく。講義受講後、学習した事柄、概念などをテキストで復習するとともに、テキストの次回の内容を精読しておくこと。常日ごろアートプロジェクトの情報にアンテナを立てておくこと。							関連科目			
								美術ジャーナル論/ワークショップ演習/視覚造形実習ⅠA、B、ⅡA、B/学芸員資格に必要な科目			
教職関連 区分								建築学科 のみ	建築 総合	建築 計画	建築 構造
								学修・教育 目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	アートマネジメントについての歴史や基本的な知識を理解できる。									
	②	アートを通して人や社会の関係性を築くことができるかを自分自身で思考できる視点や考え方を理解できる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	20	40	0	10	30	100		
教科書											
参考書											

予備知識	
DPとの関連	造形活動や芸術文化研究に関連して、マネジメント力(なんとか成し遂げる)についての基礎的な知識・能力を身につける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	授業への取り組み30、プレゼンテーション40、レジユメ(課題提出を含む)20、SOJOポートフォリオの提出10の計100。

単位修得の条件は①出席3分の2以上、②プレゼンテーション実施(レジユメ提出含む)のすべてを満たしていること。本講義は2年通年「ワークショップ演習」(実践)と連動している。スライドおよび配布資料にて進める。講義前半は『これからのアートマネジメント』を参考にして、「アートマネジメント」のあり方について解説していく。授業の後半ではアートマネジメントの事例を各自取り上げ、発表し、受講者とともにこれからのアートマネジメントのあり方について討議する。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	序論	講義	本講義の内容・目的の理解	90
	内容	これからのアートマネジメント			
2回	テーマ	これからのアートマネジメントとは?	講義/SGD	テキストの内容を精読しておくこと。	90
	内容	新たなアートマネジメントの可能性 “ソーシャル・シェア”への道			
3回	テーマ	アートマネジメントの歴史①	講義/SGD	該当のテキスト部分を精読しておくこと。	90
	内容	アートマネジメント前史			
4回	テーマ	アートマネジメントの歴史②	講義/SGD	該当のテキスト部分を精読しておくこと。	90
	内容	アートマネジメントの誕生から現在まで			
5回	テーマ	アートマネジメントの仕事①	講義/SGD	該当のテキスト部分を精読しておくこと。	180
	内容	アートの現場/企画・制作の進め方/展示の方法			
6回	テーマ	アートマネジメントの仕事②	講義/SGD	該当のテキスト部分を精読しておくこと。	180
	内容	評価/お金の問題/ダブル・ジューディング			
7回	テーマ	アートマネジメントの思想①	講義/SGD	該当のテキスト部分を精読しておくこと。	180
	内容	人間にはなぜアートが必要なのか?/「場」の力を考える			
8回	テーマ	アートマネジメントの思想②	講義/SGD	該当のテキスト部分を精読しておくこと。	180
	内容	社会はアートを必要としているのか?/文化の多様性を生み出す			
9回	テーマ	プレゼンテーション	AL	アートマネジメント(アートプロジェクト、芸術祭など)事例を各自で取り上げ、調べる。	90
	内容	アートマネジメント事例研究 (第13週)			
10回	テーマ	プレゼンテーション	演習/SGD	アートマネジメント事例研究の成果発表	180
	内容	研究発表&討議 ①② 総括 (第14-15週)			

科目名	視覚造形実習ⅡB(2美)				開講学年	2	講義コード	2674701	区分	必修	
英文表記	Visual Arts Work II B				開講期	後期	開講形態		単位数	8	
担当教員	永田郁(美術) 甲野善一郎(デザイン/写真) 野島泉里(非常勤) 野島マーサ(非常勤)										
研究室	永田A208(芸術学部棟) 甲野D213(芸術学部棟)						オフィス アワー 水曜日5限(永田)				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	アート制作 現代アート ポートフォリオ										
授業概要	本実習は視覚造形実習ⅡAの内容を踏まえ、最終的に受講生による硯川実習棟における作品展示The 3rd Floorを目指す(野島泉里・野島マーサ【非常勤】)。また、それに伴う作品のドキュメンテーションも並行して実施する。その他、甲野クラスでは写真の基本的な撮影技術を学び、アート表現による写真の可能性を学ぶ。永田クラスでは前期に引き続きよしみち展(図書館プロジェクト)制作を行い(11月末まで)、The 3rd Floorに向けての制作を行う。各教員の課題は担当の時間による講評および年度末のThe 3rd floorの講評により学生へのフィードバックを行う。							関連科目			
								視覚造形実習ⅠA、ⅠB、視覚造形実習ⅡA、ⅡB、視覚造形実習ⅢA、ⅢB			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	総合的な表現の成果として硯川実習棟の教室を使用した作品制作を実施し、統合的に表現できるようになる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	20	20	50	10	0	100		
教科書											
参考書											

予備知識	
DPとの関連	造形活動を通して総合的な問題解決の方法を学ぶ。
実務経験のある教員	
評価明細基準	野島泉里・マーサクラスの課題、甲野クラスの課題、永田クラスの課題の点数を平均化し、満点70点とし、ポートフォリオ20点、目標到達度レポート10点、計100点で採点する。

本実習は内容が多岐にわたるため、リエンションおよび掲示・連絡に注意すること。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	野島泉里・マーサクラス(月曜3-4限/金曜3-4限)	実習	本実習の理解、目的の確認	180
	内容	作品制作において必要な要素(暗示・質・普遍・調和等)を課題制作や作品研究を通して理解していく。			
2回	テーマ	作品制作について	実習	作品表現についての研究	360×3
	内容	課題制作Ⅰ			
3回	テーマ	作品制作について	実習	作品表現についての研究	360×3
	内容	課題制作Ⅱ			
4回	テーマ	作品制作について	実習	作品表現についての研究	360×3
	内容	課題制作Ⅲ			
5回	テーマ	作品制作について	実習	作品表現についての研究	360×3
	内容	課題制作Ⅳ			
6回	テーマ	作品制作について	実習	インスタレーション制作(協働制作)	360×4
	内容	課題制作Ⅴ			
7回	テーマ	甲野クラス(写真)(木曜3-4限)	講義	各分野の著名な写真家の作品を解説 世の中の動向と写真写真技術	180
	内容	1.授業内容説明			
8回	テーマ	写真メディア	講義	フィルムカメラとデジタルカメラ 露出計 撮影実験(カラーリバーサルフィルム)	180
	内容	2.カメラのじくみ			
9回	テーマ	写真メディア	講義	自然光 絞りとシャッタースピード、被写界深度について(白黒フィルム)	180
	内容	3.光と影の撮影			
10回	テーマ	写真メディア	実習	4の実習内容の理解	180
	内容	4.白黒フィルムの現像とコンタクトシート			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	写真メディア	実習	5の実習内容の理解	180
	内容	5.白黒フィルムの引き延ばしプリント			
12回	テーマ	写真メディア	実習	スタジオ撮影・ストロボ(白黒フィルム)	180
	内容	6.光と影の撮影			
13回	テーマ	写真メディア	実習	白黒フィルムの現像についての実施と理解	180
	内容	7.白黒フィルムの現像とコンタクトシート			
14回	テーマ	写真メディア	実習	白黒フィルムの引き延ばしプリントの実施と理解	180
	内容	8.白黒フィルムの引き延ばしプリント			
15回	テーマ	写真メディア	実習	物(カラーリバーサルフィルム&デジタル)	180
	内容	9.ストロボのライティング技術			
16回	テーマ	写真メディア	実習	人物(カラーリバーサルフィルム&デジタル)	180
	内容	10.ストロボのライティング技術2			
17回	テーマ	写真メディア	実習	日中シンクロ(カラーリバーサルフィルム&デジタル)	180
	内容	11.ストロボのライティング技術3			
18回	テーマ	写真メディア	実習	デジタル現像について	180
	内容	12.スキャナー入力			
19回	テーマ	写真メディア	実習	カラーマネジメントの考え方	180
	内容	13.処理、補正について			
20回	テーマ	写真メディア	実習	パネル張り	180
	内容	14.インクジェット出力			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	写真メディア	講義	プレゼンテーション	180
	内容	15:プレゼン 作品総講評			
22回	テーマ	永田クラス(水曜3-4限) よりみち展	実習	企画・展示・ワークショップ実施	180× 9
	内容	プラザ図書館プロジェクト制作(第1-9週)			
23回	テーマ	The 3rd Floor	実習/演習	作品制作、ポートフォリオ作成	180×6
	内容	3rd Floorの制作および記録・撮影の実施			
24回	テーマ	The 3rd Floor	講評他	プレゼンテーション	180
	内容	3rd Floor 作品発表会(第16週、2月) ポートフォリオ提出			

科目名	日本画実習ⅣA (3美)				開講学年	3	講義コード	2675001	区分	選必	
英文表記	Japanese Painting IVA				開講期	後期	開講形態		単位数	4	
担当教員	中村 賢次										
研究室	A416						オフィス アワー 水曜昼休み				
メールアドレス	ken1214@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,岩絵具										
授業概要	制作の第一歩である感動という主観性を大切にしながら、作品の内容、テーマ、画材の取り扱いを含めた技術・技法など全プロセスに渡って客観的な制作プランを組み立て、より高度な作品の完成を目指す。更に日本画制作において現代に生きる者として広い視野に立ち、独創的な表現を目指す。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	制作を通じて自己判断能力を高めることができるようになる									
	②	表現するために必要な自身の技術・技法について理解できるようになる									
	③	大作を制作するために必要な全プロセスを理解できるようになる									
	④	現代社会における日本画と自己の役割を認識できるようになる									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席及び制作姿勢10点	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB、日本画実習ⅢA、日本画実習ⅢB、特別演習(日本画)
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	日常的な質疑により理解度を確認する。一作品ごとに合評・採点を行う。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	自由制作	実習	十分な写生を繰り返す	180
	内容	写生及び150号パネル製作			
2回	テーマ	自由制作	実習	感覚的なイメージを具現化する	180
	内容	小下図・草稿制作及び裏打ち			
3回	テーマ	自由制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	180
	内容	墨入れ・地塗り			
4回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
5回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
6回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
7回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
8回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
9回	テーマ	自由制作	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	谷評・採点			
10回	テーマ	自由制作	実習	十分な写生を繰り返す	180
	内容	写生及び50号パネル製作			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	自由制作	実習	感覚的なイメージを具現化する	180
	内容	小下図・草稿及び裏打ち			
12回	テーマ	自由制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	180
	内容	墨入れ・地塗り			
13回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
14回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
15回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	180
	内容	本紙制作			
16回	テーマ	自由制作	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	合評・採点			

科目名	日本画実習ⅣB (3美)				開講学年	3	講義コード	2675101	区分	選必	
英文表記	Japanese Painting IVB				開講期	後期	開講形態		単位数	4	
担当教員	佐藤 和歌子										
研究室	A416						オフィス アワー 水曜昼休み				
メールアドレス	w-sato@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,岩絵具										
授業概要	制作の第一歩である感動という主観性を大切にしながら、作品の内容、テーマ、画材の取り扱いを含めた技術・技法など全プロセスに渡って客観的な制作プランを組み立て、より高度な作品の完成を目指す。更に日本画制作において現代に生きる者として広い視野に立ち、独創的な表現を目指す。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	制作を通じて自己判断能力を高めることができるようになる									
	②	表現するために必要な自身の技術・技法について理解できるようになる									
	③	大作を制作するために必要な全プロセスを理解できるようになる									
	④	現代社会における日本画と自己の役割を認識できるようになる									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席及び制作姿勢10点	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB、日本画実習ⅢA、日本画実習ⅢB、特別演習(日本画)
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	日常的な質疑により理解度を確認する。一作品ごとに合評・採点を行う。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	自由制作	実習	十分な写生を繰り返す	360
	内容	写生及び150号パネル製作			
2回	テーマ	自由制作	実習	感覚的なイメージを具現化する	360
	内容	小下図・草稿制作及び裏打ち			
3回	テーマ	自由制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	360
	内容	墨入れ・地塗り			
4回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
5回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
6回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
7回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
8回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
9回	テーマ	自由制作	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	360
	内容	谷評・採点			
10回	テーマ	自由制作	実習	十分な写生を繰り返す	360
	内容	写生及び50号パネル製作			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	自由制作	実習	感覚的なイメージを具現化する	360
	内容	小下図・草稿及び裏打ち			
12回	テーマ	自由制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	360
	内容	墨入れ・地塗り			
13回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
14回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
15回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
16回	テーマ	自由制作	実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	360
	内容	合評・採点			

科目名	洋画実習ⅣA (3美)				開講学年	3	講義コード	2675401	区分	選必	
英文表記	Oil Painting ⅣA				開講期	後期	開講形態		単位数	4	
担当教員	熊谷有展 永田和之 (非常勤)										
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金5				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	自由制作										
授業概要	自身で課題を見つけての自由制作。自身のイメージを造形化させる。画材を使いこなす。このことを踏まえ、創造的な作品を生み出すキッカケを掴む。							関連科目			
								洋画実習ⅡA、洋画実習ⅡB			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	独自の絵画表現を試みることにより、個性(オリジナリティ)を理解することができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	70	10	20	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	洋画実習ⅢA
DPとの関連	専門的な知識と技術を身につけることで、自身の絵画表現の巾を広げる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	授業への積極的な参加と作品による。

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	制作	実技	オリエンテーション、発想、デッサン、エスキース等	360
	内容	自由制作(イメージと技法) テーマ、構図の決定			
2回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
3回	テーマ	〃	〃	構図の決定	360
	内容	〃			
4回	テーマ	〃	〃	制作	360
	内容	自由制作			
5回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
6回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
7回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
8回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
9回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
10回	テーマ	〃 講評	講評	〃 中間講評	360
	内容	中間講評			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	制作	実技	制作	360
	内容	油彩による制作			
12回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
13回	テーマ	〃 〃	〃	〃	360
	内容	〃			
14回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
15回	テーマ	講評	〃 講評	〃 作品講評	360
	内容	作品講評			

科目名	洋画実習ⅣB (3美)				開講学年	3	講義コード	2675501	区分	選択	
英文表記	Oil Painting ⅣB				開講期	後期	開講形態		単位数	4	
担当教員	熊谷有展 永田和之 (非常勤)										
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金曜日5時限目				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	洋画ⅣB										
授業概要	洋画実習ⅣA(自由制作)をもう一步進めた高度な研究。この授業は、汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理力の内容も含まれている。洋画に関する幅広い表現技法、用具の特性、また、油彩画の歴史についての理解を深める。							関連科目			
								洋画実習ⅢB			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	自己表現ができる									
	②	今後の制作の原点となるものを探ることができる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	70	10	20	100		
教科書	特になし										
参考書	特になし										

予備知識	洋画実習ⅣAと連動する。
DPとの関連	汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理力の内容も含まれている。
実務経験のある教員	
評価明細基準	授業への積極的な参加と作品による

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	制作	実技	オリエンテーション、発想、取材、デッサン、エスキース等	360
	内容	テーマ、構図の決定			
2回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
3回	テーマ	//	//	構図の決定	360
	内容	//			
4回	テーマ	//	//	作家研究による自由制作。各自、自由な発想・テーマに基づいて、よりプロセスを大切にしながら取り組む	360
	内容	油彩による制作			
5回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
6回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
7回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
8回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
9回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
10回	テーマ	講評	// 講評	//	360
	内容	中間講評			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	油彩による制作			
12回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
13回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
14回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
15回	テーマ	講評	" 講評	"	360
	内容	作品講評			

科目名	彫刻実習ⅣA (3美)			開講学年	3	講義コード	2675801	区分	選必	
英文表記	Sculpture trainingⅣA			開講期	後期	開講形態		単位数	4	
担当教員	勝野 眞言 (実務経験)									
研究室	A212					オフィス アワー 火曜日16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	彫刻,人体,観察,粘土									
授業概要	主として粘土を用い人体をモチーフとして人物塑造制作を行う。その中で、可塑性や固まりなどの材料の性質を理解し、観察を通して人の形、量を構成する動きや構造などの造形要素を考察し、彫刻の諸要素の関連を探っていく。授業を進めるなかで、学生各自が制作にあたってのテーマを明確にし、そのテーマに向かって制作することが自己の確認、そして新たな自己への巡り合い、お互いの切磋琢磨の場となるよう授業を組み立て展開する。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。						関連科目			
							彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B/基礎デッサン1、2			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	粘土による制作を通して観察力を深めることができる。								
	②	素材の特性を理解し、制作に活かすことができる。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	20	60	10	10	100	
教科書	プリント									
参考書	プリント									

予備知識	モチーフを人物(ヌード)とする。対象をしっかり観察し、素描により個々の制作意図を固め、粘土による塑造制作へと展開して行く。その中で基本的な造形力を確認して行く。
DPとの関連	客観的な観察力を身に付けるために、対象を深く見つめ、人体の内にある基本的な構造、動勢、比率を素描(平面)と塑造(立体)の両次元から理解を深めて行く中で、課題を通して普遍的かつ幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付ける。【知識・理解】【汎用的技能】【態度・志向性】
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	出席・課題の取り組み・作品の到達度などを考慮し、総合的に評価する。

作業着着用。制作前には空調管理を行うこと。各自制作終了後には整理整頓を行うこと。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	対象の理解	実習	時間をかけた観察により対象の特性を理解する	180
	内容	制作Ⅰ 素描(デッサン)			
2回	テーマ	対象の理解	実習	短時間での対象の特性理解	180
	内容	制作Ⅱ 素描(クロッキー)			
3回	テーマ	対象の理解	実習	制作意図の確認	180
	内容	制作Ⅲ ポーズの決定			
4回	テーマ	構造の理解	実習	芯棒による量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅳ 芯棒制作			
5回	テーマ	対象の理解	実習	量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅴ 粘土付け			
6回	テーマ	対象の理解	実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅵ 中間講評会			
7回	テーマ	対象の理解	実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅶ 作り込み			
8回	テーマ	対象の理解	実習	造形原理の生かし方とその構築について	180
	内容	制作Ⅷ 彫刻の構築			
9回	テーマ	作品の客観的な理解	実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅸ 講評会			
10回	テーマ	対象の理解	実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅹ 作り込み			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
12回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
13回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
14回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
15回	テーマ	対象の理解	実習	同上	180
	内容	同上			
16回	テーマ	作品の客観的な理解	実習	到達度ポートフォリオの作成	180
	内容	講評会 制作の狙いの確認			

科目名	彫刻実習ⅣB (3美)			開講学年	3	講義コード	2675901	区分	選必	
英文表記	Sculpture trainingⅣB			開講期	後期	開講形態		単位数	4	
担当教員	勝野 眞言 (実務経験)									
研究室	A212					オフィス アワー 火曜日 16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	彫刻, 人体, 観察, 粘土									
授業概要	主として粘土を用い人体をモチーフとして人物塑造制作を行う。その中で、可塑性や固まりなどの材料の性質を理解し、観察を通して人の形、量を構成する動きや構造などの造形要素を考察し、彫刻の諸要素の関連を探っていく。授業を進めるなかで、学生各自が制作にあたってのテーマを明確にし、そのテーマに向かって制作することが自己の確認、そして新たな自己への巡り合い、お互いの切磋琢磨の場となるよう授業を組み立て展開する。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。						関連科目			
							彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B、4A/基礎デッサン1、2			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	粘土による制作を通して観察力を深めることができる。								
	②	素材の特性を理解し、制作に活かすことができる。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	20	60	10	10	100	
教科書										
参考書										

予備知識	モチーフを人物(ヌード)とする。対象をしっかり観察し、素描により個々の制作意図を固め、粘土による塑造制作へと展開して行く。その中で基本的な造形力を確認して行く。
DPとの関連	客観的な観察力を身に付けるために、対象を深く見つめ、人体の内にある基本的な構造、動勢、比率を素描(平面)と塑造(立体)の両次元から理解を深めて行く中で、課題を通して普遍的かつ幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付ける。【知識・理解】【汎用的技能】【態度・志向性】
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	出席・課題の取り組み・作品の到達度などを考慮し、総合的に評価する。

作業着着用。制作前には空調管理を行うこと。各自制作終了後には整理整頓を行うこと。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	時間をかけた観察により対象の特性を理解する	180
	内容	制作Ⅰ 素描(デッサン)			
2回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	短時間での対象の特性理解	180
	内容	制作Ⅱ 素描(クロッキー)			
3回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	制作意図の確認	180
	内容	制作Ⅲ ポーズの決定			
4回	テーマ	対象の構造の理解	実習	芯棒による量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅳ 芯棒制作			
5回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅴ 粘土付け			
6回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅵ 中間講評会			
7回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅶ 作り込み			
8回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	造形原理の生かし方とその構築について	180
	内容	制作Ⅷ 彫刻の構築			
9回	テーマ	作品の客観的な理解	実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅸ 講評会			
10回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅹ 作り込み			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	同上	180
	内容	同上			
12回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	同上	180
	内容	同上			
13回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	同上	180
	内容	同上			
14回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	同上	180
	内容	同上			
15回	テーマ	対象の客観的な理解	実習	同上	180
	内容	同上			
16回	テーマ	作品の客観的な理解	実習	到達度ポートフォリオの作成	180
	内容	講評会 制作の狙いの確認			

科目名	鑄造実習B(3美)				開講学年	3	講義コード	2676101	区分	選択	
英文表記	Casting Practice B				開講期	後期集中	開講形態		単位数	2	
担当教員	陶山 伸一 (非常勤)										
研究室	硯川実習室107						オフィス アワー 火曜日16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	,技法,窯,溶解,蠟,ブロンズ										
授業概要	蠟型鑄造に対する理解を深め、実習によって蠟の合わせ方、流し方、窯の組み方、火入れ、焼成、合金の割合、金属溶解、鑄込み、仕上げなどについて、確実に安全な方法を身につける。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。							関連科目			
								彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	蠟型鑄造に対する理解を深めることができる									
	②	安全に作業を行うことができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	10	60	10	20	100		
教科書	プリント										
参考書	プリント										

予備知識	彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B
DP との 関連	1.造形活動を通して培った汎用的造形力・表現力を通して、社会への関わり方や発展に持続的に貢献できる能力を身に付ける。【知識・理解】【汎用的技能】 2.課題を通して幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付ける。【態度・志向性】
実務経験 のある 教員	
評価明細 基準	出席・課題の取り組み・到達度などを考慮し、総合的に評価する。

実習中に適宜指示する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	鑄造技法	実習	講義で工程の流れを知る	80
	内容	蠟型鑄造法とは			
2回	テーマ	鑄造技法	実習	蠟の特性を知る	270
	内容	蠟原型制作			
3回	テーマ	鑄造技法	実習	工程のポイントを学ぶ	450
	内容	窯詰め、焼成 火入れ、鑄型の焼成をする			
4回	テーマ	鑄造技法	実習	工程のポイントを学ぶ	450
	内容	鑄込み			
5回	テーマ	鑄造技法	実習	到達度ポートフォリオの作成	90
	内容	仕上げ 型を割り、湯道、釘を抜く 酸洗い、着色、色止めをする			

科目名	考古学と文化財Ⅱ（保存・修復）（3美）				開講学年	3	講義コード	2676301	区分	選必	
英文表記	Archeology and Cultural Property II : Preservation & Restoration				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	高濱 州賀子（非常勤） 中村 賢次										
研究室	芸術学部 非常勤講師室						オフィス アワー 授業日、講義後の1時間				
メールアドレス	sugako-ta12@cube.ocn.ne.jp										
キーワード	文化財保存 修復										
授業概要	<p>美術学科の人材育成の目標の一つに、美術領域の専門家として基礎的な知識や技術を総合的に身に付けることが挙げられるが、本科目は芸術文化コースの学生のみならず実技コースの学生にとっても、文化財に対する基礎的知識や技術を習得する上で必要不可欠な科目である。文化財保護法の基本理念を基に、文化財としての陶磁器・漆工芸・金工・茶道具・能道具・武具などさまざまな美術品の調査法、保存対策、修復事業の現状を講義する。2016熊本地震により大きな被害を受けた特別史跡熊本城など300件を超える指定文化財、あるいは未指定の文化財や美術品については緊急の保存対策や修復・復原のニーズが生じている。これらの現状と未来像について講義する。本講義は文化財保護主事や教員・学芸員などが関わる文化財保護の専門的知識を修得するもの。また、工芸や絵画等の修復について現場にて実際に体験する機会を設ける。</p>							関連科目			
								考古学と文化財Ⅰ、日本美術史			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	工芸や日本美術の特性を理解。									
	②	文化財保護法の基本理念を理解し、文化財保存の問題点を修得。									
	③	熊本地震による被災文化財の修復と保存について討議。									
	④	絵画・古文書・版画等、紙による文化財の保存や取扱について修得。									
	⑤	茶道具・能道具・武器武具の取り扱いと調査法を修得。									
	⑥	絵画作品の保存と修復、油絵・日本画・版画の修復技法。									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	10	50	0	0	10	30	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本史、日本美術史などの基礎的知識。
DPとの関連	芸術文化研究において培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で芸術文化研究における専門家として芸術文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポートは修復の必要な文化財について具体的な例をあげて報告する。学術的かつ専門的な知識に裏付けられた指針であること、また一般市民にとっても解りやすい説明になっているか等を評価する。小テストやポート・フォリオにより講義内容の理解や学修達成度を見る。また出席日数も評価に加える。

レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	講義	配布する資料について検討する。	任意
	内容	オリエンテーション(概説) 工芸や日本美術の特性を学ぶ。			
2回	テーマ	文化財保護法	講義	文化財保護法を読む。	任意
	内容	文化財保護法について。文化財保護法の基本理念と地域の文化財について解説する。			
3回	テーマ	文化財保存の指針	講義	配布する資料について検討する。	任意
	内容	文化財保存に関する指針について。保存と公開、温湿度、黴や病害虫対策、移動や災害等の対策について講義。			
4回	テーマ	熊本地震による文化財被害	講義	特になし	任意
	内容	熊本地震による文化財被害。熊本地震により300件を超える指定文化財が被災した。その実情を解説する。			
5回	テーマ	熊本城の保存と公開	講義	熊本城の現状について調べる。	任意
	内容	特別史跡熊本城の保存と公開について。熊本地震により甚大な被害を受けた熊本城の修復・復原について検討する。			
6回	テーマ	紙の文化財の調査法	講義	配布する資料について検討する。	任意
	内容	紙の文化財の調査法。書跡・典籍・古文書・版画等、紙による文化財の保存や取扱について。			
7回	テーマ	茶道具の取り扱い	講義	配布する資料について検討する。	任意
	内容	茶道具の取り扱い。茶碗・水指・茶入・棗・花入など茶道具の取り扱いと調査法を学ぶ。			
8回	テーマ	能道具の歴史と特質	講義	配布する資料について検討する。	任意
	内容	能道具の歴史と特質。能楽における道具の役割と歴史的展開。			
9回	テーマ	大名道具の歴史と特質	講義	配布する資料について検討する。	任意
	内容	大名道具の歴史と特質。大名家に伝わる武器武具、調度の歴史と特質を解説。			
10回	テーマ	金工品の取り扱い	講義	配布する資料について検討する。	任意
	内容	金工品の取り扱い。刀や鐔など金工品の歴史と取り扱い。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	文化財資料のデータ保存と資料ネットワーク	講義	配布する資料について検討する。	任意
	内容	文化財資料のデータ保存と資料ネットワークについて。地域における文化財調査資料データの蓄積と、その共有化について解説する。			
12回	テーマ	浄国寺谷汲観音像の修復	講義	配布する資料について検討する。	任意
	内容	浄国寺谷汲観音像の修復。生人形の歴史と修復活動について。			
13回	テーマ	工芸作品の保存と修復	講義	配布する資料について検討する。	任意
	内容	工芸作品の保存と修復。陶磁器や漆工の修復技法。			
14回	テーマ	修復における問題点	講義	配布する資料について検討する。	任意
	内容	補助金活用など資料修復の方法と問題点を検討			
15回	テーマ	日本画・版画の修復技法	実習	特になし	0
	内容	絵画作品の保存と修復2.日本画・版画の修復技法。			

科目名	学外演習（日本画）◎（3美）				開講学年	3	講義コード	2676701	区分	必修	
英文表記	Off-site study (Japanese Painting)				開講期	後期集中	開講形態		単位数	2	
担当教員	中村 賢次										
研究室	A416						オフィス アワー 水曜昼休み				
メールアドレス	ken1214@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画										
授業概要	九州内にある美術館・博物館等の文化施設、及び国又は県指定の重要文化財の見学・視察を行い、芸術や日本文化に接する機会を通して、個々の造形に於ける表現をより広めることを目指す。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習（日本画）			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	過去の優れた作品に接することにより、現代における美術文化の役割と重要性を理解できるようになる									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	0	0	10	出席40点	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB、日本画実習ⅢA、日本画実習ⅢB、特別演習（日本画）
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポート及び出席による採点。

毎回事前に見学・視察先の情報を入手し、それについての理解を深めた上で現地で現物に触れるように準備する。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	美術館・博物館見学	実習	見学予定の展覧会情報の確認とレポートの作成	450
	内容	熊本市現代美術館の見学			
2回	テーマ	美術館・博物館見学	実習	見学予定の展覧会情報の確認とレポートの作成	450
	内容	熊本県立美術館の見学			
3回	テーマ	美術館・博物館見学	実習	見学予定の展覧会情報の確認とレポートの作成	450
	内容	九州内の美術館の見学			
4回	テーマ	重要文化財視察	実習	見学予定の文化財についての情報確認とレポート作成	450
	内容	熊本県内の国宝・重要文化財の視察			
5回	テーマ				450
	内容				
6回	テーマ				450
	内容				

科目名	学外演習（洋画）◎（3美）				開講学年	3	講義コード	2676801	区分	必修	
英文表記	Off-site study(Oilpaintng)				開講期	後期集中	開講形態		単位数	2	
担当教員	熊谷有展 下城賢一										
研究室	L号館A201						オフィス アワー 後期集中				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	美術展見学、見学ノート										
授業概要	見学する展覧会の下調べ。展示してある作品と作家の時代や歴史等の予習。							関連科目			
								洋画実習ⅠB、洋画実習ⅡA、洋画実習ⅡB、洋画実習ⅢA、洋画実習ⅢB、洋画実習ⅣA、洋画実習ⅣB			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	見学レポートにおいて展覧会や作家・作品の魅力を説明することができる									
	②	鑑賞力とプレゼンテーションを強化することができる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	60	20	0	10	10	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	展覧会カタログ										

予備知識	日本美術史、西洋美術史、西洋画特論
DPとの関連	芸術における高度な専門家になるためには、表現する力とそれを支える展覧会見学で身につけた鑑賞力による発想力が必要。
実務経験のある教員	
評価明細基準	鑑賞力、文章力、積極的な授業参加

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	鑑賞 国内外の美術展見学	見学／講義	該当する展覧会・作家や作品について調べておく	任意

科目名	学外演習（彫刻）◎（3美）				開講学年	3	講義コード	2676901	区分	必修	
英文表記	extracurricular exercise				開講期	後期集中	開講形態		単位数	2	
担当教員	勝野 眞言（実務経験）										
研究室	A212						オフィス アワー 火曜日16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	地域,美術館,工房,文化,史跡										
授業概要	<p>地域にある美術館や工房、あるいは文化的な施設や史跡等を視察し、ジャンルを越えて幅広く芸術や作家に触れることによって、制作者としての資質を高めることを目指す。実施内容は、大学が企画した研修等に積極的に参加するか、個人的に視察や研修を行なうこととし、いずれも視察ノートを作成し提出する。本授業を通して汎用的観察力・コミュニケーションスキルを体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。</p>							関連科目			
								彫刻実習4A、4B			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	幅広く芸術に親しみ、理解を深めることができる。									
	②	視察で得た見識を文章にまとめることができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	20	0	20	10	100		
教科書	プリント										
参考書	プリント										

予備知識	彫刻実習1A,1B,2A,2B,3A
DPとの関連	1.地域にある美術館や工房、あるいは文化的な施設や史跡等を視察し、ジャンルを越えて幅広く芸術や作家に触れることによって、制作者としての資質を高めることを目指す。【知識・理解】 2.課題を通して普遍的幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付けることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	視察の回数、プレゼンテーション、視察ノートの内容で評価する

彫刻芸術に対する深い理解者となり、高度な資質を備えた表現者となるために、論理、素材、作家、制作上での技法、コンセプチュアルな表現などの中から興味深いテーマを選び、見学する美術館などを導き出す。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション	講義	授業内容を理解する	90分
	内容	導入			
2回	テーマ	作家研究	学外研修	作家研究のまとめ	270分
	内容	学外視察Ⅰ(美術館など)			
3回	テーマ	作家研究	学外研修	作家研究のまとめ	450分
	内容	学外視察Ⅱ(美術館など)			
4回	テーマ	作家研究	学外研修	作家研究のまとめ	450分
	内容	学外視察Ⅲ(美術館など)			
5回	テーマ	プレゼンテーション	授業	作家研究のまとめ	90分
	内容	学外視察のプレゼンテーション			

科目名	学外演習（視覚）◎（3美）				開講学年	3	講義コード	2677001	区分	必修	
英文表記	Off-Site Study: Visual Arts				開講期	後期・集中	開講形態		単位数	2	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	アートプロジェクト ワークショップ アクティブラーニング										
授業概要	受講者全員で企画立案し、共同制作・展示を行う。テーマ設定から具体的な制作計画まで受講者自ら討議を重ね、役割分担し、受講者共同による作品制作および学外(くまもと森都心プラザ図書館にて)での展示を実施する。学外展示については受講者は事前にどんなものを制作したいか、その参考になる作品、イメージをリサーチしておくこと。公共機関であるくまもと森都心プラザ図書館の職員との協働作業を通して、実社会との繋がりを持つことで、社会に出ることについて認識し、学んでいく。							関連科目			
								視覚造形実習Ⅲ／視覚造形実習Ⅳ／アートマネジメント論／ワークショップ演習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	学外での制作展示を通して協働作業による実行力が養われるようになる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書	「授業の中で指示する」										
参考書	キュレーション「現代アート」をつくったキュレーターたち フィルムアート社 H・ウルリッヒ・オプリスト 藤浩志のかえるワークショップ いまをかえる美術の教科書 3331ARTS CYD 藤浩志監修 クリエイティブ・コミュニティ・デザイン 関わり、つくり、巻き込もう フィルムアート社 紫牟田伸子・編集部 コミュニティ・アートプロジェクト ゼロタテ／絶望をエネルギーに変え、街を再生する アートNPOゼロタテ 中村政人 これからのアートマネジメント”ソーシャル・シエア”への道 フィルムアート社 中川真+フィルムアート社編集部										

予備知識	
DPとの関連	公共的な施設での制作・展示をすることで、実際に生じる様々な問題に対して受講生全員で解決していく実践の場となる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	学外制作展示取り組み等(90)、SOJOポートフォリオ(10)。

本科目は必修科目なので、履修忘れがないよう注意して下さい(3年次後期履修)。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション 授業の概要と進め方(全員出席必修)	講義		90
2回	テーマ 内容	計画・立案編 ①くまもと森都心プラザ図書館見学(4-5月)	見学		180
3回	テーマ 内容 ②学内企画プレゼンテーション および企画修正、再提出(7-8月中)	演習/SGD		180
4回	テーマ 内容 ③学外企画プレゼンテーション@くまもと森都心プラザ図書館 企画修正、再提出(9月中までに完了)	演習/SGD		180
5回	テーマ 内容	実践編 ①採用案の準備、制作(10-11月)	制作		540
6回	テーマ 内容 ②搬入、搬出(11月後半実施)および総括・講評	実施		270

科目名	芸術文化演習Ⅳ◎（４美）				開講学年	3	講義コード	2677201	区分	必修		
英文表記	Art & Culture Studies : Practice IV				開講期	後期	開講形態		単位数	4		
担当教員	関根 浩子 永田 郁											
研究室	A313 A208						オフィス アワー 金曜放課後					
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	文献検索・資料収集 テーマ設定 論文執筆 プレゼンテーション AL、PBL											
授業概要	<p>課題発見力や解決能力を身に付けて論文提出を目指す芸術文化コースの学生にとって必要不可欠な科目である。本科目は、芸術文化演習の最後の科目であり、卒業研究(論文)提出に向けて、研究課題の設定や研究の方法、論文の構成や書き方など、卒業研究(論文)の遂行に必要な一連の事柄(作品やもの見方や考え方を含む)の最終指導を行う。「芸術文化演習Ⅳ」でも、各学生の研究テーマに関する学術論文を数本読みながら、論文や論文の書き方についてさらに知識を深めた後、後半は学生の論文の構成指導・添削指導も開始して完成させ、その一連の作業の中で汎用的解決能力を養う。フィードバックは、プレゼンに対する講評や、論文の赤入れ添削、構成の組み換え等の指導の形で行う。</p>								関連科目			
									芸術文化コースの全科目			
教職関連区分									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	卒業研究のために確実な資料収集が行えるようになる。										
	②	卒業研究のために的確な問題設定ができるようになる。										
	③	卒業研究の方向づけが行えるようになる。										
	④	研究成果を論文の中での的確に展開できるようになる。										
	⑤	研究成果の発表方法に熟達できるようになる。										
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	50	25	0	10	15	100			
教科書	授業の中で個別に指示する											
参考書	授業の中で個別に指示する											

予備知識	テーマに関する深い知識
DPとの関連	芸術文化研究における専門家となるための知識や技術、特に論文執筆のための調査研究方法や技術を身に付けることで、社会においても芸術文化の研究や発展に貢献、寄与できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	平常の討議・口頭発表の内容、提出された小論文もしくはレポート、出席状況、ポートフォリオによって総合的に評価する。

受講生各自の自主的、積極的な取り組みが必要である。また、研究内容の口頭発表、小論文の提出は必須である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	概説	講義	科目のガイダンス	90
	内容	オリエンテーション1			
2回	テーマ	進捗状況報告	講義 演習	研究の進捗状況報告	90
	内容	オリエンテーション2			
3回	テーマ	論文講読	講義 演習	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
4回	テーマ	論文講読	講義 演習	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
5回	テーマ	論文講読	講義 演習	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
6回	テーマ	論文講読	講義 演習	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ文・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
7回	テーマ	論文講読	講義 演習	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
8回	テーマ	論文講読	講義 演習	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
9回	テーマ	論文講読	講義 演習	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文・文献検索・取寄せ・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
10回	テーマ	論文講読	講義 演習	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	論文講読	講義 演習 AL PBL	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
12回	テーマ	論文講読	講義 演習 AL PBL	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
13回	テーマ	論文講読	講義 演習 AL PBL	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
14回	テーマ	論文講読	講義 演習 AL PBL	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
15回	テーマ	論文講読	講義 演習 AL PBL	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
16回	テーマ	口頭発表	講義 演習 AL PBL	研究のP.P.等を使用した口頭発表準備	180
	内容	学生による研究発表			
17回	テーマ	口頭発表	講義 演習 AL PBL	研究のP.P.等を使用した口頭発表準備	180
	内容	学生による研究発表			
18回	テーマ	口頭発表	講義 演習 AL PBL	研究のP.P.等を使用した口頭発表準備	180
	内容	学生による研究発表			
19回	テーマ	口頭発表	講義 演習 AL PBL	研究のP.P.等を使用した口頭発表準備	180
	内容	学生による研究発表			
20回	テーマ	口頭発表	講義 演習 AL PBL	研究のP.P.等を使用した口頭発表準備	180
	内容	学生による研究発表			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	小論文執筆	講義 演習 AL PBL	論文執筆	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
22回	テーマ	小論文執筆	講義 演習 AL PBL	論文執筆・修正(予習・復習)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
23回	テーマ	小論文執筆	講義 演習 AL PBL	論文執筆・修正(予習・復習)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
24回	テーマ	小論文執筆	講義 演習 AL PBL	論文執筆・修正(予習・復習)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
25回	テーマ	小論文執筆	演習 AL P BL	論文執筆・修正(予習・復習)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
26回	テーマ	小論文執筆	演習 AL P BL	論文執筆指導(添削指導を含む)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
27回	テーマ	小論文執筆	演習 AL P BL	論文執筆指導(添削指導を含む)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
28回	テーマ	小論文執筆	演習 AL P BL	論文執筆指導(添削指導を含む)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
29回	テーマ	小論文執筆	演習 AL P BL	論文執筆指導(添削指導を含む)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
30回	テーマ	総括	講義	半期の総括と各学生への今後の指導	180
	内容	研究総括・小論文提出			